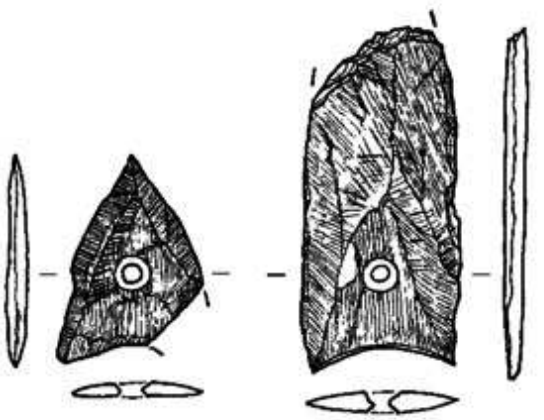
内堀遺跡群 Ⅵ

―大室公園整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査概報―

1994

前橋市教育委員会

内堀遺跡群 VI



H－2号住居址出土の磨製石鏃

前橋市教育委員会

平成５年度調査区全景

土器が掛けられた状態の竈（H－21号住居址）

序

前橋市は、名峰赤城山の裾野に位置し、水と緑の恩恵を受け、今から二万三千年前より連綿と歴史を育んできた足跡が市内のあちこちに残る群馬県の県都です。

市では、活力と魅力ある総合機能都市を目指して、憩いの場、スポーツの場、遊びの場、教養の場としての公園づくりを進めてきています。その事業の一環として、市域東部に広がる田園地帯に、広がりのある景観、豊かで多様な自然、貴重な史跡に恵まれた大室公園を造ることになりました。

内堀遺跡群は、大室公園整備により消滅してしまう遺跡を発掘調査した遺跡群です。発掘調査は、昭和62年度の確認調査を経て、昭和63年度から始まり、本年度で第６年次を迎えました。国指定史跡大室三二子古墳（前二子・中二子・後二子古墳）周辺での調査ということで、これまでに地域の歴史を知る大変貴重な資料を得てきております。

本年度は、大室公園内に位置する五料沼北側の園路・切り土部分3,130㎡を調査しました。その結果、古墳時代から平安時代にかけて集落として引き継がれた住居址44軒、古墳時代から中世までのものと推定できる溝状遺構31条、土坑20基等の遺構、完全な形に復原できそうな土器が100個体以上という多量の遺物の検出等、大室地区の古代の姿をうかがい知ることができ、多大な成果をあげました。

本書は、その調査の概要をまとめたものです。本書が大室地区の歴史を解明する一助となり、大室公園整備、大室三二子古墳整備、資料館建設、古代住居復原等の現在進行している諸事業に少しでも寄与できれば幸いです。

最後になりましたが、調査の実施から報告書の刊行にいたるまで、多大なるご協力をいただきました前橋市公園緑地部を始めとする関係諸機関、ならびに各諸氏に対しまして厚く御礼申し上げます。

平成 6 年 3 月 25 日

前橋市教育委員会

教育長　岡 本 信 正

例　　言

1　本報告書は、前橋市が整備する大室公園に係る内堀遺跡群下縄引Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡は群馬県前橋市西大室町2525番地－1ほかに所在する。

3　調査は、前橋市教育委員会が実施した。調査担当および調査期間は以下のとおりである。

　調査担当者　関口　孝・前原　豊・戸所慎策（文化財保護課埋蔵文化財係）

　発掘調査期間　平成5年4月26日～平成5年8月10日

　報告書作成期間　平成5年11日1日～平成6年3月18日

4　本書の原稿執筆・編集は関口・前原・戸所が行った。整理作業をはじめ報告書の作成には、伊藤孝子・佐藤佳子・高橋弘志・竹内るり子・内藤敦子・内藤貴美子・峰岸あや子・吉田真理子の協力があった。

5　発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課収蔵庫に保管されている。

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に、建設省国土地理院発行の1／20万地形図（長野・宇都宮）と1／5万地形図（前橋）を使用した。

3　本遺跡の略称は5E11である。

4　各遺構・住居址の施設名の略称は次のとおりである。

　U…縄文時代の埋設土器、H…古墳時代の住居址、T…竪穴状遺構、I…井戸、

　D…土坑、W…溝状遺構、S…縄文時代の集石、F…炉址、P…柱穴・貯蔵穴

5　遺構・遺物の実測図の縮尺は次のとおりである。

　遺構　　住居址・土坑・井戸…1／60、全体図1／500

　遺物　　土器・石器…1／3、一部の土器・石器…2／3、1／2

6　スクリーントーンの使用は次のとおりである。

　遺構平面図　　焼土…淡点、炭化物…粗い斑、粘土…細かい斑

　遺構断面図　　火山降下物…濃点、焼土…淡点、粘土…細かい斑、構築面…斜線

　遺物実測図　　須恵器断面…黒塗、繊維含有土器の断面…網、石器使用痕…網

7　遺物分布図のシンボルの使用は次のとおりである。

　●…土器、○…土製品、▲…鉄器、■…石器・石製品

　なお接合状態は実線で結んだが、個体別資料数の多いものは結んでいない。

8　本文中の数値の（　）は現存値を示し、［　］は復原値を表す。

9　火山降下物の略称と年代は次のとおりである。

　As-B（Bテフラ：供給火山・浅間山、1108年）

　Hr-FA（FAテフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）

　As-C（C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半）

目　　次

序

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地 …… 1

2　歴史的環境 …… 3

Ⅲ　調査の経過

1　調査方針 …… 6

2　調査経過 …… 7

Ⅳ　層　　序 …… 7

Ⅴ　遺構と遺物

1　住　居　址 …… 11

2　竪穴状遺構 …… 23

3　井　戸 …… 23

4　土　坑 …… 24

5　溝状遺構 …… 26

6　集　石 …… 29

7　埋設土器 …… 29

8　グリッド出土の遺物 …… 29

Ⅵ　成果と問題点

1　古墳時代前期の集落について …… 29

2　古墳時代後期の集落について …… 34

3　中世の環濠について …… 36

図　版

口絵　1　調査区全景

口絵　2　H－21号住居址の竈

PL. 1　平成5年度調査区全景

2　H－1～6号住居址

3　H－6～8・11～13号住居址

4　H－15～19号住居址

5　H－19～21号住居址

6　H－21～24・26号住居址

7　H－28～34号住居址

8　H－35～38・41・42・44号住居址

9　溝・土坑・集石・記念撮影

10　H－1～7号住居址出土の土器

11　H－15～17号住居址出土の土器

12　H－18・19号住居址出土の土器

13　H－19～21号住居址出土の土器

14　H－21～28号住居址出土の土器

15　住居址・溝・埋設土器・土製品

16　石器・土製品・石製品

挿　図

			頁				頁
Fig.	1	内堀遺跡群の位置	Ⅵ		23	H－16号住居址	53
	2	内堀遺跡群と周辺遺跡	2		24	H－17・18号住居址	54
	3	内堀遺跡群調査全体図	4・5		25	H－19・39号住居址	55
	4	平成5年度グリッド設定図	8		26	H－20号住居址	56
	5	平成5年度発掘調査経過図	9		27	H－21号住居址	57
	6	内堀遺跡群標準土層図	9		28	H－21竈・22号住居址	58
	7	平成5年度遺跡全体図	8・9		29	H－24・26・27号住居址	59
	8	周溝墓と集落	30		30	H－25・34・35号住居址	60
	9	上縄引遺跡と下縄引Ⅱ遺跡出土の土器（1）	32		31	H－28・42号住居址	61
	10	上縄引遺跡と下縄引Ⅱ遺跡出土の土器（2）	33		32	H－29・30号住居址	62
	11	古墳と集落	34		33	H－31～33号住居址	63
	12	竈の構造と貯蔵穴	35		34	H－36・37号住居址	64
	13	中世の内堀遺跡群	37		35	H－38・40・41・44号住居址	65
	14	群馬県内の中世の環濠	38		36	竪穴状遺構・井戸・土坑	66
	15	H－1号住居址	45		37	土坑	67
	16	H－2号住居址	46		38	土坑・集石・埋設土器	68
	17	H－3・4号住居址	47		39	溝状遺構	69
	18	H－5・6号住居址	48		40	H－1号住居址出土の土器	70
	19	H－7・8号住居址	49		41	H－1～5号住居址出土の土器	71
	20	H－9・10号住居址	50		42	H－6・7号住居址出土の土器	72
	21	H－11・12・23号住居址	51		43	H－7～11・13号住居址出土の土器	73
	22	H－13～15・43号住居址	52		44	H－13～17号住居址出土の土器	74
					45	H－17号住居址出土の土器	75

46 H－18・19号住居址出土の土器……76
47 H－19号住居址出土の土器……77
48 H－19・20号住居址出土の土器……78
49 H－20・21号住居址出土の土器……79
50 H－21号住居址出土の土器……80
51 H－21～26号住居址出土の土器……81
52 H－26・28～30・32号住居址
出土の土器……82
53 H－33～38号住居址出土の土器……83
54 H－41・42・44号住居址、
土坑、溝土の土器……84
55 溝・埋設土器・
グリッド出土の土器……85
56 土製品・手握土器・石器……86
57 石器……87
58 石器……88
59 石器・縄文土器・常滑焼……89

表

頁

Tab. 1 内堀遺跡群下縄引Ⅱ遺跡の
住居址名対照表…… V
3 遺物観察表……39～44

頁

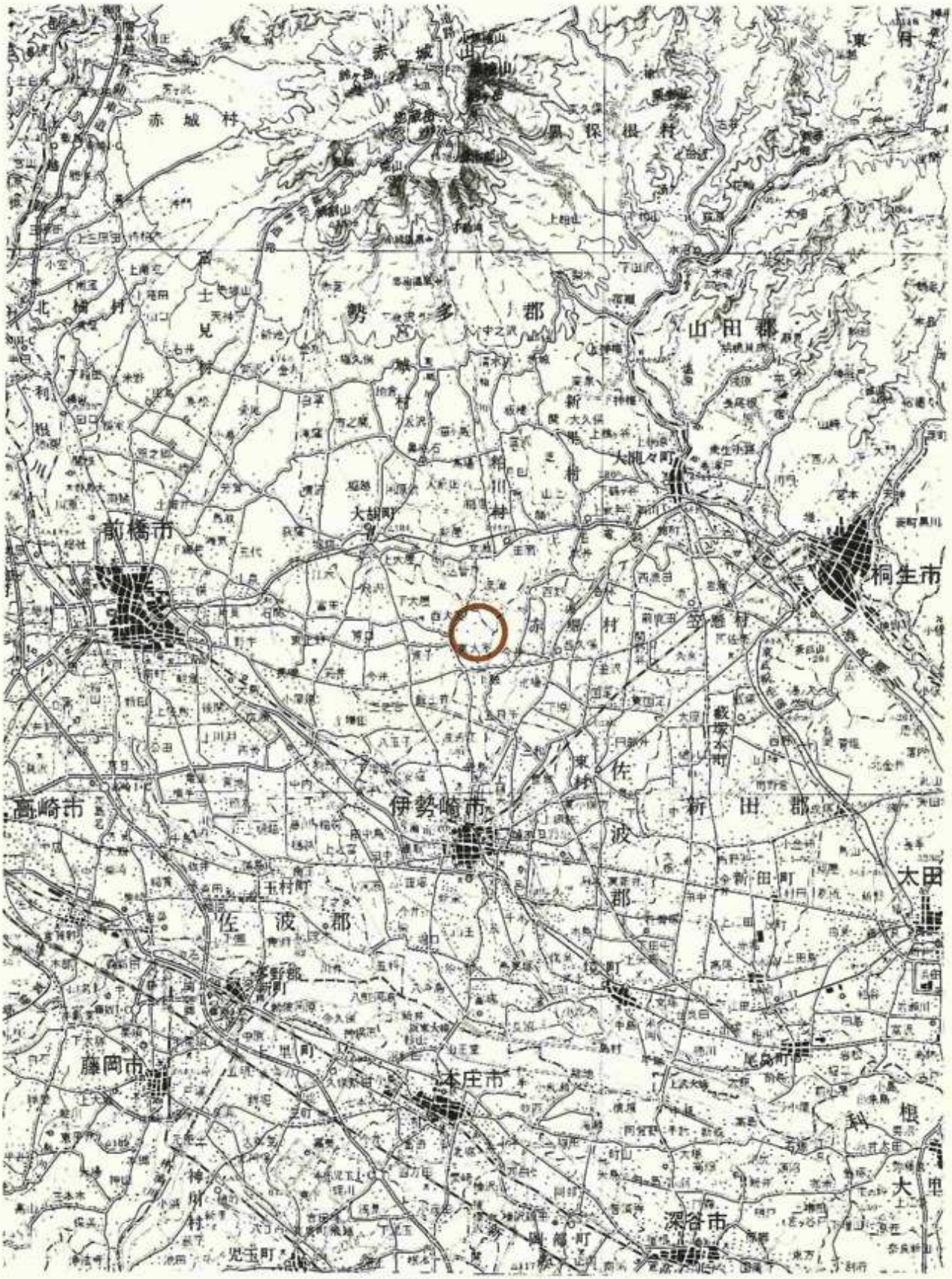
Tab. 2 住居址時期別一覧と
土器片種類の割合……30
4 発掘調査報告書抄録……90

Tab. 1 内堀遺跡群下縄引Ⅱ遺跡の住居址名対照表

『内堀遺跡群Ⅵ』においては、便宜上H－1からH－44の名称を使用したが、
遺跡の住居址連番号は以下の通りとする。

本報告名称	連番名称	本報告名称	連番名称	本報告名称	連番名称
H－1	H－92	H－16	H－107	H－31	H－121
H－2	H－93	H－17	H－108	H－32	H－122
H－3	H－94	H－18	H－109	H－33	H－123
H－4	H－95	H－19	H－110	H－34	H－124
H－5	H－96	H－20	H－111	H－35	H－125
H－6	H－97	H－21	H－112	H－36	H－126
H－7	H－98	H－22	H－113	H－37	H－127
H－8	H－99	H－23	H－114	H－38	H－128
H－9	H－100	H－24	H－115	H－39	H－129
H－10	H－101	H－25	H－116	H－40	H－130
H－11	H－102	H－26	H－117	H－41	H－131
H－12	H－103	H－27	H－118	H－42	H－60
H－13	H－104	H－28	H－88	H－43	H－132
H－14	H－105	H－29	H－119	H－44	H－133
H－15	H－106	H－30	H－120		

Fig. 1　内堀遺跡群の位置



Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市の「大室公園整備事業」に先立って行われたものである。この調査は昭和62年度に始まり今年度で7年目になるが、公園建設予定地の埋蔵文化財を調査し公園設計の基礎資料等にすることが目的である。

昭和62年度は、公園予定地約369,000㎡のうち国指定史跡である前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳や山林、沼などを除く約200,000㎡について東西に10ｍ間隔でトレンチを入れる方法で確認調査を行い、予定地全域についての埋蔵文化財の分布状況を知るとともに、その結果を踏まえ、昭和63年度には予定地の北西部約10,000㎡についての発掘調査を実施した。また、平成元年度は、昭和63年度調査区の西側を中心に約12,600㎡について発掘調査、平成2年度は、昭和63年度と平成元年度の調査区を取り囲む範囲約9,000㎡の発掘調査と約2,500㎡の確認調査を実施した。平成3年度は、平成元年度第Ⅰ調査区の南および西側に隣接したL字形の区域約4,000㎡について、後二子古墳・小二子古墳範囲確認調査とともに発掘調査を実施した。平成4年度は公園予定地の北西部にある自然丘陵の東側と西側の部分約9,400㎡について、前二子古墳の範囲確認調査と並行して発掘調査を実施した。また、M－6号墳の範囲確認調査や一部試掘調査も行った。今年度の調査は、五料沼の北側の部分3,130㎡について、中二子古墳範囲確認調査（二カ年計画の一年次）の前に発掘調査を実施した。調査した部分は公園整備において便益施設が予定されている地域で、記録保存を目的とした調査である。なお、初年度以前の経緯については『内堀遺跡群Ⅰ』に詳しく述べられているので本書では省略する。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

内堀遺跡群が所在する前橋市西大室町は、前橋市の中心市街地から東へ約15kmの所にある。遺跡は国道50号線東大室十字路より北へ2kmで、県道前橋・今井線と県道伊勢崎・深津線の交差点から北東1kmに位置している。またＪＲ両毛線伊勢崎駅から遺跡へは北約7kmにあり、上毛電鉄粕川駅からは南南西に約3kmにある。東側は多田山と呼ばれる火山泥流による丘陵地形があり、赤堀町との境となっている。また、北に接する粕川村とは、七ツ石とよばれる信仰の対象となっている巨石のある丘陵とそれに連なる丘陵地形を行政上の境界としている。

平成5年度の調査区は、内堀遺跡群（公園予定地）の北に位置し、平成4年度の調査区の東側で、五料沼の北側にあたる。調査区の東端は五料沼に流入する小河川になる。

本遺跡群の東端には五料山とよばれる自然丘陵があり、また後二子古墳の南側、さらには前二子古墳が造られた所も丘陵地形となっている。この地区の丘陵地形の基盤は、すべて粗粒安山岩

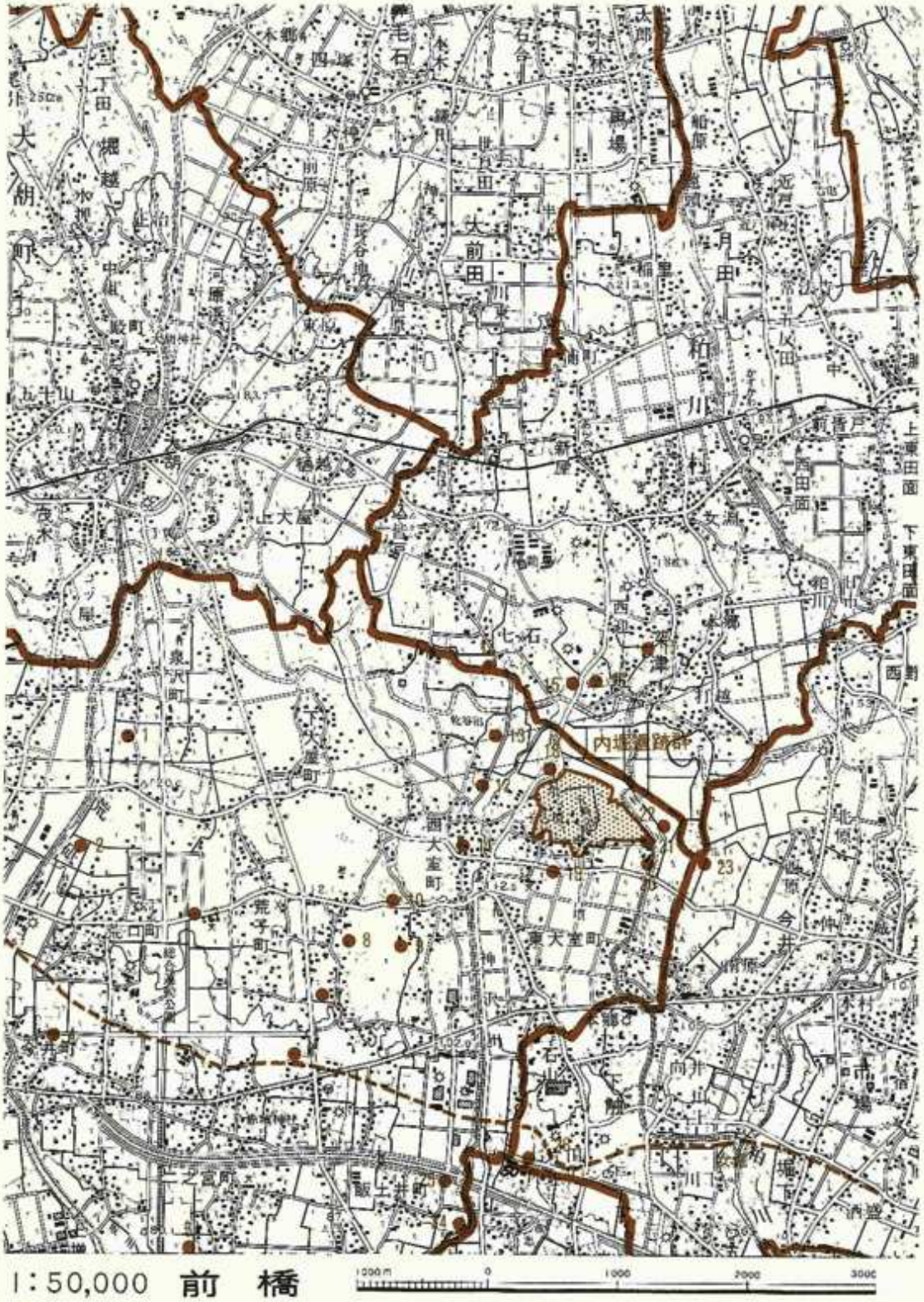


Fig. 2 内堀遺跡群と周辺遺跡

よりなる火山泥流によって形成されており、それらが露出しているのが、七ツ石や石山観音、産泰神社裏の巨石などである。また、平成3年度調査区内から小さな谷地が入り、かつては湧水による小河川があったものと推定される。現在五料山の西側には小河川が流れているが、近世頃にこの谷地の南側に堤を造り、堰止めてできたものが五料沼である。本遺跡のある丘陵の北側には現在水田地帯が広がっているが、下縄引遺跡や粕川村五反田遺跡の存在からこの地域を当時の生産基盤と考えることが難しいため、上記の谷地を含めた南側に生産基盤を求めたい。平成5年度の調査区の標高は128～131ｍである。

2　歴史的環境

内堀遺跡群のある荒砥地区は自然に恵まれた風光明媚な所であるとともに、大室4二子古墳を始めとした周知の遺跡が存在する考古学上にも重要な地域である。そこで、本遺跡群を理解するために周辺の歴史的環境をみてみたい。

まず、旧石器時代の遺跡として、荒砥川流域の洪積台地先端部を中心に荒砥北三木堂遺跡④、また、宮川の沖積地に臨む柳久保遺跡群③においてナイフ形石器、細石刃文化の石器群等が検出され、神沢川の東部にあたる横俣遺跡群㉗では「流れ山」の頂上部からナイフ形石器文化の遺物が出土している。続く縄文時代には、草創期の遺跡として爪形文土器が検出された下触牛伏遺跡㉖がある。二本松遺跡㉕や柳久保遺跡群からは、田戸下層期の土器が出土している。前期の遺跡は、荒砥二之堰遺跡㉔、荒砥上ノ坊遺跡⑥、荒砥上諏訪遺跡⑲など検出例は多い。中期後半の遺跡も多く確認されているが、いずれも5～10軒の中・小規模の集落にとどまっており、赤城村三原田遺跡、赤堀町曲沢遺跡のような大規模遺跡の存在は知られていない。

弥生時代の遺跡は水田耕作に適した沖積地を臨む台地や微高地に立地しており、中期後半から後期の小規模集落が荒砥島原遺跡⑤、荒砥上川久保遺跡⑳、西原遺跡⑯、西迎遺跡⑰などで見られる。古墳時代前期の遺跡としては、本遺跡の北西に隣接する上縄引遺跡⑱をはじめ、北山遺跡⑬、七ツ石遺跡⑭、久保皆戸遺跡㉒、梅木遺跡㉑などがある。この時期の遺跡は、住居出土の土器を見る限り複雑な様相を呈しており、弥生時代後期の樽式・赤井戸式土器はこの時期まで残存し、土師器と共伴する。そのうち、浅間C軽石降下後およびＦＡ降下前の各遺跡の住居は、内堀遺跡群下縄引Ⅱ遺跡の集落に対応するものであると考えられる。また下縄引Ⅱ遺跡の集落の墓域として上縄引遺跡の周溝墓群を考えている。5世紀後半から6世紀代に入ると、赤堀茶臼山古墳㉓をはじめ強大な支配者の存在を暗示する大室4二子古墳が築造され、この地区が当時の中心的様相を呈するようになる。梅木遺跡で検出された首長層の居宅は4二子古墳と何らかの関係があると推定される。このほかに居館址として、荒砥荒子遺跡⑦、丸山遺跡①などがある。また、荒砥荒子遺跡の豪族居宅遺構と関連し、舞台遺跡1号古墳⑧および西大室丸山遺跡⑨があり、豪族の勢力格差により居宅・古墳の規模、祭祀行為に相違があったことがうかがえる。6世紀後半か

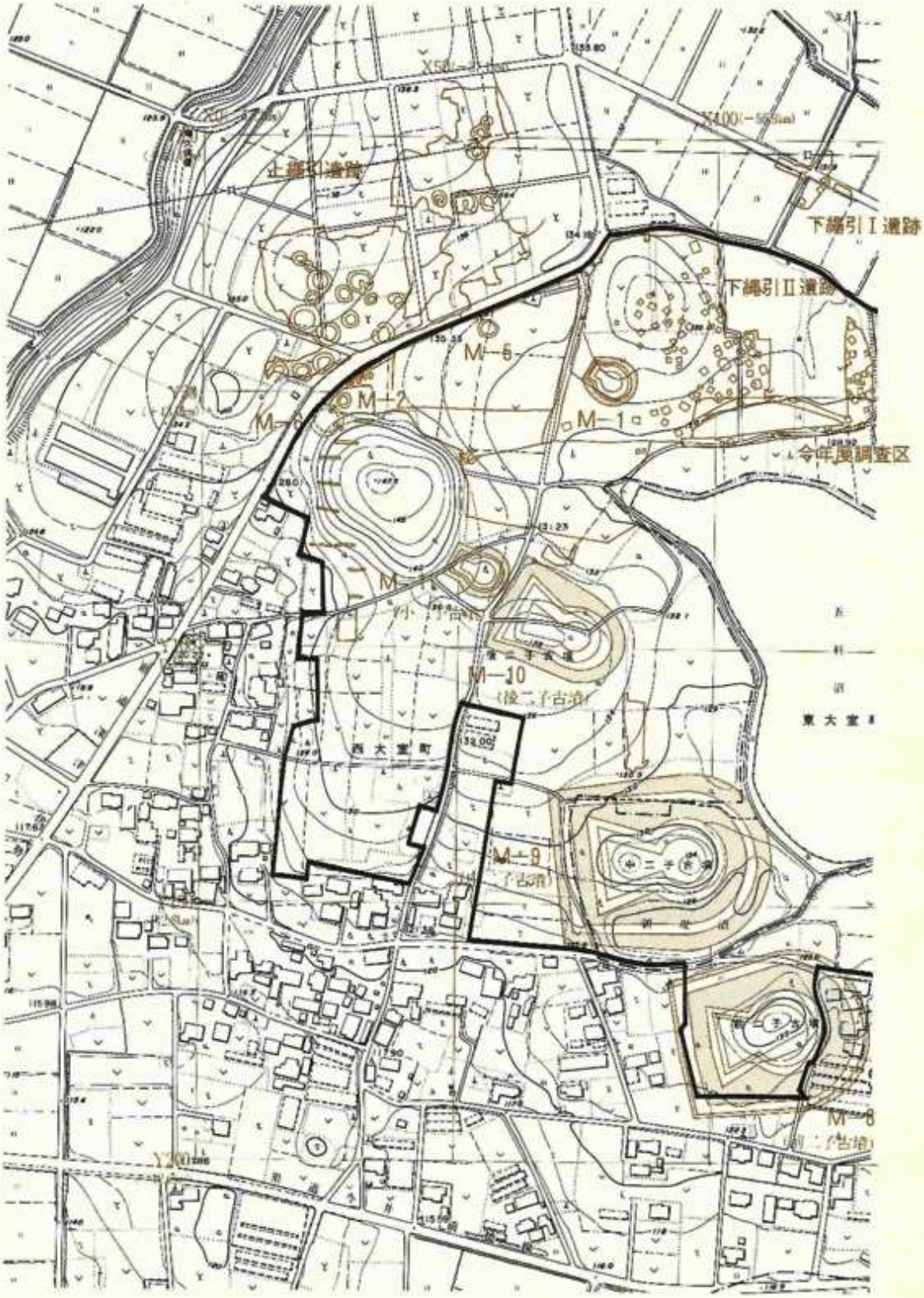
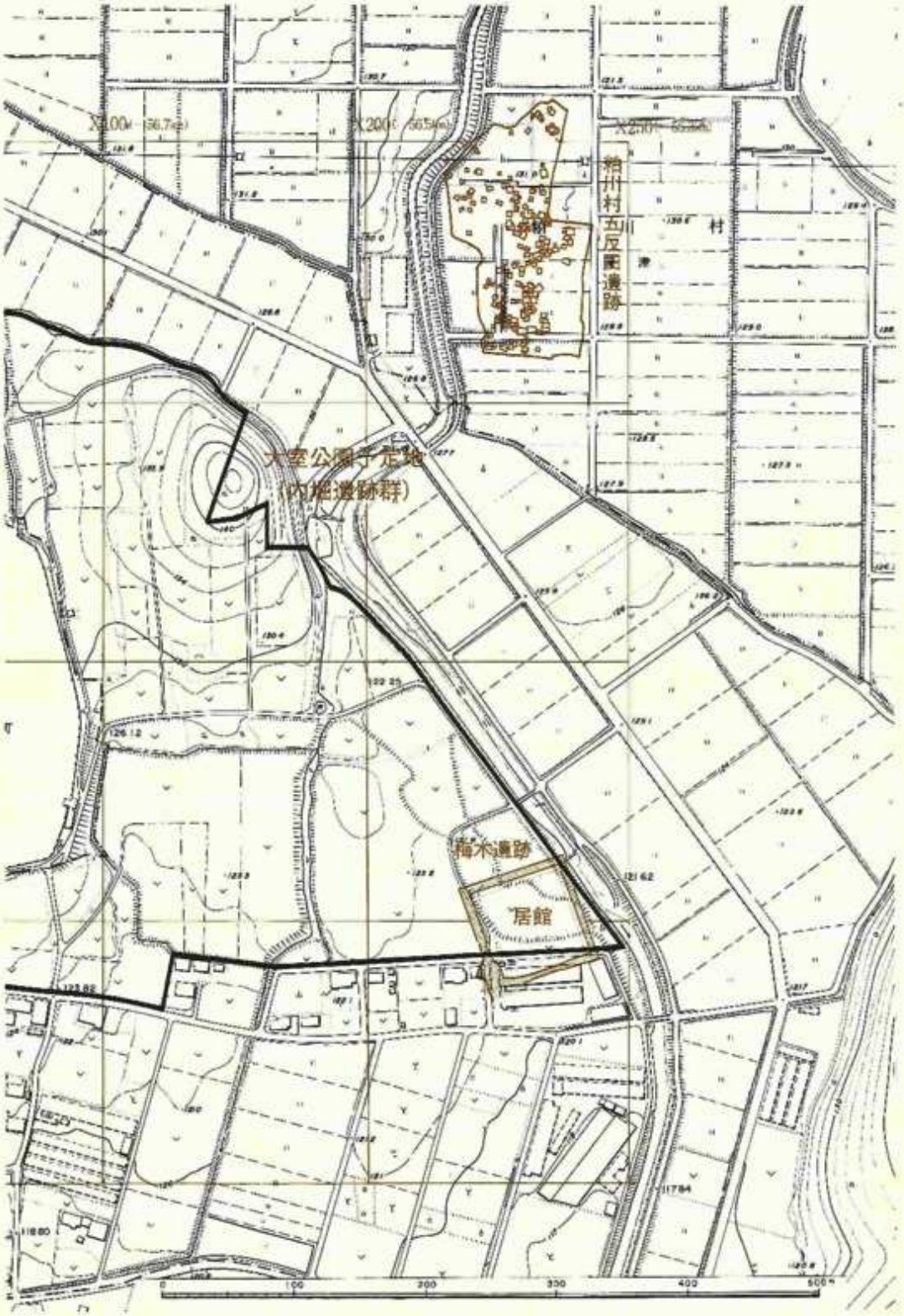


Fig. 3　内堀遺跡群調査全体図


柏川村五反田遺跡
大空公園予定地
(内堀遺跡群)
掘木遺跡
居館
0
100
200
300
400
500m

ら7世紀代に入ると小円墳の群集化が進み、1～3基程度の散在する小円墳も出現するようになり、支配階層の多層化と系列化が進んだことを意味している。粕川村深津の三ケ尻西遺跡⑮では、7世紀後半の製鉄遺構3基と住居跡が確認された。古墳群が密集した地域であることから、有力な豪族が招いた技術者の集落址で鉄製品造りの拠点になっていたと推定される。また、西大室では赤城南麓の古墳時代終末期を代表する截石切組積石室をもつ富士山古墳⑩が築造され、高度な石材加工技術を習得していたことがうかがえる。奈良・平安時代には居住域が台地全体に広がり、水田開発が進み、荒砥諏訪西遺跡②では微高地まで水田化している。また、12世紀の中頃、開削されたとされる女堀の遺構も残存している。また、奈良～平安時代の炭窯址が横俵遺跡群や粕川村の西原古墳群、大胡町の上大屋・樋越地区遺跡群等の近隣市町村から検出されており、当時赤城南麓の近隣で盛んに木炭生産が行われていたことがうかがえる。中世以降の城郭としては、大室城⑪、元大室城⑫、今井城、赤石城などがあり、荒砥北三木堂遺跡などでは多数の墓坑が調査されている。また、井戸や溝など近世の遺構も、多くの遺跡で確認されている。

Ⅲ 調 査 の 経 過

1 調 査 方 針

調査の実施にあたっては、国家座標に基づいて原点を据えた内堀遺跡群全体グリッド（4mグリッドを基本とし、西から東へX0～X250・北から南へY0～Y200グリッドの設定枠）を用いた。ちなみにX125－Y50グリッドは第Ⅸ系の＋43200.000m・－56800.000mで、北緯36° 23′ 15″.8002・東経139° 12′ 00″.4300に当たる。また、平成5年度の調査にあたっては、調査区が大きく3つに分かれるため、調査区東部をA区、西部をB区、C区とし、3区とも全面調査を実施した。調査面積は、A区 1,520㎡、B区 700㎡、C区 910㎡である。

調査には期間的制約があったため掘削用重機を用いて表土の除去を行い、As-Cが混じる黒色土面もしくは、軟質（ソフト）ローム上面を出した。この時点で直ちに古墳時代以降の遺構の確認に入り、並行してグリッド設定、ベンチマーク（水準点）の設置を行った。その後、平板測量で遺構の配置図を作成し、各遺構の調査工程を検討した。具体的には、

1 遺構の掘り下げは、セクションベルトを設けて土層観察を行いながら進める。

2 遺物について、10cm四方以上のものは縮尺1／20にて図化し、それ以下についてはドットで表記した平面図を作成する。取り上げに際しては、遺物台帳に諸属性を記録する。

3 遺構平面図については、原則として縮尺1／20にて作成する。

以上、の方針の下に調査を進めた。

2 調査経過

発掘調査は、平成5年4月より現地調査、発掘事務手続き、公園緑地課との事前協議を十分行ってから現場事務所の設置、発掘調査用具の搬入など本格的な準備を行い、4月26日より発掘調査を開始した。まず調査区域に杭出しが行われていたA区北側からバックフォー（0.7㎥）と4tダンプトラックとで表土掘削を開始し、南側へと移行して行った。5月6日、A区にグリッド・ベンチマークの杭打ち業務を行い、続いてB区→C区の順に表土掘削を進め5月19日に終了した。表土掘削に追従してプラン確認を行い、A区では住居址23軒、溝状遺構10条、土坑3基、B区では住居址6軒、溝状遺構1条、土坑1基、竪穴状遺構1基、C区では住居址8軒、溝状遺構8条、土坑2基、縄文時代後期の埋設土器1基、縄文時代の石器等を検出した。

5月11日より遺構の最も多いA区から掘り下げを開始した。途中、B、C区のグリッド・B.Mの杭打ちを行い、6月8日、調査後の工事をB区から始めたいとの公園緑地課からの要請を受け、A区と並行しB区の掘り下げを開始した。さらに6月16日、C区の掘り下げも開始した。悪天候や湧水による作業の中断が幾度となくあったが、7月30日、掘り下げ・遺物分布図、セクション図作成等の調査が完了し、気球による調査区等の全景写真撮影を実施することができた。8月は各遺構の平面図作成、出土遺物の水洗い・注記、竈・炉址の精査を行い、8月10日、発掘調査を全て終了した。調査の結果、A区より住居址27軒・溝状遺構12条・土坑2基・縄文時代竪穴状遺構1基・集石遺構1基が、またB区より住居址7軒・溝状遺構5条・土坑9基・竪穴状遺構1基、C区より住居址10軒・溝状遺構14条・土坑9基・井戸1基・埋甕1基が検出された。

表土掘削開始日より72日間に及ぶ調査であったが、そのうち18日は雨にたたられ、さらにその影響で、調査区で標高の低いA区南側及びC区は、湧水のため遺構が水没し、排水ポンプを使用しながらの調査が度々あった。そのため当初の計画を何度も修正しながらの調査になってしまった。さらに、A区は表土掘削の段階から現代のゴミ穴が目立ち、プラン確認や発掘作業に際し多くの支障があった。それでも作業員、調査員が一丸となった精力的な調査を実施し、当初の予定より10日ほどの遅れはあったものの無事発掘調査を完了することができた。調査にあたり、住居址の多くがゴミ穴によって破壊されていたことは残念なことであった。また、調査区の埋め戻しについては、公園整備工事との関係から公園緑地課に一任した。

Ⅳ 層　　序

X35－Y126グリッドの土層を基にして本遺跡の標準土層図を作成した。本遺跡は、内堀遺跡群の北部に存在し、約20～30万年前に赤城山の山体崩壊によって、引き起こされた梨木泥流によって形成された「流れ山」を中心とした標高130～137mの丘陵性台地である。「流れ山」の頂上には梨木泥流によって運ばれた大形の礫が一部露出し、土層の堆積も薄く、ちなみにⅦ層のAT

（姶良丹沢パミス）が表面から50～60cm程度で検出できる。この台地と沖積地の比高は６～７ｍである。

Ｉａ層　黒褐色粗砂層。耕作土層。As-B（浅間Bテフラ：1108年降下）を50%以上含む。粘性なく、締まりあり。

Ｉｂ層　黒褐色土層。As-B、As-C（浅間C軽石：４世紀前半降下）、Hr-ＦＰ（榛名二ツ岳

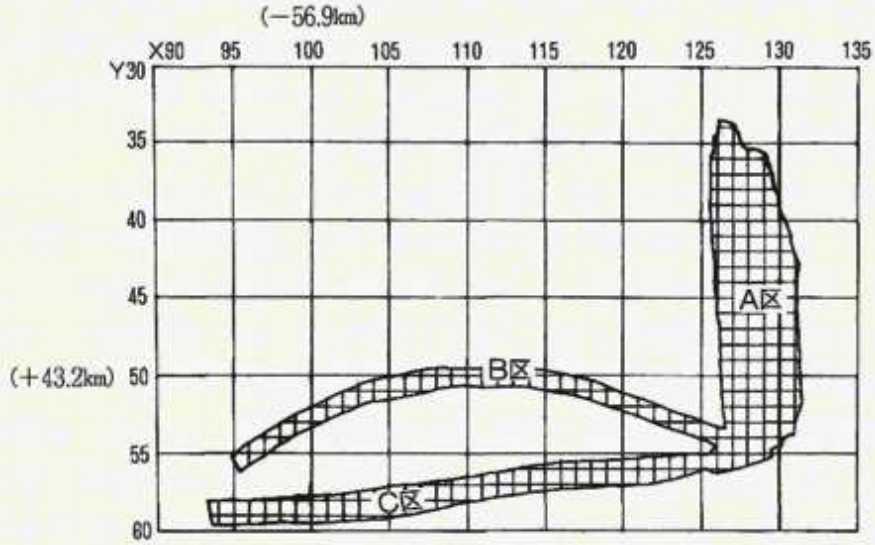


Fig. 4　平成５年度グリッド設定図

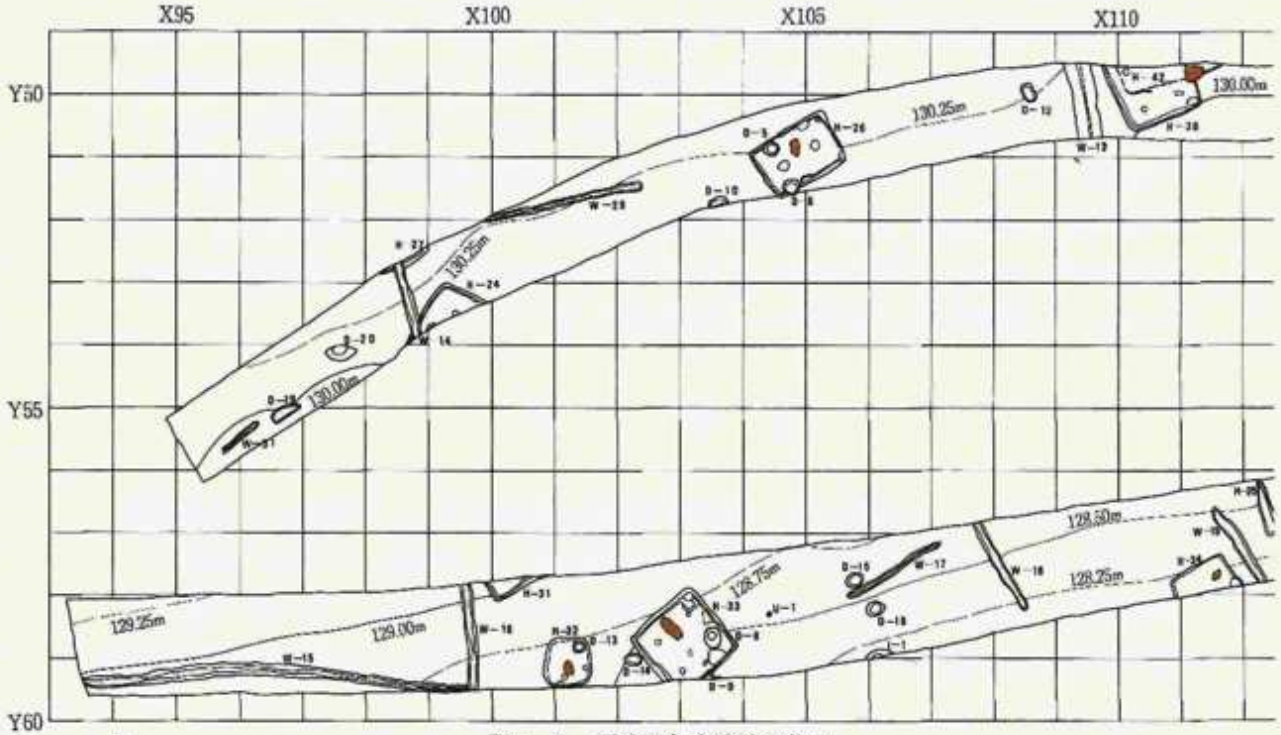
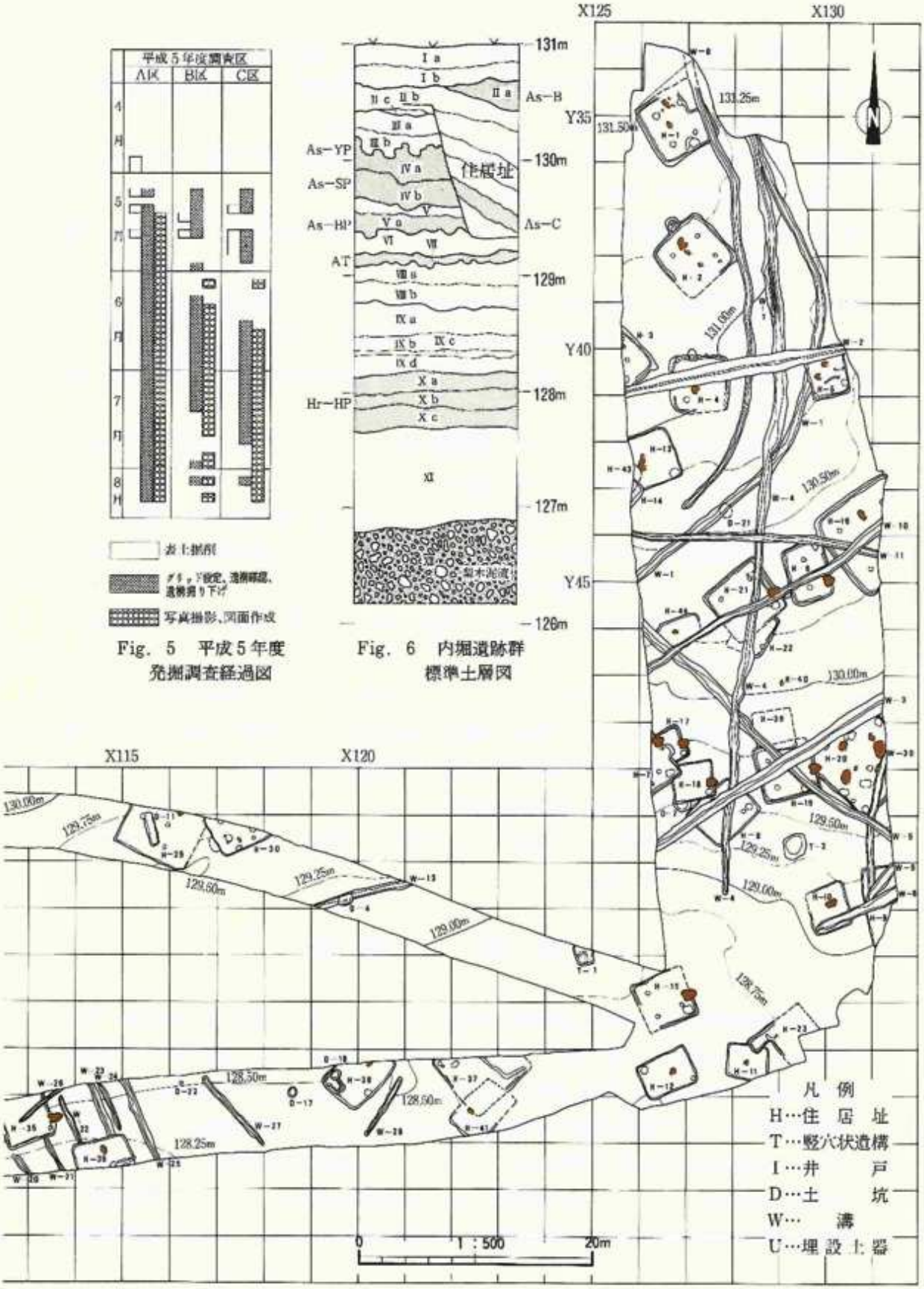


Fig. 7　平成５年度遺跡全体図

Fig. 5 平成5年度発掘調査経過図

Fig. 6 内堀遺跡群標準土層図



軽石：6世紀中葉降下）を含む粗砂層。粘性はないが、締まりはある。

Ⅱa層　As-B純層。天仁元（1108）年に浅間山より降下した軽石層。わずかに間層をはさんで上部にAs-Kk（浅間粕川テフラ）が存在する場合もある。

Ⅱb層　黒色細砂層。As-C、Hr-FP（径20㎜）を15%含む細砂層。粘性を有し、締まりあり

Ⅱc層　暗灰黄色細砂層。粘性は少しあるが、締まりが弱い。

Ⅲ　層　黄褐色細砂層。淡色黒ボク土。ソフトローム層。粘性は少しあるが、締まりが弱い。縄文時代遺物包含層。

Ⅳa層　明黄褐色硬質ローム層。As-YP（浅間黄色軽石：約1.3～1.4万年前）を10%、As-SP（浅間白糸軽石：約1.5万年前）を5%を含む微砂層。粘性があり、硬く締まる。

Ⅳb層　明黄褐色土層。ハードローム層。As-YPを5%、As-SPを10%程度含む微砂層。粘性があり、硬く締まる。

Ⅴ　層　明黄褐色硬質ローム層。As-BP（浅間褐色軽石：1.6～2.1万年前）をブロックで20～30%程度含む層。粘性があり、硬く締まる。

Ⅵ　層　明黄褐色硬質ローム層。As-BPをブロックで15%程度含む層。粘性有し、締まり弱い

Ⅶ　層　明黄褐色微砂層。風化土壌。粘性を有し締まりは弱い。AT（姶良丹沢パミス：約2.1～2.2万前）の含有が極大値を示す。

Ⅷ　層　明黄褐色粘土層。暗色帯。粘性が強く、締まりの弱い粘土層。色調でa・bの2亜層に分類できる。

Ⅸ　層　明黄褐色粘土層。粘性が強く、締まりのある粘土層。a～dの4亜層に分類できる。

Ⅹ　層　明黄褐色軽石層。Hr-HP（榛名八崎軽石：4.1万年前）。3亜層に分類でき、Xa層は比較的大粒な軽石層、Xb層は火山灰層、Xc層は軽石層である。

Ⅺ　層　褐色粘土層。水性堆積で非常に粘性が強い。

Ⅻ　層　青灰色砂礫層。巨礫によって構成される。梨木泥流（約20～30万年前）によって形成されたと考えられる「流れ山」。

Ⅴ　遺　構　と　遺　物

本年度の発掘調査では、住居址44軒・竪穴状遺構2基・井戸1基・土坑20基・溝31条・集石（縄文時代）1基・埋設土器（縄文時代）1基が検出された。残念なことに、調査区の多くは鶏舎や民家を撤去する際に壊した建物の残骸を埋めた大きな穴によりほとんどの遺構が壊されていた。

調査の主体となった古墳時代前期の住居址は35軒を数え、すでに『内堀遺跡群Ⅱ～Ⅳ』で報告されている住居址を合わせると99軒になる。このほかに、古墳時代後期の住居址7軒と平安時代の住居址2軒を検出した。また、竪穴状遺構2基は、古墳時代前期のものであり、土坑の多くは平安時代以降のものと考えられる。溝状遺構は、時代的に多岐にわたるが、多くは平安時代後期

から中世にかけてのものと考えられる。この中で、W－2・3・12・13の溝は平成2年度調査のW－9と接続することが考えられ、中世の館跡を囲む溝と考えられ、本地域の中世を考察する上で重要な遺構となった。さらに、縄文時代の集石遺構や埋設土器が1個体出土した。

1 住 居 址

H－1号住居址（Fig.15・41・56、PL.2・10・16）

位置 A区、X125～127－Y34～36G **重複** W－6に切られる。 **形状** 正方形 **規模** 長軸(5.76)×短軸(5.56)m。確認面までの壁高92cm。 **面積** [31.1]㎡ **方位** N－29°－W **覆土** 4層に大別できる。1a層がAs-Bを含み、1b層にAs-C混じりで、4層にローム土が主体的に入る。 **床面** 全体にわたって堅く踏みしめられていた。 **炉址** 5ヶ所の地床炉。F1・長径74×短径26×深さ5cm、F2・長径34×短径18cm、F3・長径[22]×短径[22]cm、F4・長径[24]×短径[21]cm、F5・長径54×短径36×深さ1cm。 **柱穴** 8個検出。主柱穴4個と貯蔵穴2個。 **貯蔵穴** P3は方形を呈し、P6は東壁をえぐりこんだ横穴形貯蔵穴。 **周溝** 調査範囲では全周。 **ベッド状遺構** 北東隅に長径(220)×短径82×段差7cmの高低差を有する。 **遺物** 出土遺物は総数1,429点である。このうち、赤井戸式土器は4％、樽式系土器は13％、石田川式土器は12％程度占める。赤色した土器片が4点出土。図示した遺物は14個体である。 **備考** 古墳時代前期。北コーナーはカクランにより調査できず。

H－2号住居址（Fig.16・41・56、PL.2・10・16）

位置 A区、X126～128－Y37・38G **形状** 正方形 **規模** 長軸[6.58]×短軸[5.66]m。確認面までの壁高68cm。 **面積** [30.8]㎡ **方位** N－41°－W **覆土** 6層に大別できる。1層がAs-Bを含み、2層がAs-C混じりで、5・6層がローム土を主体とする。 **階段状施設** 北西壁中央部に間口132cm・奥行き114cmの住居外へ掘りこんだ「階段状施設」が存在した。2段の階段状になっており、下から一段目・間口78×奥行き29×高さ23cm、2段目・間口98×奥行き48×高さ38cm。1段目に長径21×短径18×深さ25cmの柱穴、2段目に長径18×短径17×深さ36cmの柱穴。2段目中央部に長径26×短径18cmの焼土。 **床面** ほぼ平坦であり、堅緻面が広がる。間仕切り溝が南壁の中央部やや東よりに長さ80×幅24×深さ5cmで存在。 **炉址** 地床炉を3ヶ所検出。F1・長径104×短径62×深さ10cmの規模で、中央部に炉縁石を用いていた。F2・長径44×短径44cm。F3・長径70×短径23×深さ5cm。 **柱穴** 6個検出。主柱穴4個と柱穴1個と横穴形貯蔵穴1個。 **貯蔵穴** 北西の壁西隅の壁をえぐりこんだ横穴形貯蔵穴。 **周溝** 調査範囲では全周。 **遺物** 遺物は総数1,390点。赤井戸式と石田川式土器は3％と少なく、樽式系土器は12％を占める。赤色した土器片が12点出土。このうち4個体を図示した。 **備考** 古墳時代前期。南コーナーはカクランのため調査できず。

H－3号住居址（Fig.17・41、PL.2）

位置 A区、X124・125－Y39・40G **重複** W－2に切られる。 **形状** 正方形と推定される。 **規模** 長軸(4.40)×短軸(4.06)m。確認面までの壁高98cm。 **面積** (8.6)㎡ **方位** N－45°－W **覆土** 4層に大別できる。4a層がAs-Cの純層である。 **床面** ほぼ平坦であり、堅緻面が広がる。 **炉址** 地床炉を1ヶ所検出。長径(40)×短径(26)×深さ4cmの規模。 **柱穴** 4個の柱穴と1個の貯蔵穴。 **貯蔵穴** 東コーナーに横穴形貯蔵穴。 **周溝** 東壁と南壁の東よりに確認。 **遺物** 総数165点の遺物が出土した。赤井戸式土器は1％と少なく、樽式系土器は13％、石田川式土器は21％の割合である。赤色した土器片が7点出土。このうち2点を図示。 **備考** 古墳時代前期。調査区域外のため東側の調査のみ。

H－4号住居址（Fig.17・41、PL.2・10）

位置 A区、X126・127－Y40・41G **重複** W－2に切られる。 **形状** 正方形 **規模** 長軸5.58×短軸[5.19]m。確認面までの壁高69cm。 **面積** [25.2]㎡ **方位** N－1°－W **覆土** 3層に大別できる。1層は、As-C、Hr-FPを含み、3層は黒色土とローム土の混じり。 **床面** ほぼ全面にわたって堅緻面を検出。 **炉址** 2個検出。F_1は長径(66)×短径(16)×深さ6cmで、F_2は長径140×短径12×深さ5cm。 **柱穴** 主柱穴4個のうち3個と1個の貯蔵穴を検出。主柱穴1個はカクランのため確認できず。 **周溝** 調査範囲では全周。 **遺物** 総数620点。赤井戸式土器は3％、樽式系土器は5％と少なく、石田川式土器が26％と多い。赤色した土器片が11点出土。このうち3点を図示。 **備考** 古墳時代前期。

H－5号住居址（Fig.18・41、PL.2・10）

位置 A区、X129・130－Y39～41G **重複** W－1を切り、W－2に切られる。 **形状** 長方形 **規模** 長軸(4.44)×短軸(3.54)m。確認面までの壁高61cm。 **面積** (15.2)㎡ **方位** N－12°－W **覆土** 3層に大別できる。 **床面** 間仕切り溝が東壁中央部から西へ長さ98×幅16×深さ10cmで存在。中央やや南寄りに東西方向に、長さ約150×最大幅5cmの地割れ。 **炉址** 地床炉を2ヶ所検出。F_1・長径50×短径44×深さ4cmで土器片を使用。F_2・長径56×短径42×深さ5cmの規模。 **柱穴** 柱穴1個と貯蔵穴1個を検出。 **周溝** 南壁に沿って存在。 **遺物** 総数317点の遺物が出土。赤井戸式土器は4％、樽式系土器は13％、石田川式土器は3％の割合である。赤色した土器片が6点出土。このうち6点を図示。 **備考** 古墳時代前期。

H－6号住居址（Fig.18・42、PL.2・10）

位置 A区、X129・130－Y44・45G **重複** W－10・11に切られる。 **形状** 長方形 **規模** 長軸(5.36)×短軸(4.18)m。確認面までの壁高42cm。 **面積** (18.7)㎡ **方位** N－73°－E **覆土** 3層に大別できる。 **床面** ほぼ平坦であり、堅緻面が見られる所があった。 **竈址** 東

壁中央南寄りに位置。主軸方向はN－77°－Eで、全長132cm、幅94cm。構築材に粘土。 **柱穴** 3個検出。2個の主柱穴。 **周溝** コーナー部周辺を除いて存在。 **遺物** 総数647点の遺物が出土。土師器を主体とし、須恵器1点。図示した遺物は3点である。 **備考** 古墳時代後期。

H－7号住居址（Fig.19・42、PL.3・10・16）

位置 A区、X127－Y48・49G **重複** H－17・18を切る。 **形状** 正方形と推定される。東壁の竈の南側に間口114×奥行き80cmの張り出し。 **規模** 東西(4.14)×南北(4.92)m。認面からの壁高41cm。 **面積** (8.7)㎡ **方位** N－36°－E **覆土** 3層に大別できる。1層は黒色土主体で少しAs-Cを含む。 **床面** ほぼ平坦であり、堅緻面が広がる。 **竈址** 東壁に位置。主軸方向はN－44°－Eで、推定全長126cm、推定幅96cmを測る。粘土を主体にした袖は、直線的に造られていた。支柱に石(233)と土器を使用。土器は割れて石の上部に散乱。左袖の端は調査区域外のため調査できず。 **柱穴** 主柱穴4個のうち1個、柱穴1個、貯蔵穴1個を検出。 **遺物** 総数509点の遺物が出土。土師器を主体とし、須恵器12点。図示した遺物は7点である。 **備考** 古墳時代後期。調査区域外のため南東部のみの調査。

H－8号住居址（Fig.19・43、PL.3・10）

位置 A区、X127・128－Y49・50G **重複** H－18を切り、W－3・4に切られる。 **形状** 長方形 **規模** 長軸(5.22)×短軸(4.36)m。確認面までの壁高19cm。 **面積** (20.8)㎡ **方位** N－48°－E **覆土** 1層に大別できる。As-C、ローム土等の混入度により3層に細分される。 **床面** ほぼ平坦で、堅緻面が部分的に広がる。 **炉址** 地床炉1個検出。長径48×短径[44]×深さ6cm。 **柱穴** 3個検出。主柱穴4個のうち2個を確認。 **遺物** 総数212点の遺物が出土した。このうち赤井戸式土器は16%、樽式系土器は6%を占める。石田川式土器は1%と少ない。図示したものは5点。 **備考** 古墳時代前期。

H－9号住居址（Fig.20）

位置 A区、X130・131－Y51・52G **重複** W－8・9に切られる。 **形状** 正方形と推定される。 **規模** 東西(3.06)×南北(6.88)m。確認面までの壁高33cm。 **面積** (14.5)㎡ **方位** N－9°－W **覆土** 2層に大別できる。2a・2b層はAs-C、Hr-FPを含み、2c・2d層はAs-Cを含む。 **床面** ほぼ平坦であり、堅緻面は確認できない。 **遺物** 総数172点の遺物が出土。赤井戸式土器は2%、樽式系土器は5%、石田川式土器は6%程度の割合である。2点の遺物を図示した。 **備考** 古墳時代前期。東側は水路の斜面で削られて調査できず。

H－10号住居址（Fig.20・43、PL.10）

位置 A区、X129・130－Y51・52G **重複** W－8に切られる。 **形状** 長方形 **規模** 東西

[3.62]×南北4.14ｍ。確認面までの壁高12cm。 **面積** (13.6)㎡ **方位** N－17° －W **覆土** 2層に大別できる。1a層はAs-Cを20%、Hr-FPを10%含む。2a層はAs-Cを15%含む。 **床面** ほぼ平坦であり、部分的に堅緻面が広がる。 **炉址** 1個検出。長径96×短径50×深さ12cmの地床炉。 **遺物** 総数55点の遺物が出土。このうち、赤井戸式土器は6%、樽式系と石田川式土器は9%程度の割合である。赤色した土器片が1点出土。図示した遺物は1点である。 **備考** 古墳時代前期。西コーナーはカクランにより調査できず。

H－11号住居址（Fig.21・43、PL.3・10）

位置 A区、X127・128－Y54・55G **重複** H－23に切られる。 **形状** 長方形 **規模** 長軸[3.60]×短軸[3.05]ｍ。確認面までの壁高12cm。 **面積** [9.3]㎡ **方位** N－94° －E **覆土** 2層に大別できる。1層はAs-Cを含む。 **床面** ほぼ平坦であり、炉の東側に堅緻面が広がる。 **炉址** 1個検出。長径34×短径26×深さ6cmの地床炉。 **遺物** 総数113点が出土。赤井戸式土器は5%の割合である。赤色した土器片が1点出土。このうち1個体を図示。 **備考** 古墳時代前期。南東コーナーは調査区域外。

H－12号住居址（Fig.21、PL.3）

位置 A区、X125～127－Y54～56G **形状** 長方形 **規模** 長軸(4.64)×短軸(3.45)ｍ。確認面までの壁高18cm。 **面積** (15.0)㎡ **方位** N－62° －E **覆土** 3層に大別できる。1層はAs-Cを10%含む。2層はAs-Cの混入度等により5層に細分できる。 **床面** ほぼ平坦であり、堅緻面が広がる。二ケ所にカクランが存在。 **炉址** 1個検出。中央東寄りに位置し、長径60×短径44×深さ5cmの地床炉。 **柱穴** 2個の主柱穴を検出。 **遺物** 総数191点の遺物が出土。赤井戸式土器は1%、樽式系土器は2%と少ない。石田川式土器は29%程度の割合である。 **備考** 古墳時代前期。

H－13号住居址（Fig.22・43・44、PL.3・11）

位置 A区、X125・126－Y41・42G **重複** H－14に切られ、H－43を切る。 **形状** 長方形と推定される。 **規模** 東西(4.36)×南北2.64ｍ。確認面までの壁高7cm。 **面積** (18.0)㎡ **方位** N－20° －W **覆土** 2層に大別できる。1層はAs-Cの混入度により2層に細分できる。2a層はAs-Cを7%含む。 **床面** ほぼ平坦であり、炉の西側に堅緻面が広がる。 **炉址** 中央部に1個検出。長径152×短径32×深さ7cmの地床炉。 **貯蔵穴** 貯蔵穴1個を検出。台付甕(54)が出土。 **遺物** 総数249点の遺物が出土。樽式系土器は5%、石田川式土器は30%程度の割合である。赤色した土器片が1点出土。図示したものは7個体である。 **備考** 古墳時代前期。西側は調査区域外。

H－14号住居址（Fig.22・44）

位置 A区、X125・126－Y42・43G **重複** H－13・43を切る。 **形状** 正方形と推定される。 **規模** 東西(1.76)×南北(1.68)m。確認面までの壁高42cm。 **面積** (1.7)㎡ **方位** N－40°－E **覆土** 2層に大別できる。 **床面** 貼床面を検出。 **周溝** 南東壁に検出。 **遺物** 総数132点の遺物が出土。赤井戸式土器は1％、樽式系土器は4％程度と少ない。図示した遺物は1個体である。 **備考** 古墳時代前期。西側は調査区域外。

H－15号住居址（Fig.22・44、PL.4・11）

位置 A区、X125～127－Y53・54G **形状** 正方形 **規模** 長軸[5.02]×短軸[4.57]m。確認面までの壁高39cm。 **面積** [20.9]㎡ **方位** N－68°－E **覆土** 4層に大別できる。 **床面** 南壁寄り中央部に焼土を検出。焼土の中に粘土の塊が入る。全体にわたって堅緻面を検出できた。 **竈址** 東壁中央やや南寄りに位置し、北側半分はカクランにより壊されている。主軸方向はN－73°－Eで、推定全長128cm、推定幅96cmを測る。袖材として石と粘土を用いていた。 **柱穴** 主柱穴4個のうち3個と貯蔵穴1個を確認。 **周溝** 北壁東半分を除いて巡らされている。 **遺物** 総数166点の遺物が出土。土師器を主体とし、須恵器6点。図示したものは3個体である。 **備考** 古墳時代後期。北と南コーナーはカクランで確認できず。

H－16号住居址（Fig.23・44、PL.4・11・16）

位置 A区、X129～131－Y42～45G **重複** W－10・11に切られる。 **形状** 正方形 **規模** 東西[7.94]×南北[8.44]m。確認面までの壁高80cm。 **面積** (37.6)㎡ **方位** N－34°－W **覆土** 6層に大別できる。1層はAs-Bを40％含み、1a層はAs-Bを20％含む。3層はAs-Cの混入度により3層に細分できる。4層はAs-Cを40％含む。 **床面** 西壁中央寄りに粘土の塊とその北に焼土を確認。主柱穴と粘土の周りに堅緻面が分布。 **炉址** 北壁寄り中央に長径92×短径38×深さ9cmの地床炉。 **柱穴** 主柱穴4個のうち3個を検出。 **周溝** 調査範囲では全周。 **遺物** 総数811点の遺物が出土。赤井戸式土器は3％、樽式系土器は6％、石田川式土器は19％程度の割合である。赤色した土器片が18点出土。外来系の土器片3点出土。このうち図示したものは、6個体にのぼる。 **備考** 古墳時代前期。東側は水路の斜面で削られて調査できず。

H－17号住居址（Fig.24・44・45、PL.4・11）

位置 A区、X126・127－Y48G **重複** H－7に切られる。 **形状** 正方形と推定される。 **規模** 長軸[2.96]×短軸2.12m。確認面までの壁高38cm。 **面積** [8.9]㎡ **方位** N－58°－E **覆土** 3層に大別できる。1層はAs-Cを15％、1a層はAs-C、Hr-FPをわずかに含む。2層はAs-Cを15％含む。 **床面** 貼床面を検出。 **竈址** 東壁中央やや南寄りに検出。主軸方向はN－70°－Eで、全長116cm、幅96cmを測る。構築材に粘土と土器を用いる。右袖先端に甕(71)

を逆さに用い、左袖先端には、甕(73)を同様に使用し、竈を補強。支柱に土器(69)を使用。左袖の土器内は粘土を詰め込む。右袖の土器内は焼土主体。支柱の土器内は土器片3点を入れ、粘土を詰め込む。 **柱穴** 貯蔵穴1個を検出。 **周溝** 調査範囲では全周。 **遺物** 総数214点の遺物が出土。このうち図示したものは、9個体にのぼる。 **備考** 古墳時代後期。

H－18号住居址（Fig.24・46、PL.4・12・16）

位置 A区、X126・127－Y48・49G **重複** H－7を切り、H－8とD－2に切られる。 **形状** 正方形 **規模** 長軸[3.18]×短軸[2.84]m。確認面までの壁高30cm。 **面積** [10.9]㎡ **方位** N－78°－E **覆土** 3層に大別でき、ローム土、ロームブロックの混入度により9層に細分できる。 **床面** 竈の周りに堅緻面を確認できた。 **竈址** 東壁中央やや南寄りに検出。主軸方向はN－92°－Eで、推定全長96cm、幅100cmを測る。構築材に粘土と土器片を使用。支柱に高杯(78)の脚部を正位で用いている。 **柱穴** 貯蔵穴1個を検出。 **遺物** 総数318点の遺物が出土。このうち図示したものは5個体である。 **備考** 古墳時代後期。

H－19号住居址（Fig.25・46・47・48、PL.4・5・12・13・16）

位置 A区、X128・129－Y48・49G **重複** H－39とW－3・5に切られ、H－20を切る。 **形状** 正方形 **規模** 長軸5.34×短軸5.04m。確認面までの壁高38cm。 **面積** 24.2㎡ **方位** N－75°－E **覆土** 4層に大別できる。1層はAs-Cを10%、Hr-FPをわずかに含む。2a層はAs-Cを5%含む。4層は焼土、粘土等の混入度により6層に細分できる。 **床面** 南西壁コーナー部に粘土、長径144×短径81×高さ27cmの塊を検出。竈から南に堅緻面が存在。 **竈址** 東壁中央やや南寄りに位置し、主軸方向はN－77°－Eで、全長140cm、幅100cmを測る。構築材に粘土を主体とし、土器を袖に使用。支柱に83の土器を使用。土器内は赤く焼けた粘土が入る。 **柱穴** 4個の主柱穴と貯蔵穴2個を検出する。 **周溝** 全周。 **遺物** 総数1,274点の遺物が出土。このうち23個体を図示。土師器を主体とし、須恵器10点。 **備考** 古墳時代後期。

H－20号住居址（Fig.26・48・49、PL.5・13）

位置 A区、X129・130－Y47～49G **重複** H－19とW－3・30に切られる。 **形状** 正方形 **規模** 長軸[7.80]×短軸[7.80]m。確認面までの壁高33cm。 **面積** [54.6]㎡ **方位** N－45°－E **覆土** 4層に大別できる。 **床面** 堅緻面を確認できず。 **炉址** 6個の地床炉を検出。F_1・長径84×短径68×深さ9cm、F_2・長径124×短径80×深さ8cm、F_3・長径39×短径22×深さ5cm、F_4・長径80×短径44×深さ10cm、F_5・長径152×短径94×深さ9cm、F_6・長径74×短径38×深さ6cm。 **柱穴** 11個検出。 **周溝** 検出した範囲では全周。 **遺物** 総数638点の遺物が出土。このうち図示したのは15点である。樽式系10%、赤井戸系7%、石田川式7%の割合である。赤色した土器片が6点出土。 **備考** 古墳時代前期。東側はカクランで調査できず。

H－21号住居址（Fig.27・49・50・51、PL.5・6・13・14・15）

位置 A区、X127～129－Y44・45G **重複** H－22を切り、W－4・10に切られる。 **形状** 正方形 **規模** 長軸[5.74]×短軸[5.32]m。確認面までの壁高79cm。 **面積** [29.3]㎡ **方位** N－52°－E **覆土** 3層に大別できる。 **床面** 堅緻面を検出。南壁中央部に粘土の塊を検出するが、西側がカクランのため範囲確認が不十分。 **竈址** 東壁中央やや南寄りに位置し、主軸方向はN－53°－Eで全長126cm、幅90cmを測る。袖の形状は直線的に構成される。構築材に凝灰岩等の石材と粘土を主体として用いていた。燃焼部に掛けた状態の土器を4個検出。手前に甕134、奥に135が直立し、134に119が乗せられ、118が内部に入っていた。134の下には、支柱128が存在。支柱に土器を使用し、中は粘土が入る。 **柱穴** 主柱穴4個のうち3個と柱穴2個と貯蔵穴1個を検出。 **周溝** 南壁を除いて検出。 **遺物** 総数2,717点の遺物が検出。このうち図示できたのは、18点である。土師器を主体とし、須恵器9点。焼けた粘土塊多数。焼失家屋であるため、土器を作る粘土が偶然焼けたものと考える。そのうち2点を図化。 **備考** 古墳時代後期。

H－22号住居址（Fig.28・51、PL.6）

位置 A区、X128－Y45・46G **重複** H－21とW－4に切られる。 **形状** 長方形 **規模** 長軸[3.98]×短軸[3.22]m。確認面までの壁高37cm。 **面積** [11.9]㎡ **方位** N－29°－E **覆土** 3層に大別できる。1a層はAs-Cを20%、Hr-FPを5%含む。 **床面** 全体的に堅緻面が存在した。 **炉址** 住居中央やや西寄りに、長径48×短径25×深さ5cmの地床炉を検出。 **周溝** 北東コーナーから東壁の中央部までと、南壁の調査範囲に確認。 **遺物** 総数78点と遺物の数は少なかった。このうち図示できたのは、1点である。赤井戸式土器は9%、樽式系土器は15%。石田川式土器は1%程度と少ない。 **備考** 古墳時代前期。西側はカクランで調査できず。

H－23号住居址（Fig.21・51、PL.6）

位置 A区、X128・129－Y54・55G **重複** H－11を切る。 **形状** 不明。北西に張り出し部を検出。 **規模** 長軸(3.16)×短軸(2.52)m。確認面までの壁高65cm。 **面積** (4.2)㎡ **方位** N－53°－E **覆土** 3層に大別できる。1a層はAs-C、Hr-FPをわずかに含み、2c層はAs-Cを10%含む。 **床面** 全体にわたって堅緻面が確認された。 **周溝** 調査範囲では全周。 **遺物** 総数55点の遺物が出土。このうち1点を図示。赤井戸式と樽式系土器は2%、石田川式土器は5%程度の割合である。 **備考** 古墳時代前期。東側はカクランで調査できず。

H－24号住居址（Fig.29・51、PL.6）

位置 B区、X98・99－Y53G **重複** W－14に切られる。 **形状** 正方形と推定される。 **規模** 東西(3.56)×南北(4.64)m。確認面までの壁高61cm。 **面積** (7.0)㎡ **方位** N－27°－E **覆土** 4層に大別できる。3a層がAs-Cの純層。 **床面** 堅緻面が検出できた。 **炉址** 西壁中

央寄りに位置し、長径54×短径（15）×深さ8cmの地床炉。 **柱穴** 主柱穴1個と横穴の貯蔵穴1個を検出。 **周溝** 調査範囲では全周。 **遺物** 総数52点と遺物は少なかった。このうち図示したものは、1点である。赤井戸式土器は10%、樽式系土器は23%程度の割合である。 **備考** 古墳時代前期。南側は調査区域外。

H－25号住居址（Fig.30・51）

位置 C区、X112－Y56・57G **重複** H－35に切られる。 **形状** 不明。 **規模** 東西(0.66)×南北(3.16)m。確認面までの壁高11cm。 **面積** (1.3)㎡ **方位** N－14°－W **床面** 堅緻面が検出できず。 **遺物** 総数2点の遺物が出土。 **備考** 古墳時代前期。北側は調査区域外。

H－26号住居址（Fig.29・51、PL.6・14・16）

位置 B区、X104・105－Y50・51G **重複** D－5～7に切られる。 **形状** 長方形 **規模** 長軸5.62×短軸3.78m。確認面までの壁高57cm。 **面積** 19.6㎡ **方位** N－59°－E **覆土** 5層に大別できる。1層はAs-Cを20%含み、2層はAs-Cの混入率の違いによって2層に細分でき、3層はAs-Cのブロックを80%含む。 **床面** 全面にわたって堅緻面が確認された。 **炉址** 地床炉を1個検出。住居中央やや北に位置し、長径118×短径48×深さ6cmの地床炉。中央部に炉体土器を使用。 **柱穴** 主柱穴2個、柱穴5個、貯蔵穴1個を検出。 **周溝** 西壁と東壁の一部を除いて全周。 **遺物** 総数382点の遺物が出土。赤井戸式土器は5%、石田川式土器は3%と少ない。樽式系土器は21%を占める。赤色した土器片が3点出土。このうち図示したものは、6点である。 **備考** 古墳時代前期。

H－27号住居址（Fig.29）

位置 B区、X98－Y52G **重複** W－14に切られる。 **形状** 調査範囲が少ないため不明。 **規模** 東西(3.36)×南北(0.44)m。確認面までの壁高42cm。 **面積** (0.8)㎡ **方位** N－26°－W **覆土** 4層に大別できる。1層はAs-C、ローム・ブロック等の混入率の違いによって2層に細分できる。 **床面** 堅緻面は確認されず。 **柱穴** 1個検出。 **備考** 古墳時代前期。調査区域外のため、南壁のみの調査。

H－28号住居址（Fig.31・52、PL.7・14・16）

位置 B区、X109～111－Y49・50G **重複** H－42を切る。 **形状** 正方形 **規模** 長軸5.98×短軸(5.12)m。確認面までの壁高42cm。 **面積** (18.3)㎡ **方位** N－68°－E **覆土** 3層に大別できる。1層はAs-C、Hr-FPを5%、2層はAs-C、Hr-FPを3%含み2層に細分できる。 **床面** ほぼ平坦な床で、全体に堅く踏みしめられていた。中央部に東西方向に地割れ2本を検出。西側の地割れは、長さ約160×幅（最大）14×深さ（最大）26cm、東側の地割れは、長

さ約106×幅(最大)13×深さ(最大)14cmを測る。 竈址 東壁中央やや南寄りに位置し、主軸方向はN－80°－Eで、全長116cm、幅104cmを測る。構築材は粘土を主体とし、袖は石で補強する。柱穴 主柱穴4個のうち3個と貯蔵穴1個を検出。 周溝 南壁と西壁にそって確認。 遺物 総数1,026点の遺物が出土。土師器を主体とし、須恵器62点。このうち図示したのは、5個体である。 備考 平安時代。調査区域外のために南側2／3の調査。

H－29号住居址（Fig.32・52、PL.7）

位置 B区、X114～116－Y49～51G 重複 H－30とD－11に切られる。 形状 正方形 規模 東西[6.54]×南北(5.28)m。確認面までの壁高13cm。 面積 (28.5)㎡ 方位 N－28°－E 覆土 2層に大別できる。1a層はAs-Cをわずかに含み、As-Bを30%含む。2a層はAs-Cをわずかに含み、As-Bを10%含む。 床面 平坦な床で固くない。 炉址 中央部東寄りに位置するが、調査区域外のため南側半分のみ確認。長径(64)×短径(32)×深さ9cm。 柱穴 4個の柱穴を検出する。 遺物 総数421点の遺物が出土。赤井戸式と樽式系土器は1%、石田川式土器は5%と少ない。赤色した土器片が7点出土。このうち図示した土器は2個体である。 備考 古墳時代前期。北側は調査区域外。

H－30号住居址（Fig.32・52、PL.7）

位置 B区、X116～118－Y50G 重複 H－29を切る。 形状 正方形 規模 東西[4.80]×南北[4.36]m。確認面までの壁高30cm。 面積 (9.9)㎡ 方位 N－26°－W 覆土 5層に大別できる。 床面 堅緻面を検出。南西隅寄りP₂の南に粘土の塊と西に焼土範囲を検出。柱穴 主柱穴4個のうち3個と柱穴4個を検出。 遺物 総数45点の遺物が出土。赤井戸式土器は36%と多く、樽式系と石田川式土器は4%と少ない。このうち図示したのは3個体である。備考 古墳時代前期。北側は調査区域外。

H－31号住居址（Fig.33、PL.7・16）

位置 C区、X99・100－Y57・58G 形状 南西隅のみの調査のため不明。 規模 東西(3.36)×南北(1.72)m。確認面までの壁高78cm。 面積 (2.8)㎡ 方位 N－33°－W 覆土 3層に大別できる。1層はAs-Cを30%、Hr-FPをわずかに含む。 床面 堅緻面を確認。炭化物を含む焼土層を検出。 周溝 調査範囲では全周。 遺物 総数34点の遺物が出土。赤井戸式土器は5%、樽式系土器は2%である。赤色した土器片が3点出土。 備考 古墳時代前期。焼失家屋。南西隅のみ調査。

H－32号住居址（Fig.33・52、PL.7・16）

位置 C区、X100・101－Y58・59G 形状 正方形 規模 長軸3.30×短軸3.02m。確認面ま

での壁高35cm。 **面積** 8.5㎡ **方位** N－1°－E **覆土** 4層に大別できる。1～3層はAs-C、Hr-FPの混入率の違いによってそれぞれ3層に細分できる。4層は焼土主体。 **床面** ほぼ平坦な床で、炉址周辺に堅緻面を検出。 **炉址** 中央部南寄りに位置し、長径112×短径54×深さ8cmの地床炉。 **柱穴** 2個の柱穴が存在。 **遺物** 総数78点の遺物が出土。赤井戸式土器は3％と少ない。樽式系土器は19％、石田川式土器は10％である。このうち図示したものは、2個体である。 **備考** 古墳時代前期。

H－33号住居址（Fig.33・53、PL.7・15・16）

位置 C区、X102・103－Y57～59G **重複** D－8・9に切られる。 **形状** 正方形 **規模** 長軸5.38×短軸5.26m。確認面までの壁高90cm。 **面積** 26.7㎡ **方位** N－41°－W **覆土** 6層に大別できる。1層はAs-Cを20％、Hr-FPをわずかに含み、2層はAs-C、Hr-FPをわずかに含む。 **床面** ほぼ平坦な床で、堅緻面を検出。南東壁寄りの中央部に粘土の塊で長径20×短径14×高さ5cmを検出。 **類ベッド状遺構** 北隅に長径83×短径77×高さ5cmと東壁中央部分に長径79×短径54×高さ5cmの高まりを検出。 **炉址** 2個検出。F_1は西壁中央寄りに位置し、長径176×短径65×深さ10cm、中央部に粘土の塊を検出した地床炉。F_2は中央部南寄りに位置し、長径30×短径10×深さ2cmの地床炉。 **柱穴** 主柱穴4個と柱穴1個と貯蔵穴2個を検出。 **周溝** 調査範囲では全周。 **遺物** 総数475点の遺物が出土。赤井戸式土器は6％、樽式系土器は12％。石田川式土器は1％と少ない。赤色した土器片が5点出土。このうち図示したものは、7個体である。 **備考** 古墳時代前期。南コーナーは調査区域外のため未調査。

H－34号住居址（Fig.30・53、PL.7・15）

位置 C区、X110・111－Y57・58G **形状** 正方形と推定される。 **規模** 東西4.16×南北(2.73)m。確認面までの壁高54cm。 **面積** (7.6)㎡ **方位** N－30°－W **覆土** 3層に大別できる。1層はAs-Cを20％、Hr-FPをわずかに含み、2層はAs-C、Hr-FPをわずかに含む。 **床面** 堅緻面を確認。 **炉址** 北東コーナーに位置し、長径74×短径54×深さ9cmの地床炉で炉縁石を使用。 **貯蔵穴** 横穴形の貯蔵穴1個を検出。 **遺物** 総数203点の遺物が出土。赤井戸式土器は12％を占める。樽式系土器は2％、石田川式土器は3％と少ない。このうち図示したのは2個体である。 **備考** 古墳時代前期。調査区域外のため北半分のみ調査。

H－35号住居址（Fig.30・53、PL.8）

位置 C区、X112・113－Y55～57G **重複** H－25を切り、W－21・26に切られる。 **形状** 正方形と推定される。 **規模** 長軸東西5.24×南北(4.56)m。確認面までの壁高27cm。 **面積** (18.2)㎡ **方位** N－22°－W **覆土** 4層に大別できる。 **床面** 中央部分に堅緻面を確認。東壁中央部よりに長径(84)×短径(43)cmの焼土を検出。 **竈址** 東壁南寄りに位置し、主軸方向

はN－68°－Eで、全長126cm、幅100cmを測る。構築材に粘土を主体として用いていた。 **柱穴** 柱穴1個を検出。 **周溝** 調査範囲では、竈址南を除いて全周。 **遺物** 総数176点の遺物が出土。このうち図示したのは1個体である。 **備考** 平安時代。調査区域外のため南半分のみ調査。

H－36号住居址（Fig.34・53、PL.8）

位置 C区、X113～115－Y56・57G **重複** W－22・23に切られる。 **形状** 正方形と推定される。 **規模** 東西3.00×南北(5.06)m。確認面までの壁高45cm。 **面積** (11.9)㎡ **方位** N－11°－W **覆土** 2層に大別できる。 **床面** 堅緻面を確認。 **馬蹄形状施設** P_2・P_3を取り囲むように、東壁中央部よりに段差5～10cmの高低差が有る。南側は調査区域外のため確認できず。 **炉址** 長径80×短径56×深さ8cmの地床炉。 **柱穴** 柱穴3個を検出。 **遺物** 総数213点の遺物が出土。赤井戸式土器は0.5%、樽式系土器は1%と極めて少ない。石田川式土器は6%である。赤色した土器片が1点出土。このうち図示したのは1個体である。 **備考** 古墳時代前期。調査区域外のため北半分のみ調査。

H－37号住居址（Fig.34・53、PL.8・16）

位置 C区、X121～123－Y55G **形状** 正方形と推定。 **規模** 東西[6.22]×南北[6.16]m。確認面までの壁高51cm。 **面積** (24.3)㎡ **方位** N－40°－W **覆土** 5層に大別できる。1層はAs-Bを含む。2層はAs-Cの混入率の違いによって2層に細分できる。 **床面** 西側で堅緻面を確認するが、東側では確認できず。 **柱穴** 主柱穴1個と柱穴2個を検出。 **周溝** 西壁と南壁の一部に存在。 **遺物** 総数327点の遺物が出土。赤井戸式土器は6%、樽式系土器は2%、石田川式土器は8%である。赤色した土器片が2点出土。このうち図示したのは2個体である。 **備考** 古墳時代前期。調査区域外のため南側半分のみ調査。カクランにより住居の南西部の調査が不可能。

H－38号住居址（Fig.35・53、PL.8・15）

位置 C区、X119・120－Y55・56G **重複** D－18に切られる。 **形状** 長方形 **規模** 長軸5.46×短軸(4.12)m。確認面までの壁高55cm。 **面積** (15.8)㎡ **方位** N－44°－E **覆土** 3層に大別でき、Hr-FP、ロームブロック等の混入率の違いによって9層に細分できる。 **床面** 堅緻面を確認。 **炉址** 中央部東寄りに位置し、長径(40)×短径(36)×深さ6cmの地床炉。 **柱穴** 主柱穴1個と柱穴3個を検出。 **周溝** 西壁と南壁の一部に存在。 **馬蹄形状施設** P_3の北側の西コーナーを囲むように、西壁中央部寄りに存在。 **遺物** 総数273点の遺物が出土。赤井戸式土器は6%、樽式系土器は4%、石田川式土器は5%である。赤色した土器片が3点出土。このうち図示したのは4個体である。 **備考** 古墳時代前期。調査区域外のため南半分のみ調査。

H－39号住居址（Fig.25）

位置　A区、X128・129－Y48G　重複　H－19を切る。　形状　正方形と推定される。　規模　長軸2.72×短軸(0.78)ｍ。確認面までの壁高23cm。　面積　(1.6)㎡　方位　N－12°－W　床面　あまり固くなかった。　遺物　総数256点の遺物が出土。　備考　古墳時代後期。北側はカクランのため調査不可能。

H－40号住居址（Fig.35）

位置　A区、X128・129－Y46・47G　形状　不明。　規模　東西(2.18)×南北(1.12)ｍ。　面積　(1.9)㎡　方位　N－3°－W　覆土　構築面が浅かったため判別できなかった。　床面　構築面が極めて浅かったため、床の検出はできなかった。　炉址　1個検出。長径40×短径34×深さ6cmの地床炉。　遺物　総数13点の遺物が出土。このうち石田川式土器は2点であり、赤色した土器片が1点出土。　備考　古墳時代前期。

H－41号住居址（Fig.35・54、PL.8・15・16）

位置　A区、X121・122－Y56G　形状　正方形と推定。　規模　東西[3.54]×南北[2.82]ｍ。確認面までの壁高73cm。　面積　(6.9)㎡　方位　N－42°－E　覆土　4層に大別。　床面　全面的に堅緻面が広がっていた。　炉址　地床炉を住居中央部やや北寄りに長径(58)cm×短径(30)×深さ5cmで検出。炉縁石を使用。　遺物　総数219点の遺物が出土。赤井戸式土器は1％、樽式系土器は5％と少ない。石田川式土器は52％で半分以上を占める。赤色した土器片が1点出土。このうち図示したものは5個体である。　備考　古墳時代前期。北側はカクラン、南側は調査区域外のため調査できず。

H－42号住居址（Fig.31・54、PL.8・15）

位置　B区、X109・110－Y49・50G　重複　H－28に切られる。　形状　正方形と推定される。　規模　東西6.40×南北(2.20)ｍ。確認面までの壁高55cm。　面積　(6.9)㎡　方位　N－17°－W　覆土　6層に大別できる。1層はH－28の貼床土。2層はローム ブロック30～40％含む。　床面　全面的に堅緻面を検出。　柱穴　5個の柱穴を検出する。　周溝　調査範囲では全周。　遺物　総数84点の遺物が出土。赤井戸式土器は7％、樽式系土器は5％、石田川式土器は2％である。このうち図示したものは1個体である。　備考　古墳時代前期。調査区域外のため南側の一部の調査。籾痕のある土器が1点出土。

H－43号住居址（Fig.22）

位置　A区、X125・126－Y44・45G　重複　H－13・14に切られる。　形状　調査範囲が少ないため不明。　規模　東西(1.50)×南北(2.58)ｍ。確認面までの壁高39cm。　面積　(1.4)㎡　方

位　N－31°－E　覆土　3層に大別できる。4層は黒色土とローム土の混じり、5層はローム土主体。　床面　あまり固くない。　周溝　調査範囲では東壁に検出。　遺物　総数17点の遺物が出土。樽式系土器は6％、石田川式土器は12％である。　備考　古墳時代前期。調査区域外のため東側の一部の調査。

H－44号住居址（Fig.35・54、PL.8）

位置　A区、X126・127－Y45・46G　重複　W－5・10に切られる。　形状　長方形と推定される。　規模　東西(3.80)×南北(2.60)m。確認面までの壁高20cm。　面積　(6.5)㎡　方位　N－20°－W　覆土　As-C、Hr-FP、黒色土等の混入率の違いで、3層に大別できる。　床面　あまり固くなかった。　炉址　長径48×短径34×深さ6cmの地床炉を検出。　柱穴　1個検出。　遺物　総数365点の遺物が出土。赤井戸式土器は0.3％、樽式系土器は0.5％と極めて少ない。石田川式土器は60％を占める。赤色した土器が1点出土。図示したものは1個体である。　備考　古墳時代前期。南側はカクランにより調査できず。

2　竪穴状遺構

T－1号竪穴状遺構（Fig.36）

位置　B区、X124・125－Y52・53G　形状　長方形　規模　長軸1.96×短軸1.52m。確認面までの壁高15cm。　方位　N－20°－W　覆土　2層に分けられ、1c層はAs-Bを50～60％を含む褐色土。　底面　南西部が1.1×1mの範囲でくぼんでいる。　遺物　総数24点の土師器が出土。　備考　古墳時代前期。

T－2号竪穴状遺構（Fig.36）

位置　A区、X129－Y50G　形状　不整形円　規模　長軸2.10×短軸2.00m。確認面までの壁高36cm。　方位　N－0°　覆土　3層に分けられ、1a層がAs-Cを20％含む黒土層。　底面　中央部が径1.5×1.4mの範囲でくぼんでいる。　遺物　土師器67点が出土。　備考　古墳時代前期。

3　井　　戸

I－1号井戸（Fig.36）

位置　C区、X105・106－Y58・59G　形状　長径(1.7)×短径(0.47)×深さ(0.79)mで円形。　覆土　3層に分けられ、1層はHr-FPを2～3％含む黒色土層である。

4 土　　坑

D－2号土坑（Fig.36）

位置　A区、X126・127－Y49G　**重複**　H－18を切る。　**形状**　長径2.13×短径1.48×深さ0.6ｍで楕円形。　**覆土**　3層に大別。主にAs-C混じりの黒土層である。　**遺物**　30点の土師器が出土。　**備考**　中世以降。

D－4号土坑（Fig.36）

位置　B区、X119－Y51G　**重複**　W－13に切られる。　**形状**　長径(1.18)×短径[0.72]×深さ0.6ｍで円形である。　**覆土**　3層に分けられ、1層がAs-C混じりの黒色土層である。　**遺物**　39点の土師器が出土。　**備考**　古墳時代後期。

D－5号土坑（Fig.36、PL.9）

位置　B区、X104－Y50G　**重複**　H－26を切る。　**形状**　長径0.97×短径0.90×深さ0.29ｍで円形である。　**覆土**　2層に分けられ、主にAs-B混じりの砂層である。　**遺物**　3点の土師器が出土。　**備考**　中世以降。

D－6号土坑（Fig.36）

位置　B区、X104－Y51G　**重複**　H－26を切る。　**形状**　長径1.02×短径0.94×深さ0.4ｍで、円形である。　**覆土**　2層に分けられ、主にAs-B混じりの砂層である。　**遺物**　2点の土師器が出土。　**備考**　中世以降。

D－7号土坑（Fig.37）

位置　B区、X105－Y50G　**重複**　H－26を切る。　**形状**　長径1.05×短径0.93×深さ0.66ｍで円形。　**覆土**　3層に分けられ、1層がAs-B混じりの粗砂層である。　**備考**　中世以降。

D－8号土坑（Fig.37）

位置　C区、X103－Y58G　**重複**　H－33を切る。　**形状**　長径1.43×短径1.03×深さ0.64ｍで、楕円形である。　**覆土**　2層はAs-B混じりの砂層である。　**備考**　中世以降。

D－9号土坑（Fig.37）

位置　C区、X103－Y59G　**重複**　H－33を切る。　**形状**　長径(0.85)×短径(0.27)×深さ0.81ｍで楕円形と考えられる。　**覆土**　3層に分けられ、主に砂層である。　**備考**　中世以降。

D－10号土坑（Fig.37・54）

位置　B区、X103－Y51G　**形状**　長径(1.15)×短径(0.48)×深さ0.22ｍで楕円形と考えられる。　**覆土**　3層に分けられ、1層はAs-C混じりの黒色土層である。　**遺物**　11点の土師器が出土。　**備考**　中世以降。

D－11号土坑（Fig.37）

位置　B区、X115－Y49・50G　**重複**　H－29を切る。　**形状**　長軸2.88×短軸0.78×深さ0.40ｍで長方形。　**覆土**　3層に分けられ、主に細砂層である。　**備考**　中世以降。

D－12号土坑（Fig.37）

位置　B区、X108－Y49・50G　**形状**　長軸1.20×短軸0.78×深さ0.14ｍで長方形である。　**遺物**　8点の土師器が出土。

D－13号土坑（Fig.37）

位置　C区、X101－Y58G　**重複**　H－32を切る。　**形状**　長径0.89×短径0.80×深さ0.10ｍで円形。　**覆土**　1層で、As-B混じりの細砂層である。　**備考**　中世以降。

D－14号土坑（Fig.38、PL.9）

位置　C区、X102－Y58・59G　**形状**　長軸1.08×短軸0.76×深さ0.35ｍで長方形。　**覆土**　1層で、As-B混じりの細砂層である。　**遺物**　1点の土師器が出土。　**備考**　中世以降。

D－15号土坑（Fig.38）

位置　C区、X105－Y57G　**形状**　長径1.02×短径0.9×深さ0.06ｍで円形である。　**覆土**　1層で、As-B混じりの細砂層である。　**備考**　中世以降。

D－16号土坑（Fig.38）

位置　C区、X105・106－Y58G　**形状**　長径1.03×短径0.82×深さ0.17ｍで円形。　**覆土**　1層で、As-B混じりの細砂層である。　**備考**　中世以降。

D－17号土坑（Fig.38）

位置　C区、X118－Y55・56G　**形状**　長径0.67×短径0.62×深さ0.16ｍで円形である。　**覆土**　2層に分けられ、1層はAs-B混じりの細砂層である。　**備考**　中世以降。

D－18号土坑　（Fig.38）

位置　C区、X119－Y55G　**重複**　H－38を切る。　**形状**　長径0.92×短径0.88×深さ0.36ｍで円形である。　**覆土**　3層に分けられ、1a層はAs-Bの純層に近い。　**遺物**　3点の土師器が出土。　**備考**　平安時代後期～中世。

D－19号土坑（Fig.38）

位置　B区、X96－Y54・55G　**形状**　長径1.94×短径0.63×深さ0.11ｍで楕円形と考えられる。　**覆土**　3層に分けられ、1層はAs-C混じりの黒色土層である。　**遺物**　7点の土師器が出土。

D－20号土坑（Fig.38）

位置　B区、X97－Y53・54G　**形状**　長径1.88×短径1.04×深さ0.72ｍで楕円形である。　**覆土**　3層に分けられ、主に黒色土層である。

D－21号土坑（Fig.38）

位置　A区、X127－Y43G　**重複**　W－1を切る。　**形状**　長径[1.35]×短径1.10×深さ0.80ｍで円形である。　**覆土**　3層に分けられ、1層はAs-C混じりの黒色土層である。　**遺物**　60点の土師器が出土。　**備考**　古墳時代前期。

D－22号土坑（Fig.7・54）

位置　C区、X116－Y55G。　**遺物**　古墳時代前期の土器36点が出土。

5 溝状遺構

W－1号溝（Fig.39・54・55、PL.15）

位置 A区、X125～129－Y35～45G A区北東隅から中央部の西方向に位置する。 **重複** H－5、W－2・4・11、D－21に切られる。 **形状** 断面は、逆台形である。幅60～84cm、深さ38～46cm程度で、長さ38mである。 **覆土** 3層に分けられ、2層がAs-Cの純層である。 **遺物** 561点の土師器と混入した2点の須恵器が出土。 **備考** 古墳時代前期。

W－2号溝（Fig.39、PL.9）

位置 A区、X125～130－Y39～41G A区北部の東西方向に位置する。 **重複** H－3・4・5、W－1・4・6を切る。 **形状** 薬研掘り。幅86～164cm、深さ64～70cm程度で、長さ19.2mである。 **覆土** 3層に分けられ、1層がAs-Bの純層である。 **遺物** 383点の土師器と鉄滓1点が出土。 **備考** 堀の形態や覆土、方向性から平成2年度調査のW－9号溝の続きと考えられる。平安時代後期から中世。

W－3号溝（Fig.39、PL.9）

位置 A区、X126～131－Y47～50G 本年度調査のB区のW－13号溝の続きで、A区南部のH－2からH－8方向に位置する。 **重複** H－8・19・20、W－4・5を切る。 **形状** 断面は、薬研掘り。幅84～152cm、深さ61～88cmで、長さ22.8mである。 **覆土** 3層に分けられ、黒色土層が主体で、下部に砂層が存在する。 **遺物** 263点の土師器と5点の須恵器が出土。 **備考** 堀の形態と覆土、方向性からW－13号溝と接続するものと考えられる。平安時代後期から中世。

W－4号溝（Fig.39・55）

位置 A区、X127～129－Y35～51G A区北部から南部にかけて位置する。 **重複** W－1・5・7、H－8・21・22を切り、W－2・3・10・11に切られる。 **形状** 断面は、すり鉢状の形で、幅56～136cm、深さ27.5～58cmで、長さ65mである。 **覆土** 4層に分けられ、1層はAs-C混じりの黒色土層である。 **遺物** 1340点の土師器と3点の須恵器が出土。 **備考** 古墳時代後期位。

W－5号溝（Fig.39）

位置 A区、X126～131－Y45～47G A区西部から南東部にかけて位置する。 **重複** W－4・30、H－19・20・39・44を切り、W－3・10に切られる。 **形状** 断面はすり鉢状の形で、幅58～94cm、深さ36～52cm、長さ27.6mである。 **覆土** 3層に分けられ、1層はAs-C混じりの黒色土層である。 **遺物** 369点の土師器と6点の須恵器が出土。 **備考** 古墳時代後期。

W－6号溝（Fig.39・55、PL.15）

位置 A区、X127～128－Y35～43G A区北部からH－13にかけて位置する。 **重複** H－1を切り、W－2に切られる。 **形状** 断面はすり鉢状の形で、幅32～68cm、深さ12～37cm、長さ38.6mである。 **覆土** 3層に分けられ、1層がAs-C混じりの黒色土層である。 **遺物** 156

点の土師器が出土。 **備考** 古墳時代後期以降。

W－7号溝（Fig.39）

位置 A区、X128－Y37～39G A区北部でW－4と接する。 **重複** W－4に切られる。 **形状** 断面はすり鉢状の形で、幅64cm、深さ41.5～52cm、長さ9.2ｍである。 **覆土** 3層に分けられ、主に黒色土層である。 **遺物** 4点の土師器が出土。 **備考** 古墳時代後期以降。

W－8号溝（Fig.39）

位置 A区、X129～131－Y51・52G A区南東隅に位置する。 **重複** H－9・10、W－9を切る。 **形状** 断面は楕円を半分に切った形で、幅68cm、深さ17cm、長さ7.8ｍである。 **覆土** 主に黒色土層で上部にAs-Bの純層がわずかに認められた。 **備考** 平安時代後期から中世。

W－9号溝（Fig.39）

位置 A区、X131－Y51G A区南東隅に位置する。 **重複** H－9・W－30を切り、W－8に切られる。 **形状** 断面は楕円を半分に切った形で、幅88cm、深さ22.5cm、長さ4.0ｍである。 **覆土** 1層で褐色の粗砂層。 **遺物** 21点の土師器が出土。 **備考** 平安時代後期から中世。

W－10号溝（Fig.39）

位置 A区、X126～131－Y43～46G A区東部のH－16から西部のH－44の南側までに存在する。 **重複** H－6・16・21・44、W－4・5・11を切る。 **形状** 断面は、楕円を半分に切った形で、幅40～80cm、深さ12.5～19.5cm、長さ24.0ｍである。 **覆土** 2層に分けられ、1層が酸化による強い赤味を帯びたHr-FP混じりの粗砂層である。 **遺物** 106点の土師器が出土。 **備考** 平安時代後期から中世。

W－11号溝（Fig.39）

位置 A区、X125～131－Y43・44G A区中央部を東西に横断する。 **重複** H－6・16、W－1・4を切り、W－10に切られる。 **形状** 断面はすり鉢状の形で、幅44～66cm、深さ13～26.5cm、長さ21.2ｍである。 **覆土** 2層に分けられ、1層がAs-C・Hr-FP混じりの黒色土層である。 **遺物** 40点の土師器が出土。 **備考** 平安時代後期から中世。

W－12号溝（Fig.39、PL.9）

位置 B区、X109－Y49・50G B区中央部を南北に横断する。 **形状** 薬研掘り。幅150～160cm、深さ62～64.5cm、長さ4.8ｍである。 **覆土** 3層に分けられ、1層はAs-B混じりである。 **遺物** 50点の土師器が出土。 **備考** W－12は特徴的な断面形を有し、覆土と形態、方向性から平成2年度調査のW－9と連続するものと思われる。さらに、この溝はB・C区の間の調査区外で約90°東方向に折れ、本年度調査のB区W－13に続くものと思われる。平安時代後期から中世。

W－13号溝（Fig.39）

位置 B区、X119～121－Y51・52G B区東部に位置する。 **重複** D－4を切る。 **形状** 断面は、すり鉢状の形で、幅60～64cm、深さ41.5～48.5cm、長さ8.0ｍである。 **覆土** 3層に分けられ、主に小円礫を含む砂層である。 **遺物** 23点の土師器が出土。 **備考** 覆土と形態、方

向性からW－3に続くものと考えられる。平安時代後期から中世。

W－14号溝（Fig.39、PL.9）

位置　B区、X98－Y52・53G　B区西部を南北に横断する。　**重複**　H－24・27を切る。　**形状**　断面はU字形で、幅102～128cm、深さ14～23cm、長さ4.8mである。　**覆土**　1層で、As-C・Hr－FP混じりの粗砂層である。　**備考**　『内堀遺跡群Ⅳ』のW－10と接続することから中世と考えられる。

W－15号溝（Fig.39）

位置　C区、X93～99－Y59G　C区西部に位置する。　**形状**　断面はすり鉢状で、幅50～90cm、深さ19～29cm、長さ24.0mである。　**覆土**　3層に分けられ、1層がAs-C混じりの黒色土層。

W－16号溝（Fig.39）

位置　C区、X99－Y57～58G　C区西部を横断する。　**重複**　W－15に切られる。　**形状**　断面はすり鉢状の形であり、幅60～68cm、深さ18～20cm、長さ6.8mである。　**覆土**　2層に分けられる。　**遺物**　5点の土師器が出土。　**備考**　W－14と接続することから中世と考えられる。

W－17号溝（Fig.39）

位置　C区、X105～107－Y57・58G　C区中西部に位置する。　**形状**　断面はすり鉢状の形で、幅36cm、深さ13～17cm、長さ7.0mである。　**覆土**　2層に分けられ、1層がAs-C混じりの黒土層である。　**遺物**　16点の土師器が出土。　**備考**　古墳時代。

W－18～27号溝（Fig.39・55）

位置　C区、X107～118－Y55～58　C区中央部に位置する。　**形状**　断面は楕円を半分に切った形である。幅20～70cm、深さ6～34cmである。　**覆土**　2層に分けられ、1層がAs-C混じりの黒土層である。　**備考**　As-C混じりの層があり、古墳時代の畝状の耕作痕と考えられる。ほかにもいくつか存在したが顕著なものだけ調査した。

W－28号溝（Fig.39）

位置　C区、X120－Y55・56G　C区東部に位置する。　**形状**　断面はすり鉢状の形であり、幅28～46cm、深さ7～11.5cm、長さ5.8mである。　**覆土**　2層に分けられ、1層がAs-Cの純層である。　**遺物**　4点の土師器が出土。　**備考**　古墳時代。

W－29号溝（Fig.39）

位置　B区、X100～102－Y51G　B区西部に位置する。　**形状**　断面はU字形であり、幅26～52cm、深さ7～10cm、長さ10.0mである。　**覆土**　3層に分けられ、主にローム土層である。　**遺物**　7点の土師器が出土。　**備考**　古墳時代。

W－30号溝（Fig.26）

位置　A区、X130・131－Y48～51G　A区南東隅に位置する。　**重複**　H－9・20を切り、W－5・9に切られる。　**形状**　断面はすり鉢状で底部が平らであり、幅68cm、深さ29.5cm、長さ12.0mである。　**覆土**　3層に分けられ、1層がAs-C・Hr-FP混じりの黒色土層である。

遺物　59点の土師器が出土。　**備考**　古墳時代。

W－31号溝

B区、X95・96－Y55Gに存在。

6　集　　石

S－1号集石（Fig.38、PL.9）

位置　A区、X129－Y45G　**規模**　8個の拳大の礫が長径83×短径51cmの範囲に存在。　**備考**　礫は地元産の粗粒安山岩を用い、加熱による赤化がみられた。Ⅲ層中に存在したことから縄文時代と考えられる。

7　埋　設　土　器

U－1号埋甕（Fig.38・55、PL.15）

位置　C区、X104－Y58G　**規模**　掘り方は確認できなかった。　**遺物**　ほぼ復原できた注口土器1個体が出土。　**備考**　遺物から縄文時代後期(堀之内Ⅱ式土器)と考えられる。

8　グリッド出土の遺物

グリッドで扱った縄文時代包含層の遺物は、量的には少なかった。縄文早期の条痕文系土器群がわずかに1片で、前期諸磯ａ・ｂ式が10数片、中期末葉から後期前葉にかけての加曽利Ｅ4式～称名寺式・堀之内にかけての土器片が20～30片出土したに過ぎない。また、石器も石鏃のほかは剥片がみられただけで定形石器は出土しなかった。

Ⅵ　成果と問題点

1　古墳時代前期の集落について

(1)　土器片の割合について

古墳時代前期の住居址から出土した土器破片を有文部・調整部を頼りにして分類を行った。その結果、①赤井戸式（縄文）、②樽式系（櫛描文）、③ハケメ（古式土師器）、④赤色塗彩（弥生土器の系譜を引くもの）と⑤無文（ミガキ・ナデ・底部）の5種類に分類した。⑤の無文として扱ったものには、赤井戸式と樽式系、石田川式の無文部や特徴的な調整が入らないものである。これらの分類結果をTab.2に示した。分類作業は、古墳時代前期の住居址全部にわたっておこ

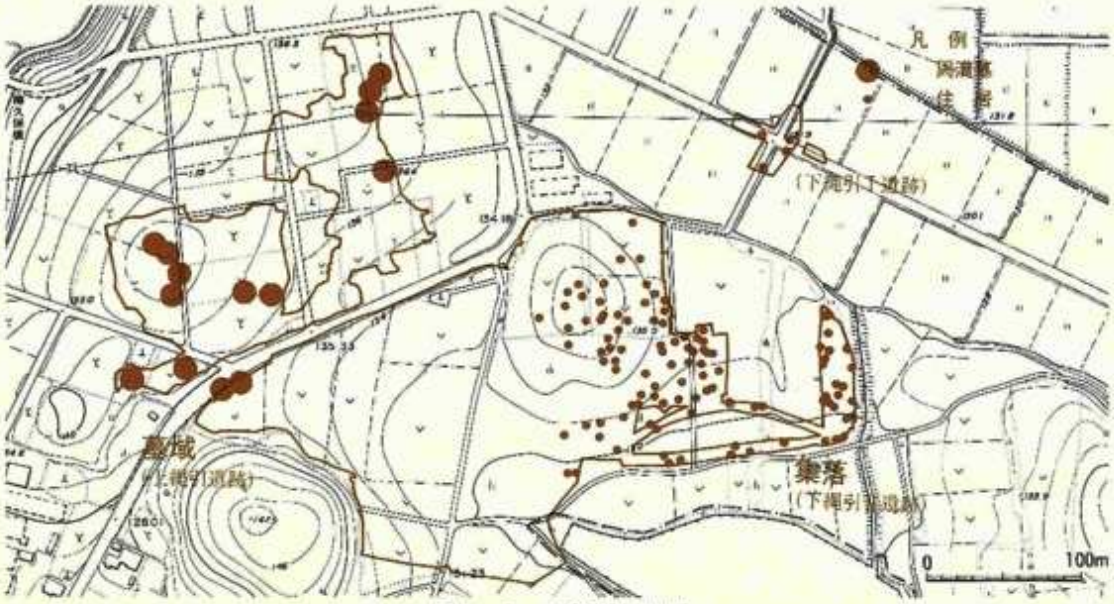
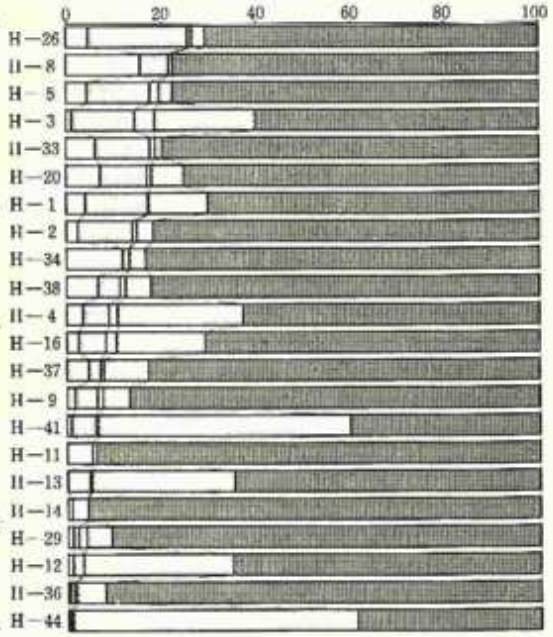


Fig. 8　周溝墓と集落

なったが、住居址を完全な形で調査できたものが少ないことから出土遺物の点数に差があるため、100点以下の住居址については分類の対象にはしていない。また、遺物については、製作・使用・廃棄といったライフ・サイクルを有しており、住居址から出土する土器の大半は廃棄行為に伴ったものと考えられるため、出土破片の割合が住居址の実態を示すものとは断定できない。しかし、

Tab. 2　住居址時期別一覧と土器片種類の割合

住居	平面形	柱穴	規模 東西	規模 南北	規模 主軸	炉 数	炉 材料	附属施設 貯蔵穴	附属施設 その他	備考
H—26	長	2直	5.6	3.8	59E	1	土器破片	横穴		結束帯
H—8	長	—	5.2	4.4	48E	1				
H—5	長	無	3.5	4.4	12W	2				
H—3	—	—	(4.1)	(4.4)	45W	(1)		横穴		As—C純層
H—33	正	—	5.4	5.3	41W	1	粘　土		粗ベット	
H—20	正	—	7.8	7.8	45E	5				
H—1	正	4	5.6	5.8	29W	2		横穴	ベッド	墓・特殊器台・土石・結束帯
H—2	正	4	5.7	6.0	41W	3	炉縁石	横穴	掘　段	溶製石跡
H—34	—	—	4.2	(2.7)	30W	1	炉縁石	横穴		
H—38	長	—	6.1	5.5	44E	1			馬蹄形	
H—4	正	4	5.2	5.6	1W	(2)		横穴		
H—16	正	4	(7.9)	(8.4)	34W	1				子供・結束帯状・礫石・
H—37	—	—	(6.2)	(6.2)	46W	—				手投・砥石
H—9	—	—	(3.1)	(6.9)	9W	—				
H—41	—	—	(3.5)	(2.6)	42E	1	炉縁石			礫石
H—11	長	—	(3.6)	(3.1)	94E	1				
H—13	—	—	(4.7)	2.6	20W	1				
H—14	—	—	(1.8)	(1.7)	40E	—				
H—29	—	—	(6.5)	(5.3)	28E	1				
H—12	長	—	4.6	3.5	62E	1				
H—36	—	—	(3.0)	(5.1)	11W	1				
H—44	長	—	(2.0)	(2.6)	20W	1				



近時間的な人の行為の反映が遺物の出土状態とすれば、少なからず時間的な傾向を示すものであり、有効性をもつものと考えられる。

グラフは縄文と櫛描文、赤色塗彩の構成割合が高いものから低いものの順にならべた。したがって上のグループが古い要素をもち下に行くにしたがい新しくなる。グラフから縄文と櫛描文を高い割合でもつグループ1と低くなるグループ2に大きく分けられよう。具体的にはH－4とH－16が両者の境界となり、H－4から上を古期、H－16から下を新期としておきたい。しかし、『内堀遺跡群Ⅳ』で分類したような、縄文＋櫛描文→縄文＋櫛描文＋古式土師器台付甕→S字状口縁台付甕といった変遷は大方、追認できるが今回の資料についてややまとまりに欠けるため、2時期の分類に踏み留まりたい。古期がAs-C降下前後、新期がAs-C降下からやや隔たりのある時期としておきたい。

（2） 住居址の構造について

次に、住居址の構造であるが、『内堀遺跡群Ⅳ』の中で指摘した傾向が認められる。住居の平面形については、古い段階に長方形が多く、新しくなるに従い正方形になっていく。また、柱穴についても2本柱が多く、新しくなると4本柱が主流をしめる。貯蔵穴についても壁体に水平に穿つ横穴形貯蔵穴は新期には存在しない。また、炉の数についても、古期ほど数が多く新期になるに従い単体炉になる。炉は基本的に地床炉であるが古いものほど炉縁石や土器破片を用いる比率が高く、炉体土器の使用はみられない。

（3） 集落と墓域

今回、35軒の住居址が検出された下縄引Ⅱ遺跡や下縄引Ⅰ遺跡の集落の広がりは、標高137ｍの丘陵性台地に存在する。周辺一帯には赤城山の火山活動によって生じた泥流による独立丘陵である「流れ山」が点在し、本遺跡もその「流れ山」の東斜面に形成された集落である。下縄引Ⅰ・Ⅱ遺跡の集落の広がりは、東西200ｍ、南北100ｍの広範囲におよぶもので現在までに住居址は確認されたものを含めると100軒強が調査されているが、全体では2倍の200軒近い数が想定される。

上縄引遺跡は昭和55年と平成3年に調査され、円形周溝墓が10基、方形周溝墓が3基、前方後方形周溝墓が1基の合計14基の周溝墓が検出されている。上縄引遺跡が墓域であり下縄引Ⅰ・Ⅱ遺跡が集落であり、両者は有機的な関連を有する。また、生産域は現五料沼から南に開けた低地である沖積地に求められる。

（4） 遺跡から出土した土器

下縄引遺跡と上縄引遺跡から出土した土器群の内容は、在地の土器である赤井戸式・樽式系を主体としS字状口縁台付甕を組成にもつ石田川式土器で構成される。しかし、石田川式土器の出土が少ない点は、時期的な問題なのか、あるいは地域色に起因したものととらえられる。外来系

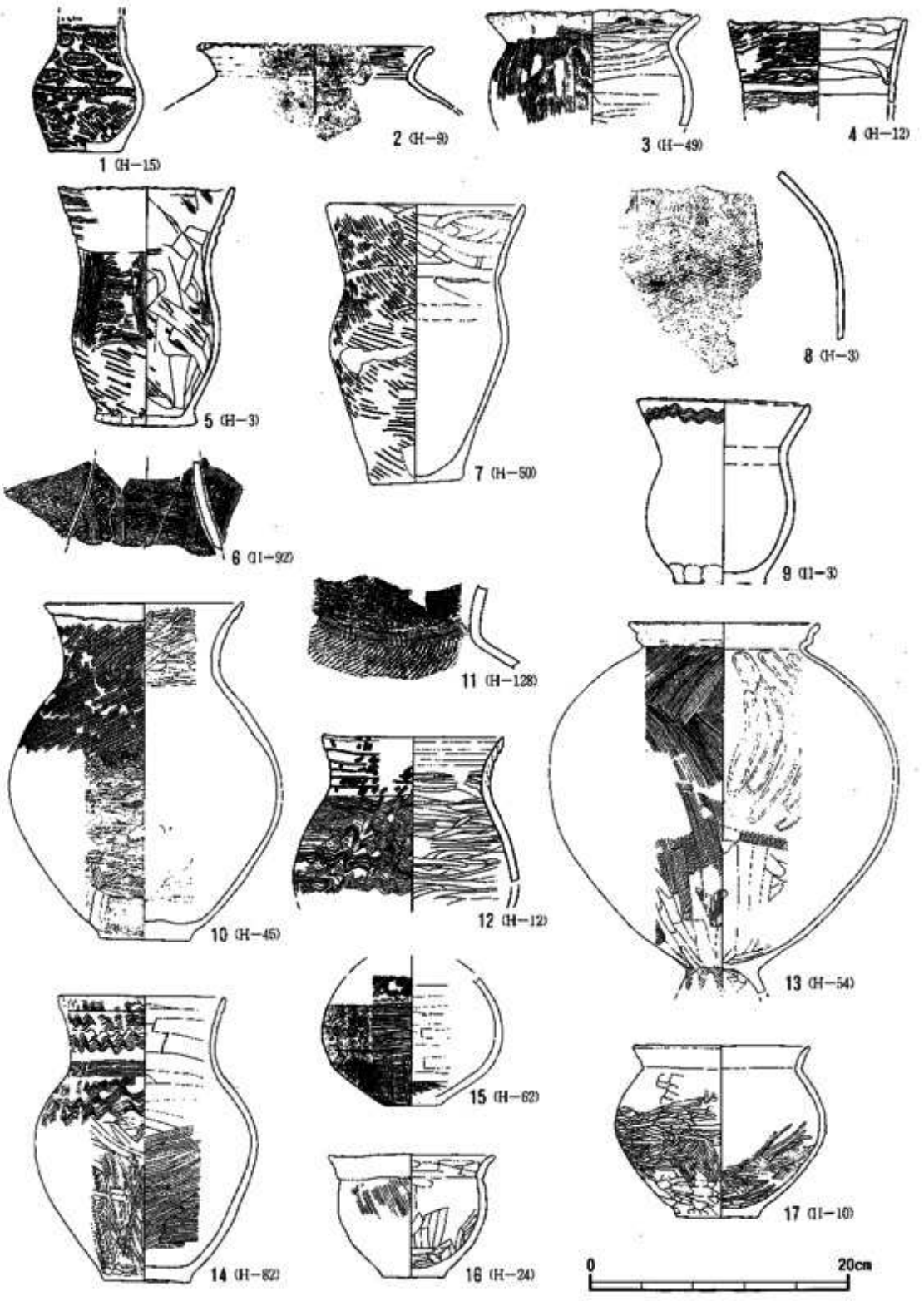


Fig. 9 上縄引遺跡と下縄引Ⅱ遺跡出土の土器(1)

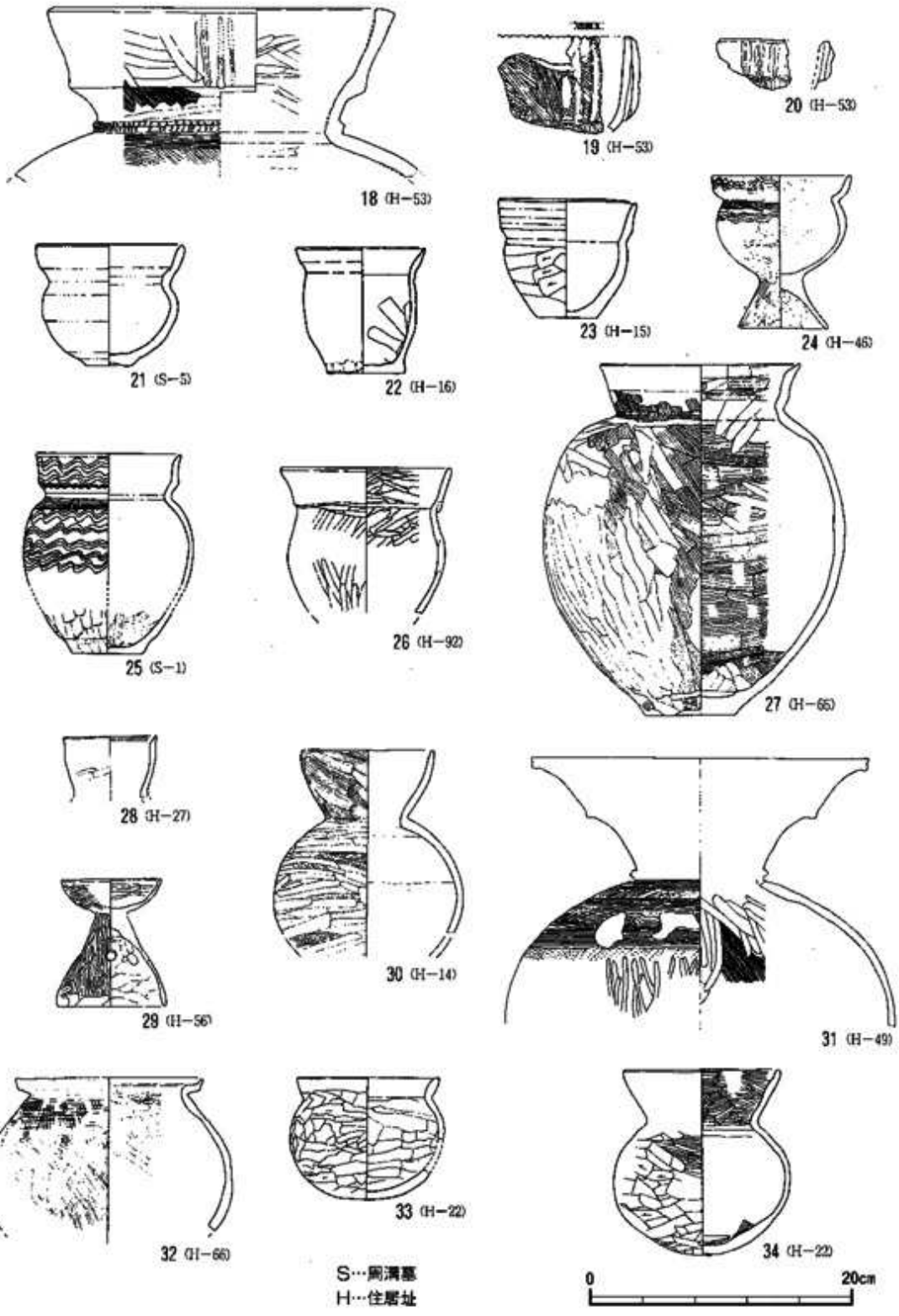


Fig. 10　上縄引遺跡と下縄引Ⅱ遺跡出土の土器(2)

の土器群はほぼ図示したに留まる。1は東北の天王山系で文様構成上は一見中期的な系譜を保っているかのようである。4～8などは東関東の十王台系の流れでとらえられる。10は在地の赤井戸式で、14が樽式土器の流れを組む。11・12は樽式系と赤井戸式の2つの文様が施文された土器である。13は石田川式土器である。15は南関東系、16・17は房総あるいは東海の菊川式の影響が考えられる。18～20は東海系と推定され、18は口唇部内面が肥厚し、大廓式との関連でとらえられよう。21～27について、いずれも北陸の月影式土器の系譜と考えられる。しかし、文様が在地化している点など変質は否めない。28～32は東海系で廻間式のⅠ期～Ⅱ期の古段階に相当する。33は畿内布留式土器に系譜が求められよう。内湾気味の口縁部と口唇端部の肥厚が特徴的であるが、体部の器肉が厚い点等かなり変質している。ほかに特殊遺物として匙形土製品・算盤玉状土製品・土製勾玉・紡錘車・勾玉・鉄鏃・磨製有孔石鏃が出土している。

2　古墳時代後期の集落について

(1)　住居址について

この時期の住居址は合計7軒検出された。また、同時期の住居址は『内堀遺跡群Ⅳ』で1軒調査されているので総計8軒になった。これらは基本層序の第Ⅰb層で確認され、床面は第Ⅲ層まで達していた。平面的な広がりは、A区の南側にすべて集中している。住居址はすべて東壁に竈を付設する方形プランで、H－6号住居址以外は南東コーナーに貯蔵穴をもつ。主軸方位はN－

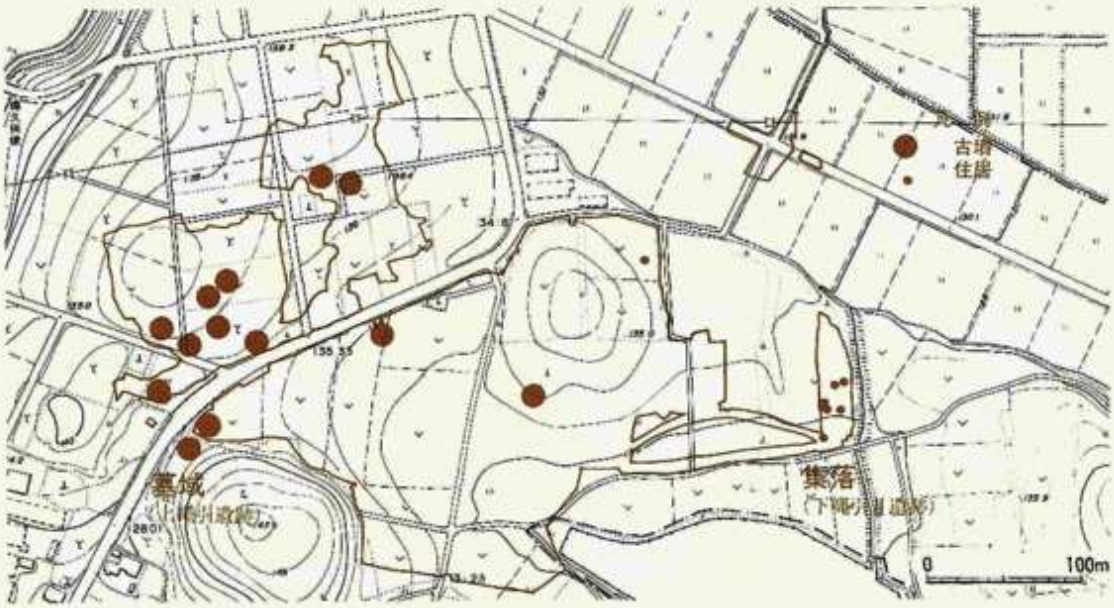
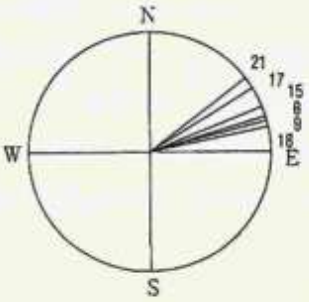
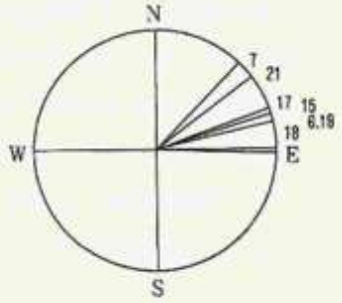


Fig. 11　古墳と集落

52°－EからN－78°－Eの範囲で、面積は8.9㎡～29.3㎡の間でおさえられる。周溝は、H－6・15・17・19・21の住居址から確認された。



住居址主軸方位



竈主軸方位

Fig. 12 竈の構造と貯蔵穴

これらの住居址は、形態的特徴から大きく3つに分類できる。第1は、面積が20～30㎡程度の正方形プランの住居址、換言すれば1辺が5～6m程度の標準的な住居址で、主柱穴をほぼ対角線上に配するものである。H－15・19・21号住居址がこれである。第2は、面積が20㎡未満の小形住居址である。これは住居壁内に主柱穴を持たないという特徴を持つ。H－17・18号住居址がこれである。第3は、面積が20㎡未満の縦長の小形住居址で、主柱穴が2個という特徴を持つ。H－6がこれである。2個の柱穴は主軸と対称になるよう配する。

以上、本遺跡の住居址は形態的特徴から三分したが、次に住居址の細部について論を進めたい。集落構成のあり方に大きくかかわると思われる主軸は、第12図に示したように東指向性が明瞭である。竈はすべて東壁に付設されるが、東壁の中央でなくやや南寄りに置かれる傾向が見られた。例外として、H－7号住居址の竈の位置は東壁の中央部に設置される。貯蔵穴は、竈の右、住居址の南東コーナーに設置された。プランは円形と方形に二分されるが、前者はH－6・7・17・21号住居址であり、後者はそれ以外の住居址である。

（2） 竈について

竈は7軒の住居址全てから東壁に確認された。遺存状況は、どれも良好である。

まず竈の主軸と住居址の主軸との関係であるが、H－6・15・19・21号住居址は、両者の差が5度以内の小さな値を示したのに対し、H－17・18号住居址は12度以上のブレを示した。ブレの大きな住居址は、竈の主軸が住居址のそれより南偏しているためである。このような竈主軸の南偏は、両住居址とも竈近くに柱穴もないことから、煙道部をより東寄りに設置することを意識したためと考えられる。

竈の構築は、大方粘土を主体としてなされていた。煙道部は、長方形あるいは三角形に壁外に掘り込み、そこに粘土を充填させ構築される。一方、袖部は粘土主体に構築され、下部あるいは基底部にC軽石を包含する黒褐色細砂を敷くのが特徴であった。袖の補強材として両袖先端部に礫が用いられた例が、H－15号住居址の竈である。構築材として逆位の甕を両袖に埋め込んだ例がH－17号住居址、左袖に埋め込んだ例がH－19号住居址の竈である。また袖が直線的に作出されることも特徴である。

(3) 古墳と集落

7軒の住居址から出土した遺物は鬼高式土器で、坂口編年（1980）の鬼高Ⅱ～Ⅳ段階にあたり、遺構の構築時期は5世紀第4／4半期～6世紀第2／4半期と考えられる。H－19号住居址出土の甕（Fig.47）の胴下半部の段および刷毛目、またH－18・19号住居址出土の杯（Fig.48）にみられる角頭状口縁等から、H－19・18号住居址は鬼高Ⅱ段階で最も古く、H－17は鬼高Ⅲ段階、H－15・21およびH－6・7は鬼高Ⅳ段階であると考えられる。

以上の住居址が存在した時期は、前二子古墳の構築時期とほぼ重複する。さらに前二子古墳周辺には、梅木遺跡・西大室遺跡群・荒砥五反田遺跡・荒砥上川久保遺跡・粕川五反田遺跡等があり、5世紀末～6世紀前半の住居址が確認されている。これらは当時、前二子古墳の築造にかかわりのあった人達の集落と考えらる。詳細については今後の分析が待たれる。

3　中世の環濠について

A区のW－2・3、B区のW－12・13は、平成2年度の調査で確認されたW－9と接続することが考えられ、大規模な環濠が検出されたことが判明した。

プランは台形を想起させる。しかし、全面調査でないため、南西コーナー部や南側の溝の方向のズレなどはっきりしない面が残る。東側は五料沼に水を引き込む水路によって後世に削り取られている。また、水路の東側は未調査でもあるので、平成6年度の調査で東側の範囲は確認ができると考える。

確認された範囲から推定すると、西辺は約45ｍで、座標北方向より約11度西に向いている。北辺と西辺の角はほぼ直角に曲がっている。北辺と南辺は東側にまだ伸びるが、今年度の段階では北辺は約90ｍで、東方向より12度北に向いている。南辺は約89ｍで、W－3は東方向より約33度北に向き、W－13は東方向より約25度北に向いて、堀の方向に多少のズレがある。現地形で北西方向から南東方向にかけて緩やかな傾斜をもって下っている。南は低く谷地（現在は五料沼）になっていることを考慮すると、地形に制約されたものと推定される。

溝の掘り方はいわゆる薬研掘りである。上幅は2.1～0.6ｍ、深さ0.9～0.4ｍ程度であり、場所によって違いがみられる。現地形で高いほうがやや幅も広く、深い溝になっている。

覆土は3層に分けられる。1層はAs-B混じりであり、二次堆積であるが純層に近い場所もみられる。ノロやラミナ状の堆積は全く見られず、水が流れた形跡はない。これは、溝が空堀であったことを端的に物語っている。

出土した遺物は、平成2年度のW－9から常滑焼の大甕片があり、今年度の調査でも、W－3から常滑焼の破片が5点ある。土師器と須恵器が出土しているが、他の時代の混入品である。

重複している遺構は、環濠によって切られているので、環濠より古いものと考えられる。また、環濠の内側にある遺構で環濠と同時代のものは確認されなかった。環濠の外側でB区のD－10から常滑焼の破片が出土しているが、環濠との関連についてははっきりしない。他の外側の遺構で環濠と同時代のものは確認されなかった。

市内では昭和57・58年に調査した端気遺跡群の溝と形態や堀の周辺に施設を持たない点から共通点が認められる。端気遺跡群のプランは野球のホームベースを想起させる。溝の東辺46m、西辺62m、北辺83m、上幅4m、深さ2mを測る。覆土の観察から水の流れた形跡はなく、空堀である。常滑焼・渥美焼の甕の破片が出土しており、13世紀後半から14世紀前半と考えられる。

また、館跡としては高崎市で昭和53年度調査の寺ノ内館址、矢島館址、昭和58年度調査の天田館址、昭和59年度調査の村北館址がある。寺ノ内館址の内堀は正方形で、長さ106m、上幅7m、深さ1.5m程度を測る。外堀を含めると東西約265m、南北220m以上の規模となる。また、中堀、土塁を有し、堀には水を湛えている。矢島館址の内堀は正方形で、長さは東西約100m、南北108m、上幅10～14m、深さ2m程度を測る。外堀は北部を除いて存在し150mを測る。土塁を有し、

Fig. 13　中世の内堀遺跡群

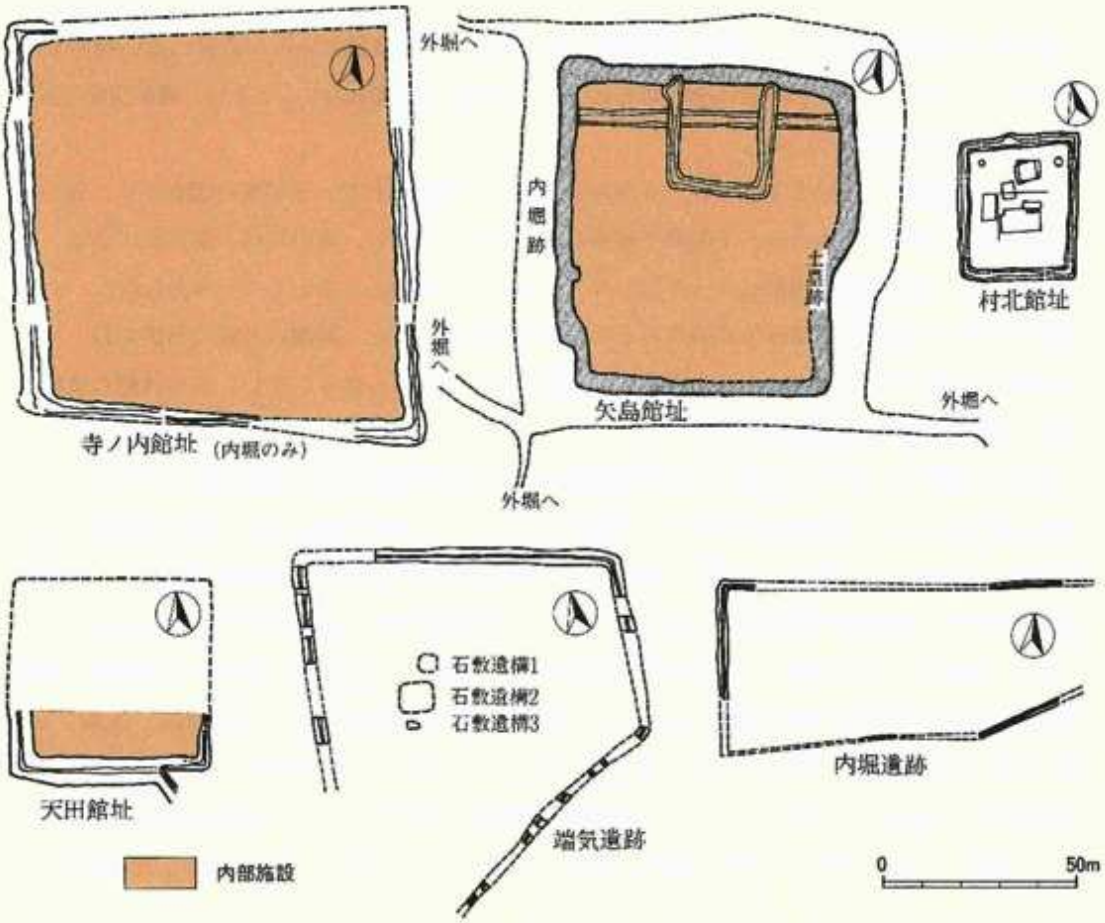


Fig. 14　群馬県内の中世の環濠

堀には水を湛えている。村北館址や天田館址も正方形である。村北館址の内堀の長さは30ｍ、上幅は２～2.8ｍ、深さ１ｍ程度を測る。天田館址の内堀の長さは51ｍ、上幅は3.5～７ｍ、深さ1.3～2.5ｍ程度を測る。村北館址、天田館址は近くにある大規模な城館址の大類城址との関連も考えられる。高崎市の４つの館址は、掘立柱建物址、柵列址、井戸址などの付属施設がある。出土遺物から14世紀から15世紀に位置付けられている。

以上のことから、本遺構は、防御を旨とするには幅や深さが前述の遺構より小さく、役にたたないと思われる。また、遺構の周辺に付属施設がないことから自立農民層の館跡と推定でき、出土遺物から14世紀代の所産と考えられる。

参　考　文　献

桑原　昭・園部守央　1988　『内堀遺跡群Ⅰ－確認調査報告書－』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

園部守央・加部二生　1989　『内堀遺跡群Ⅱ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

園部守央・鈴木雅治　1990　『内堀遺跡群Ⅲ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前原　豊・伊藤　良　1991　『内堀遺跡群Ⅳ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

伊藤　良・前原　豊・戸所慎策　1993　『内堀遺跡群Ⅴ』　前橋市教育委員会

飯塚　誠・杉浦つや子ほか　1981　『西大室遺跡群Ⅱ』　前橋市教育委員会

加部二生・前原　豊　1993「内堀遺跡群下縄引遺跡」『東日本における古墳出現過程の検討』日本考古学協会新潟大会実行委員会

前原照子・松村親樹ほか　1982　『富田遺跡群Ⅲ・西大室遺跡群Ⅱ』　前橋市教育委員会

松村親樹ほか　1983　『端気遺跡群Ⅰ』　前橋市教育委員会

木暮　誠・前原　豊　1984　『端気遺跡群Ⅱ』　前橋市教育委員会

千田幸生ほか　1986　『梅木遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

小島錦一　1985　『深津地区遺跡群 昭和60年度』　群馬県粕川村教育委員会

小島錦一　1986　『深津地区遺跡群 昭和61年度』　群馬県粕川村教育委員会

坂口　一　1986　「古墳時代後期の土器の編年」　群馬文化208号

神戸聖吾・関口修ほか　1979　『寺ノ内遺跡』　高崎市教育委員会

関口修・田村孝ほか　1979　『矢島・御布呂遺跡』　高崎市教育委員会

中村茂・神戸聖吾ほか　1985　『村北・矢島前・村東遺跡』　高崎市教育委員会

結城千尋・神戸聖吾ほか　1984　『天田遺跡Ⅱ』　高崎市教育委員会

Tab. 3　遺物観察表

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土②焼成③色調④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
1	H－1	甕	13.3	4.1	①細粒②極良③橙④完形	外面削り、内面ナデ。	933外	
2	H－1	特殊器台	－－	(2.0)	①中粒②良好③橙④器受部破片	外面篦磨き、内面ナデ。	654	
3	H－1	壺	16.1	(7.7)	①中粒②良好③橙④口縁部のみ	外面口縁部・肩部波状文、内面篦磨き。	730	樽式系
4	H－1	壺	18.4	(10.2)	①中粒②良好③黄橙④口縁部のみ	外面篦磨き、内面篦磨き。	732	
5	H－1	壺	14.0	(10.4)	①中粒②良好③明褐④口縁部のみ1／3	外面口縁部・肩部波状文、内面篦磨き。	735外	樽式系
6	H－1	壺	14.0	19.7	①中粒②良好③にぶい黄橙④3／4	外面口縁部・肩部波状文、胴部篦磨き、内面篦磨き。	788外	樽式系
7	H－1	甕	14.7	25.7	①中粒②良好③橙④3／4	外面口縁部・肩部波状文、頸部簾状文、胴部篦磨き、内面篦磨き。	300外	樽式系
8	H－1	壺	16.2	32.8	①中粒②良好③にぶい橙④1／3	外面口縁部ナデ、頸部簾状文、肩部波状文、胴部篦磨き、内面篦磨き。	670外	樽式系 +H－2
9	H－1	小　甕	8.9	(6.7)	①中粒②良好③橙④口縁～胴上部	内外面とも篦磨き。	956	
10	H－1	器　台	6.6	5.8	①中粒②良好にぶい③橙④1／4	内外面ともナデ。透孔3単位。	648外	
11	H－1	高　杯	－－	(8.0)	①中粒②良好③浅黄橙④脚部～杯部1／5	外面篦磨き、内面ナデ。透孔3単位。	126外	
12	H－1	甕	12.9	(11.3)	①細粒②良好③にぶい赤褐④口縁～胴部	内外面ともナデ。	900外	月影系
13	H－1	甕	－－	(6.7)	①中粒②良好③灰黄褐④破片	外面波状文、内面篦磨き。	723外	十王台系+H-4・16
14	H－1	壺	9.1	(13.7)	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁1／3	内外面とも篦磨き。	627外	
15	H－2	椀	12.6	5.1	①中粒②良好③にぶい黄褐④1／2	内外面ともナデ。	833外	
16	H－2	高　杯	－－	(3.2)	①中粒②良好③橙④口縁部破片	外面ナデ、内面篦磨き。内外面とも赤色塗彩。	672	赤井戸式,赤色。
17	H－2	高　杯	－－	(6.6)	①細粒②良好③明黄④褐脚部のみ	外面篦磨き。内面刷毛目、ナデ。透孔3単位。	701	
18	H－2	甕	17.1	(10.3)	①中粒②良好③浅黄橙④口縁～肩部	外面波状文、内面ナデ。	700	樽式系
19	H－3	台付甕	－－	(5.3)	①中粒②良好③橙④脚部2／5	内外面とも刷毛目。	P.	
20	H－3	甕	[14.2]	(6.9)	①細粒②良好③にぶい黄褐④口縁部1／3	外面口縁部波状文・頸部簾状文、内面篦磨き。	111	樽式系
21	H－4	高　杯	－－	(3.8)	①細粒②良好③橙④口縁部破片	外面横ナデ、内面篦磨き。	覆土	
22	H－4	小　甕	7.2	(8.4)	①細粒②良好③にぶい橙④2／3	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	177外	
23	H－4	高　杯	－－	(5.1)	①中粒②良好③明黄褐④脚部1／5	外面篦磨き、内面ナデ。透孔3単位。	460	

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土②焼成③色調④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
24	H－5	鉢	14.8	6.0	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面篦磨き。内面篦磨き。	250	
25	H－5	高杯	14.6	(7.0)	①細粒②良好③橙④杯部	外面篦磨き。内面ナデ。	253	
26	H－5	器台	－－	(6.3)	①細粒②良好③橙④脚部	外面磨き、横ナデ。内面ナデ。透孔3単位。	254	
27	H－5	高杯	－－	(4.0)	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部1／3	外面篦磨き。内面ナデ。透孔2個残存。	51	透孔4単位か
28	H－5	壺	14.8	(6.9)	①中粒②良好③浅黄④口縁部のみ	外面口縁部篦磨き・頸部箆状文・肩部波状文、内面篦磨き。	163外	樽式系
29	H－5	壺	[18.2]	(6.0)	①中粒②良好③黄橙④口縁1／5	外面口縁部縄文RL、篦磨き。内面篦磨き。	34外	赤井戸式
30	H－6	杯	[12.6]	4.8	①細粒②良好③にぶい黄橙④1／2	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	447	
31	H－6	杯	12.4	4.7	①中粒②良好③黄褐④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	251外	
32	H－6	壺	13.1	(8.0)	①細粒②良好③にぶい黄橙④口縁1／3	内外面とも横ナデ。	212外	
33	H－7	杯	13.4	(4.0)	①細粒②良好③明赤褐④口縁部破片1／4	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	159外	
34	H－7	小甕	14.9	16.7	①中粒③良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。木葉痕有。	378	
35	H－7	甕	16.6	(14.6)	①中粒②良好③にぶい橙④2／3	外面篦削り、内面篦磨き。	391	
36	H－7	鉢	－－	(7.3)	①細粒②良好③にぶい黄橙④底部1／2	外面篦磨き、内面篦磨きの後、黒色処理。	200	内黒土師器
37	H－7	甕	12.2	(14.0)	①中粒②良好③にぶい橙④2／3	外面篦削り、内面ナデ。	130外	
38	H－7	甕	19.8	33.6	①中粒②良好③にぶい橙④1／2	内外面ともナデ。	覆土	
39	H－7	甕	16.1	10.5	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	160	
40	H－8	台付甕	－－	(5.0)	①細粒②良好③にぶい黄橙④脚部のみ	内外面ともナデ。	23	
41	H－8	甕	[15.2]	(8.6)	①細粒②良好③にぶい橙④口縁1／2	外面口唇部縄文LR、口縁部指オサエ・ナデ、肩部縄文LR、胴部ナデ。内面篦磨き。	45外	赤井戸式
42	H－8	高杯	－－	(6.1)	①細粒②良好③橙④脚部1／2	内外面ともナデ。	97外	
43	H－8	器台	10.0	9.2	①中粒②良好③明黄褐④1／2	外面ナデ。内面ナデ。透孔4単位で2個残存。	120外	
44	H－8	高杯	－－	(8.9)	①細粒②良好③明黄褐④脚部1／2	外面磨き。内面ナデ。透孔無。	63	
45	H－9	鉢	[16.4]	6.6	①中粒②良好③黄橙④1／6	外面篦削り、内面ナデ。内面ナデ。	－－	
46	H－9	甕	[18.0]	(3.8)	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁1／4	外面口縁部横ナデ・肩部刷毛目、内面ナデ。	－－	
47	H－10	鉢	[11.2]	7.0	①細粒②良好③橙④2／3	外面横ナデ、ナデ。内面ナデ、刷毛目。	20	
48	H－11	台付甕	－－	(7.1)	①細粒②良好③にぶい黄橙④脚部1／2	外面刷毛目、指オサエ・ナデ。内面ナデ。	17外	
49	H－13	甕	[16.4]	8.2	①中粒②良好③にぶい黄橙④3／4	内外面とも刷毛目。	24外	
50	H－13	器台	6.4	(3.2)	①細粒②良好③橙④杯部	外面篦削り、ナデ。内面ナデ。	－－	
51	H－13	小甕	6.0	(4.1)	①細粒②良好③橙④口縁1／3	外面口縁部横ナデ・胴部刷毛目。内面ナデ。	124外	＋W－4
52	H－13	台付甕	－－	(6.3)	①中粒②良好③にぶい黄橙④脚部	外面刷毛目。内面ナデ。	1	
53	H－13	甕	[21.2]	(22.3)	①細粒②良好③橙④1／3	外面刷毛目。内面刷毛目。	143	
54	H－13	台付甕	13.2	13.9	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面刷毛目、ナデ。内面刷毛目、ナデ。	144	赤色塗彩
55	H－13	台付甕	12.8	16.3	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面刷毛目、ナデ。内面刷毛目、ナデ。	142	赤色塗彩
56	H－14	台付甕	－－	(3.2)	①中粒②良好③浅黄橙④脚上半部	外面刷毛目、内面ナデ。	51	
57	H－15	杯	[11.0]	6.0	①中粒②良好③にぶい黄橙④1／3	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	10	
58	H－15	須恵杯蓋	11.8	5.1	①中粒②良好③灰④1／2	外面回転ナデ、回転篦削り。内面回転ナデ。	64外	
59	H－15	須恵杯身	12.3	4.6	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面回転ナデ、回転篦削り。内面回転ナデ。	33外	
60	H－16	高杯	－－	(9.0)	①中粒②良好③浅黄橙④脚部	外面篦磨き。内面横方向のナデ。透孔4単位。	110外	
61	H－16	高杯	－－	(5.7)	①中粒②良好③浅黄橙④脚部	外面篦磨き、ナデ。内面刷毛目、ナデ。透孔3単位。	106外	
62	H－16	鉢	9.7	6.7	①中粒②良好③赤褐④完形	外面磨き、赤色塗彩。内面ナデ。底部篦削り。	422	赤色塗彩
63	H－16	壺	[16.0]	(2.5)	①中粒②良好③橙④口縁1／3	外面横ナデ、棒状浮文（3個）。内面篦磨き。	388	＋W－4
64	H－16	壺	[9.5]	12.9	①細粒②良好③にぶい橙④完形	外面横ナデ、磨き、篦削り。内面磨き、ナデ。	500	
65	H－16	壺	[13.1]	(19.2)	①中粒②良好③浅黄橙④1／3	外面刷毛目。内面篦磨き。	336	
66	H－17	甕	14.7	(21.1)	①細粒②良好③にぶい橙④2／3	外面刷毛目の後、篦削り、ナデ。内面刷毛目、ナデ。	3外	
67	H－17	甕	18.6	12.3	①中粒②良好③橙④2／3	外面篦削り。内面ナデ後篦磨き。	竈	＋H－18
68	H－17	壺	－－	(3.5)	①中粒②良好③橙④口縁破片	外面口縁部波状文、頸部原状文。内面篦磨き。	11	月影系
69	H－17	鉢	12.8	10.8	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、刷毛目、ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	127	支柱
70	H－17	小甕	12.8	12.5	①粗粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、刷毛目、篦削り、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	1	
71	H－17	甕	14.7	(19.1)	①細粒②良好③橙④2／3	内外面ともナデ。	134	竈右袖
72	H－17	甕	19.6	(17.6)	①中粒②良好③橙④2／3	外面篦削り後ナデ、篦磨き。内面ナデ。	2	

番号	出土位置	器形	大きさ 口径 器高	①胎土②焼成③色調④残存	部形・製作技法の特徴	登録番号	備考
73	H－17	甕	15.0 (18.1)	①細粒②良好③黄橙④2／3	内外面ともナデ。	133外	
74	H－17	甕	25.7 25.9	①中粒②良好③にぶい橙④2／3	外面刷毛目後篦削り、ナデ。内面刷毛目後、ナデ、篦磨き。	竈	竈左袖
75	H－18	杯	12.0 5.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	209外	
76	H－18	杯	12.2 4.9	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	100	
77	H－18	杯	13.3 5.0	①中粒②良好③橙④3／5	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、暗紋。	126外	
78	H－18	高杯	－－ (10.7)	①中粒②良好③橙④脚部	外面横ナデ、篦削り。内面ナデ、横ナデ。	216支柱	杯部はH－19
79	H－18	甕	[23.0] 19.7	①中粒②良好③明赤褐④2／3	外面ナデ後刷毛目。内面ナデ。	竈	＋H－19
80	H－19	椀	[10.8] [6.3]	①中粒②良好③明赤褐④1／3	外面横ナデ、篦削り。内面ナデ、暗紋。	735外	内黒土師器
81	H－19	椀	10.2 8.7	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	940	
82	H－19	杯	10.0 6.8	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	201外	
83	H－19	椀	11.3 8.4	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	1189	
84	H－19	甕	16.2 (15.3)	①中粒②良好③にぶい橙④1／2	内外面ともナデ。	976外	
85	H－19	甕	14.6 26.3	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外面刷毛目、ナデ。内面ナデ。	904外	竈
86	H－19	小甕	(12.3) 13.0	①中粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	内外面ともナデ。	P1	
87	H－19	甕	14.3 29.5	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面篦削り後篦磨き。内面ナデ。	12外	
88	H－19	甕	18.3 (15.8)	①中粒②良好③にぶい橙④1／2	外面刷毛目後篦磨き。内面ナデ。	589外	
89	H－19	甕	[23.6] 27.2	①中粒②良好③橙④1／2	外面刷毛目、篦削り。内面ナデ。	345外	
90	H－19	甕	[18.9](27.7)	①細粒②良好③にぶい橙④2／3	外面刷毛目、篦削り。内面ナデ。	934	
91	H－19	杯	11.4 5.3	①細粒②極良③黄橙④完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	941	
92	H－19	杯	11.7 5.1	①細粒②極良③橙④完形	外面横ナデ。内面横ナデ、篦削り。	678	
93	H－19	杯	12.4 6.1	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面磨滅のため不明。	P1外	
94	H－19	杯	11.4 5.5	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面暗紋か。	72	
95	H－19	高杯	－－ (7.9)	①細粒②良好③橙④2／3	外面ナデ、暗紋。内面暗紋、ナデ。	959	
96	H－19	杯	13.3 5.2	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、暗紋。暗紋磨滅のため不鮮明。	908	
97	H－19	杯	11.8 5.6	①細粒②極良③橙④完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。内外面とも底部は摩滅が著しい。	200	
98	H－19	杯	12.9 5.9	①細粒②良好③にぶい橙④4／5	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	523	
99	H－19	小甕	9.3 9.8	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	81	
100	H－19	杯	[12.0] 6.3	①細粒②良好③橙④2／3	外面横ナデ、篦削り。内面ナデ、横ナデ。	52	
101	H－19	杯	[14.0] 6.2	①細粒②良好③橙④2／3	外面横ナデ、刷毛目、篦削り。内面横ナデ。	680	
102	H－19	小甕	11.4 13.7	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、強めのナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	79	
103	H－20	甕	6.9 11.0	①細粒②極良③橙④完形	外面磨き、ナデ。内面磨きナデ。赤色塗彩。底部篦削り、塗彩無。	95	赤色塗彩
104	H－20	坩	[7.7] 12.2	①細粒②良好③明赤褐④2／3	外面篦磨き。内面ナデ。	91外	
105	H－20	椀	12.6 6.3	①細粒②極良③橙④完形	外面磨き、ナデ。内面ナデ。	493	
106	H－20	瓶	13.4 9.4	①細粒②良好③橙④完形	外面磨き、ナデ。内面磨き。口唇部刻み。	255	
107	H－20	小甕	10.8 15.2	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	内外面とも篦磨き。口唇部刻み。	412	
108	H－20	台付片口鉢	[12.3](10.6)	①中粒②良好③赤褐④2／3	外面口縁部縄文LR、胴部篦磨き。内面篦磨き。	250外	
109	H－20	台杯甕	[12.5][15.7]	①中粒②良好③明褐④2／3	外面刷毛目、ナデ。内面ナデ。	122外	
110	H－20	高杯	－－ (8.8)	①細粒②良好③浅黄橙④4／5	外面磨き、ナデ。内面ナデ。透孔3単位6個。	78	
111	H－20	器台	[9.4] 8.1	①細粒②良好③橙④4／5	内外面ともナデ。透孔4単位。	413	
112	H－20	器台	9.0 9.2	①細粒②良好③にぶい橙④4／5	内外面ともナデ。透孔4単位。	414外	
113	H－20	高杯	19.8 (20.8)	①中粒②良好③赤④2／3	内外面とも篦磨き。三角形の透孔4単位。	209外	赤色塗彩
114	H－20	高杯	[17.6] 14.4	①細粒②良好③橙④1／2	外面磨き、ナデ。内面ナデ。透孔3単位。	423	
115	H－20	甕	[15.1] (7.6)	①中粒②良好③赤褐④口縁1／2	外面口縁部・肩部縄文RL。内面篦磨き。	37外	赤井戸式・
116	H－20	壺	13.9 (7.8)	①細粒②良好③橙④口縁のみ	外面口縁部・胴部波状文、頸部簾状文。内面篦磨き。	208	樽式系
117	H－20	甕	[15.1](17.6)	①中粒②良好③橙④口縁～胴部1／3	外面縄文LR、篦磨き。内面篦磨き。	408外	赤井戸式
118	H－21	小甕	[11.3] 10.8	①中粒②良好③明赤褐④2／3	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ。	1623(中)	竈内。134の中。
119	H－21	小甕	[11.8] 11.2	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	1622	竈内

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土②焼成③色調④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
120	H−21	甕	15.9	10.1	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、箆削り。内面横ナデ、ナデ。	1204	
121	H−21	杯	12.3	5.9	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、箆削り。内面横ナデ、ナデ。	1199	
122	H−21	杯	[12.8]	6.4	①中粒②良好③にぶい橙④2／3	外面箆削り。内面ナデ。	1245外	
123	H−21	杯	16.0	6.1	①中粒②良好③橙④2／3	外面横ナデ、箆削り。内面横ナデ、ナデ。	1363	
124	H−21	杯	15.5	7.4	①中粒②良好③明赤褐④ほぼ完形	外面横ナデ、箆削り。内面横ナデ、暗紋。	1200	
125	H−21	小　壺	12.1	13.8	①中粒②良好③明赤褐④完形	外面横ナデ、ナデ、箆削り。底部箆削り。内面横ナデ、ナデ。	1205	
126	H−21	小　壺	14.0	11.1	①中粒②良好③にぶい橙④完形	外面箆削り、横ナデ。内面横ナデ、ナデ。	1203	
127	H−21	杯	13.7	5.1	①中粒②極良③橙④完形	外面横ナデ、箆削り。内面暗紋。	1364	
128	H−21	椀	11.4	8.1	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、箆削り。内面横ナデ、ナデ。	1626	支柱
129	H−21	椀	11.2	7.4	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、ナデ。内面ナデ。	883外	
130	H−21	椀	[13.4]	[8.4]	①中粒②良好③赤④1／2	内外面ともナデ。	824外	赤色塗彩
131	H−21	小　壺	12.4	14.9	①中粒②良好③明赤褐④ほぼ完形	外面横ナデ、箆削り、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	1264	
132	H−21	甕	26.3	33.0	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	内外面ともナデ。	1201	
133	H−21	甕	21.3	19.0	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、縦方向の箆削りの後、横方向のナデ。内面横ナデ、ナデ。	1260	
134	H−21	甕	[15.5]	26.7	①中粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面箆削り。内面ナデ。	1193外	竈内手前
135	H−21	甕	17.4	30.4	①中粒②良好③褐④ほぼ完形	内外面ともナデ。	1624	竈内奥
136	H−22	台付甕	−−	(8.9)	①中粒②良好③にぶい橙④1／3	外面刷毛目、ナデ。内面刷毛目。	27	
137	H−23	甕	[13.4]	(4.5)	①中粒②良好③明褐④口縁破片	外面口縁部波状文、頸部簾状文。内面ナデ。	覆土	樽式系
138	H−24	高　杯	[13.9]	(4.5)	①細粒②良好③橙④口縁破片	内外面とも箆磨き。	26	
139	H−25	高　杯	[18.2]	(5.2)	①中粒②良好③暗褐④口縁破片	内外面ともナデ。	2	
140	H−26	椀	12.8	6.8	①細粒②良好③明黄褐④完形	内外面ともナデ。	134	
141	H−26	甕	17.4	10.5	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	内外面とも箆磨き。	280	
142	H−26	甕	−−	(4.8)	①細粒②良好③褐④破片	外面縄文ＬＲとＲＬによる羽状構成。内面ナデ。	119	
143	H−26	小　壺	11.2	9.8	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、横毛目、箆削り。内面ナデ。	281	
144	H−26	片口鉢	7.7	10.3	①細粒②良好③橙④完形	外面ナデ。内面ナデ、磨き。	133	
145	H−26	高　杯	[20.9]	14.1	①細粒②良好③橙④2／3	外面箆磨き。内面箆磨き、ナデ。透孔３単位８個。	184外	
146	H−28	須恵器杯	[12.2]	3.9	①細粒②良好③灰オリーブ④2／3	内外面とも轆轤ナデ。底部回転糸切り。	355	
147	H−28	須恵器杯	12.2	3.6	①細粒②極良③褐灰④ほぼ完形	内外面とも轆轤ナデ。底部回転糸切り。	300	
148	H−28	須恵器杯	12.2	3.8	①細粒②良好③灰④ほぼ完形	内外面とも轆轤ナデ。底部回転糸切り。	8外	刻線
149	H−28	甕	[17.8]	(7.9)	①細粒②良好③明赤褐④口縁破片	外面箆削り。内面ナデ。	17	コの字状口縁
150	H−28	杯	[12.3]	(12.3)	①細粒②良好③橙④2／3	外面ナデ、指オサエ。内面ナデ。黒雲土器。	P1	「人」の墨書
151	H−29	小　壺	[9.0]	(6.2)	①細粒②良好③暗赤褐④1／4	内外面ともナデ。	347	
152	H−29	高　杯	−−	(3.9)	①中粒②良好③明黄褐④破片	外面ナデ。内面刷毛目、ナデ。	2	
153	H−30	甕	[11.2]	(2.7)	①細粒②良好③橙④口縁破片	外面縄文ＬＲ。内面ナデ。	32	赤井戸式
154	H−30	高　杯	−−	(5.9)	①細粒②良好③黄橙④脚部のみ	外面磨き、ナデ。内面ナデ。透孔４単位。	43	
155	H−30	高　杯	−−	(6.2)	①細粒②良好③橙④脚部	内外面ともナデ。透孔４単位。	42	
156	H−32	高　杯	[13.2]	(5.3)	①細粒②良好③明赤褐④杯部2／3	内外面ともナデ。	2	
157	H−32	高　杯	[16.8]	(5.5)	①中粒②良好③明赤褐④杯部1／2	内外面ともナデ。	3	
158	H−33	片口鉢	8.5	7.1	①細粒②良好③にぶい黄橙④完形	外面縦方向の削り後ナデ。底部磨き。内面磨き。	224	
159	H−33	器台	−−	(6.6)	①中粒②良好③橙④脚部のみ	外面箆磨き。内面ナデ。透孔３単位。	281	
160	H−33	高　杯	6.7	8.9	①細粒②良好③明黄褐④完形	外面箆磨き、ナデ。内面ナデ。	280	
161	H−33	椀	15.0	7.0	①細粒②良好③橙④4／5	外面ナデ。内面箆磨き。	276	
162	H−33	高　杯	19.8	(6.8)	①中粒②良好③橙④杯部のみ	外面ナデ。内面箆磨き。	220	
163	H−33	甕	[15.2]	(6.8)	①細粒②良好③橙④口縁2／3	外面縄文ＲＬ。内面箆磨き。	254外	赤井戸式
164	H−33	壺	[14.7]	(7.4)	①細粒②良好③にぶい橙④口縁3／4	外面縄文ＲＬ。内面箆磨き。	251外	赤井戸式
165	H−34	甕	[14.2]	9.0	①中粒②良好③橙④3／4	外面口縁部縄文ＲＬ、胴部箆磨き。内面箆磨き。	143	赤井戸式
166	H−34	甕	[12.5]	20.1	①中粒②良好③橙④3／4	外面口縁部から胴上部縄文ＬＲ、胴下部箆磨き。内面箆磨き、ナデ。	140	赤井戸式
167	H−35	杯	12.5	3.7	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ。内面ナデ。	133外	

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土②焼成③色調④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
168	H－36	高杯	[18.3]	(5.5)	①細粒②良好③にぶい橙④口縁破片	内外面とも篦磨き。	123	
169	H－37	椀	[10.7]	4.3	①中粒②良好③褐④1／3	内外面とも篦磨き。	123外	＋H－38
170	H－37	器台	－－	(7.0)	①細粒②良好③橙④杯下部	内外面とも篦磨き。透孔3単位。	106	＋H－38・1
171	H－38	甕	－－	(6.2)	①中粒②良好③橙④口縁破片1／3	外面横位羽状文、肩上部縄文LR。内面ナデ。	123外	赤井戸式
172	H－38	鉢	[10.3]	(6.3)	①中粒②良好③にぶい黄橙④1／4	内外面とも篦磨き、ナデ。	125外	
173	H－38	高杯	－－	(7.0)	①中粒②良好③にぶい橙④脚部2／3	外面篦磨き。内面ナデ。透孔4単位。	120外	
174	H－38	台付甕	[15.0]	16.9	①細粒②良好③にぶい赤褐④3／4	外面口縁部・肩部波状文、頸部羽状文、胴部・脚部篦磨き。内面篦磨き、ナデ。	127	
175	H－41	片口鉢	[8.6]	9.6	①中粒②良好③にぶい黄橙④1／2	外面磨き、ナデ。内面ナデ。	155	
176	H－41	壺	8.3	14.5	①細粒②良好③黄橙④完形	内外面とも磨き、ナデ。	157	
177	H－41	小型	12.2	13.5	①中粒②良好③赤褐④2／3	外面斜毛目、篦磨き。内面斜毛目、ナデ。	59	
178	H－41	甕	[13.3]	(21.1)	①細粒②良好③赤褐④1／4	外面縄文LR、篦磨き。内面ナデ。	156	赤井戸式
179	H－41	甕	14.0	(17.3)	①中粒②良好③にぶい橙④口縁1／3	外面斜毛目。内面ナデ。	41外	
180	H－42	片口鉢	6.0	5.4	①細粒②良好③黄褐④完形	内外面ともナデ。	46	
181	H－44	高杯	－－	(7.5)	①細粒②良好③橙④脚部1／3	外面斜毛目、ナデ。内面ナデ。	135外	
182	D－22	小型	[10.6]	10.6	①中粒②良好③明赤褐④2／3	内外面とも横ナデ、ナデ。	覆土	
183	D－10	常滑	[22.1]	(4.6)	①細粒②良好③にぶい褐④底部のみ	外面ナデ、叩き。内面叩き。	覆土	
184	W－1	小型	[13.1]	(14.6)	①細粒②良好③褐④2／3	外面口縁部・肩部波状文、頸部羽状文。胴部篦磨き。内面篦磨き。	－－	樽式系
185	W－1	片口鉢	6.3	4.9	①細粒②良好③橙④完形	内外面ともナデ。底部削り。	2	
186	W－1	小型	[7.6]	7.9	①細粒②良好③にぶい赤褐④ほぼ完形	外面口縁部・肩部波状文、胴部ナデ、篦磨き。内面篦磨き。	1	樽式系
187	W－1	椀	10.3	5.2	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面削りの後ナデ。内面ナデ。底部削り。	3	
188	W－4	高杯	12.0	(4.0)	①中粒②良好③明黄褐④杯部	外面ナデ、磨き。内面磨き。	1	
189	W－6	須恵杯	12.8	3.5	①細粒②良好③灰白④完形	内外面とも轆轤ナデ。底部回転糸切り。	1	
190	W－18	台付甕	13.3	(9.6)	①細粒②良好③橙④2／3	外面口縁部・肩部波状文、胴部ナデ、篦磨き。内面篦磨き。	－－	樽式系
191	W－18	高杯	[14.6]	10.6	①細粒②良好③にぶい橙④1／3	外面篦磨き、ナデ。内面篦磨き、斜毛目、ナデ。	－－	
192	W－25	内耳鍋	[32.2]	(8.5)	①細粒②良好③褐灰④口縁破片	轆轤ナデ。	－－	
193	C区表	甕	[17.9]	(29.1)	①中粒②良好③明褐④2／5	外面篦削り、篦磨き。内面ナデ。	－－	
194	U－1	鏡文往ロ	[6.1]	[14.2]	①細②極良③灰黄褐④2／3・往ロ欠損	沈線による渦巻き。円形刺突。	1	堰之内Ⅱ
195	H－39	土製勾玉	＜長(2.3)・幅(1.5)・厚 0.7 ・重 1.6＞			①細粒②良好③橙④2／3⑤ナデ	－－	
196	H－39	土玉	＜長(1.4)・幅(1.3)・厚 1.4 ・重 2.2＞			①細粒②良好③黒褐④ほぼ完形⑤ナデ	489	
197	H－39	土玉	＜長 1.1 ・幅 1.0 ・厚 1.1 ・重 1.2＞			①細粒②良好③にぶい黄橙④完形⑤ナデ	1077	
198	H－1	土玉	＜長(3.0)・幅(1.8)・厚(2.8)・重12.0＞			①中粒②良好③にぶい黄橙④1／2⑤ナデ	269	
199	H－6	手捏土器	[5.4]	(1.9)	①細粒②良好③黄褐④破片	外面斜毛目、ナデ。内面ナデ。	383	高杯
200	H－16	手捏土器	－－	(2.8)	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	内外面ともナデ。	300	鉢
201	H－16	手捏土器	3.9	4.7	①細粒②良好③明褐④ほぼ完形	外面磨き。内面磨き、ナデ。透孔3単位6個。	169	高杯
202	H－19	手捏土器	4.7	3.1	①細粒②良好③にぶい橙④完形	内外面とも指ナデ。	811	鉢
203	H－19	手捏土器	7.5	3.7	①中粒②良好③にぶい褐④ほぼ完形	内外面ともナデ。	702	鉢
204	H－19	手捏土器	[5.7]	6.3	①中粒②良好③にぶい黄橙④1／2	外面篦削り。内面ナデ。	320外	鉢。＋W－5
205	H－21	手捏土器	[6.8]	3.5	①中粒②良好③にぶい赤褐④1／6	外面篦削り。内面ナデ。	216	鉢
206	H－21	手捏土器	[6.4]	5.0	①細粒②良好③にぶい黄橙④1／6	外面篦削り。内面ナデ。	204	鉢
207	H－37	手捏土器	[6.2]	2.7	①細粒②良好③橙④3／5	内外面ともナデ。	38	鉢
208	H－39	手捏土器	5.9	3.6	①細粒②良好③橙④完形	内外面ともナデ。	1140	鉢
209	W－4	手捏土器	－－	(3.4)	①中粒②良好③橙④脚部1／3	外面ナデ、斜毛目。内面ナデ。	－－	高杯
210	H－16	紡錘車状	＜径 3.9 ・厚1.5・重26.0・孔は無い＞			①細粒②良好③明赤褐④完形⑤ナデ。	493	
211	H－1	紡錘車	＜径[4.6]・厚1.1・重10.5・孔径[0.6]＞			①細粒②良好③橙④1／3⑤ナデ、磨き。	393	
212	H－26	紡錘車	＜径 5.3 ・厚1.5・重51.0・孔径 0.8 ＞			①細粒②良好③黄褐④完形⑤磨き。	200	
213	H－32	紡錘車	＜径 4.3 ・厚1.7・重37.0・孔径 0.8 ＞			①細粒②良好③明褐④完形⑤磨き。	1	
214	H－33	紡錘車	＜径 3.9 ・厚2.0・重39.0・孔径 0.6 ＞			①細粒②良好③橙④完形⑤磨き。	221	
215	H－2	磨製石鏃	①2.7②1.9③0.3④1.2⑤基部欠損⑥頁岩				683	
216	H－2	磨製石鏃	①4.5②2.0③0.3④3.0⑤ほぼ完形⑥頁岩				710	
217	W－5	石鏃	①3.3②2.3③0.5④3.2⑤基部欠損⑥珪質凝灰岩				－－	凹基無茎式
218	H－16	石鏃	①3.0②1.7③0.7④2.4⑤先端欠損⑥安山岩				421	飛行機鏃気味

番号	出土位置	器形	大きさ 口径 器高	①胎土②焼成③色調④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
219	X130-Y58G	石鏃		①2.3②1.1③0.3④0.4⑤基部欠損⑥黒色安山岩		−−	凹基無茎式
220	H−33	石鏃		①1.8②1.6③0.3④0.5⑤完形・基部研磨⑥黒曜石		261	凹基無茎式
221	X127-Y59G	石鏃		①1.3②1.1③0.3④0.3⑤先端・基部欠損⑥黒曜石		−−	凹基無茎式
222	H−21	粘土塊		≪長11.1・幅10.7・厚10.7・重 770.0≫①細粒②良好③にぶい橙④上部にノブ状の塊がつく		1202	焼失家屋
223	H−21	粘土塊		≪長21.5・幅20.7・厚11.9・重4,050.0≫①細粒②良好③橙④中央部は手で粘土を抉り取ってある		1236	焼失家屋
224	H−31	砥・敲・磨石		①20.3②12.6③5.7④1,750.0⑤完形⑥砂岩（2面使用）		12	
225	H−18	砥石		①6.5②6.0③5.0④181.0⑤完形⑥粗粒安山岩（1面使用）		602	
226	H−33	敲・磨石		①8.2②6.8③5.4④414.0⑤完形⑥粗粒安山岩（2面使用・先端使用）		344	
227	H−19	敲石		①11.8②8.1③4.2④423.0⑤完形⑥粗粒安山岩（1面使用）		390	
228	H−37	敲石		①13.5②6.9③5.9④633.0⑤完形⑥粗粒安山岩（1面使用・先端使用）		237	
229	H−28	敲石		①14.0②8.5③5.4④787.0⑤完形⑥粗粒安山岩（1面使用・先端使用）		302	
230	H−31	敲・磨石		①12.6②7.7③7.0④960.0⑤完形⑥砂岩（2面使用）		9	
231	H−33	砥石		①17.7②11.7③10.8④1,240.0⑤完形⑥粗粒安山岩（4面使用）		387	
232	H−41	砥石		①18.0②17.3③10.5④2,960.0⑤完形⑥粗粒安山岩（2面使用）		654	
233	H−7	砥石		①18.7②10.8③6.5④2,010.0⑤完形⑥粗粒安山岩（1面使用）		390	竪支柱
234	H−18	砥・敲石		①14.3②9.3③8.2④500.0⑤完形⑥粗粒安山岩（4面使用）		7	
235	X100-Y58G	縄文深鉢		①繊維②良好③黄褐④胴部⑤内外面とも貝殻条痕文		−−	早期末
236	H−6	縄文深鉢		①中粒②良好③橙④胴部⑤半截竹管・連続爪形文・縄文RL		133	諸磯b
237	X104-Y59G	縄文深鉢		①細粒②良好③橙④口縁⑤半截竹管・連続爪形文・縄文RL		−−	諸磯a
238	A区表採	縄文深鉢		①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部に近い部分⑤連続爪形文・半截竹管		−−	諸磯b
239	H-13周辺	縄文深鉢		①細粒②良好③にぶい黄橙④口縁⑤半截竹管・連続爪形文・円管文		−−	諸磯a
240	H−16	縄文深鉢		①細粒②良好③橙④胴部⑤半截竹管・連続爪形文・縄文RL		657	諸磯b
241	H−2	縄文深鉢		①細粒②良好③橙④胴部⑤半截竹管・連続爪形文・縄文RL		18	諸磯b
242	H−16	縄文深鉢		①中粒②良好③橙④胴部⑤半截竹管・連続爪形文・縄文RL		321	諸磯b
243	X104-Y59G	縄文深鉢		①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁⑤半截竹管・連続爪形文・縄文RL		−−	諸磯a
244	W−24	縄文深鉢		①中粒②良好③明褐④胴部⑤沈線・磨消縄文・縄文RL		−−	加曽利E4
245	X101-Y58G	縄文深鉢		①中粒②良好③明黄褐④胴部⑤沈線・磨消縄文・縄文RL		−−	加曽利E4
246	H-13周辺	縄文深鉢		①中粒②極良③明黄褐④胴部⑤集合沈線・縄文RL		−−	諸磯b
247	H−33	縄文深鉢		①中粒②良好③橙④胴部⑤沈線・縄文LR		204	堀之内I
248	H−19	縄文深鉢		①細粒②良好③黄橙④胴部⑤沈線・条線		493	加曽利E4
249	X110-Y56G	縄文深鉢		①中粒②良好③明黄褐④胴部⑤沈線・条線		−−	加曽利E4
250	H−33	縄文深鉢		①細粒②良好②にぶい黄橙④胴部⑤縄文RL		46外	加曽利E4
251	H−35	縄文深鉢		①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部⑤沈線による渦巻き・磨消縄文・縄文L		120	称名寺II
252	C区表	縄文深鉢		①中粒②良好③灰黄褐④胴部⑤沈線による渦巻き・磨消縄文・縄文L		−−	称名寺II
253	C区表	縄文深鉢		①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部⑤沈線による渦巻き・磨消縄文・縄文L		−−	称名寺II
254	X110-Y56G	縄文深鉢		①中粒②良好②にぶい黄橙④口縁⑤鎖状隆帯		−−	堀之内II
255	C区表	縄文深鉢		①細粒②良好③にぶい黄橙④胴部⑤沈線・縄文LR		−−	堀之内I
256	C区表	縄文深鉢		①中粒②良好③にぶい黄褐④胴部⑤沈線による渦巻き・磨消縄文・縄文L		−−	称名寺II
257	X100-Y52G	常滑		①細粒②極良③にぶい褐④胴部⑤内外面叩き		−−	

註）1．縄文土器・常滑甕の観察項目は、①胎土②焼成③色調④残存⑤文様・整形方法の順で記載した。

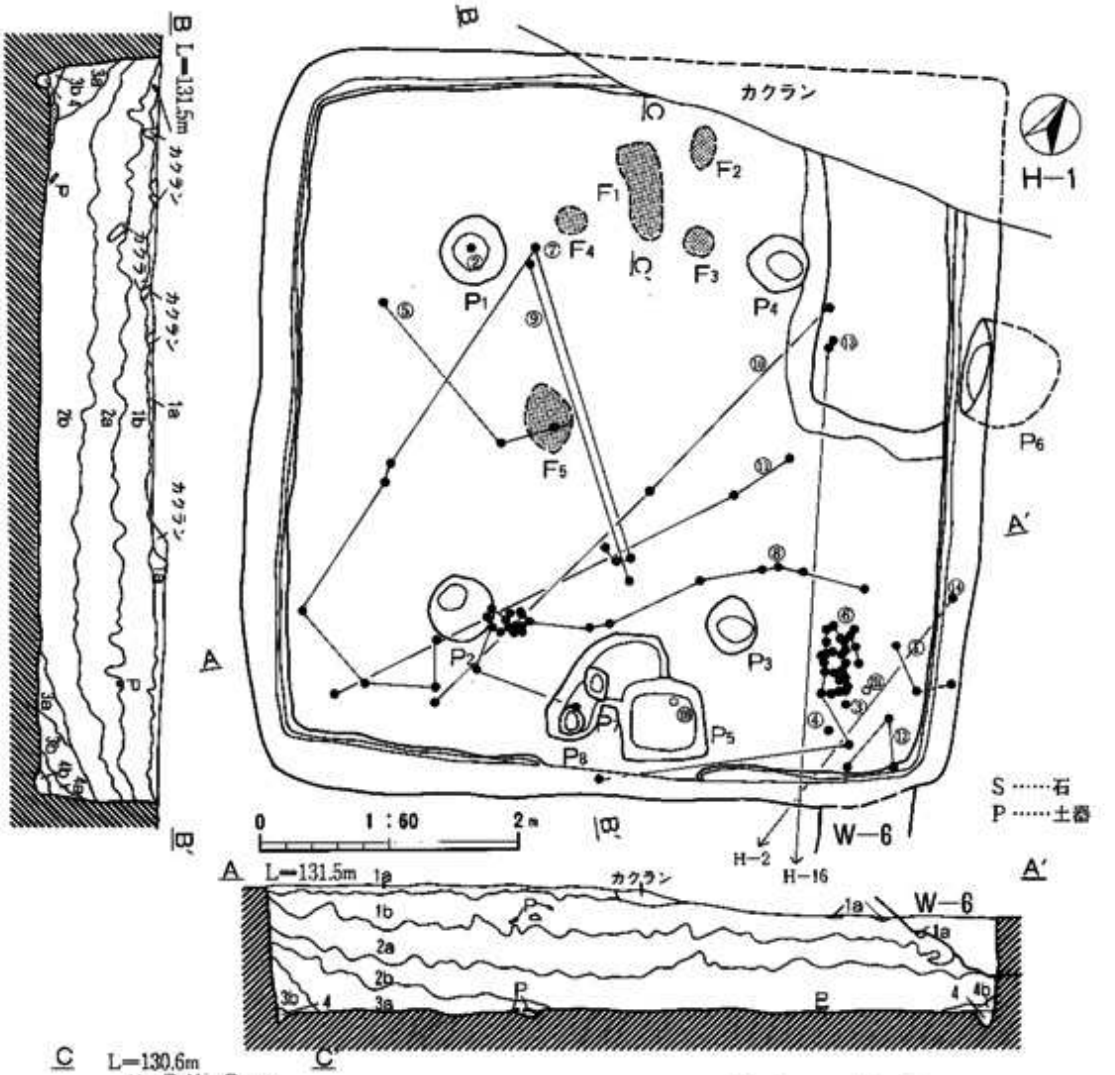
2．土・上製品・石器・石製品の観察項目は、①最大長②最大幅③最大厚④重さ⑤残存⑥石材の順で記載した。

3．①胎土は細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0mm～1.9mm）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名を記載。

②焼成は極良、良好、不良の3段階評価。

③色調は土器外面を観察し、色名は新版標準土色帖（小山・竹原1976）によった。

④大きさの単位はcm、gであり、現存値を（ ）、復元値〔 〕で示した。その他の小片については所属部位を記載した。



H－1号住居址層序説明

1a層	黒褐色粗砂層。As-Bを15％含む。
1b層	暗褐色粗砂層。As-C・Hr-FPを25％含む。
2a層	黄褐色細砂層。ローム土主体。As-Cを20％含む。
2b層	褐色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。
3a層	褐色細砂層。黒色土主体。
3b層	にぶい黄褐色細砂層。黒色土主体。
4層	明黄褐色砂層。ローム土主体。
4a層	黄褐色細砂層。ローム土主体。
4b層	明黄褐色細砂層。ローム土主体。

H－2号住居址層序説明

1層	黒褐色細砂層。As-Cを20％含む。上部にAs-Bが入る。
1a層	黒褐色細砂層。
1b層	暗褐色細砂層。
2層	暗褐色細砂層。As-Cを15％含む。
3層	暗褐色細砂層。
3a層	暗褐色細砂層。
4層	にぶい黄褐色細砂層。ローム土主体。
5層	黄褐色細砂層。ローム土主体。
5a層	褐色細砂層。ローム土主体。
5b層	黄褐細砂層。ローム土主体。
6層	明黄褐微砂層。ローム土主体。

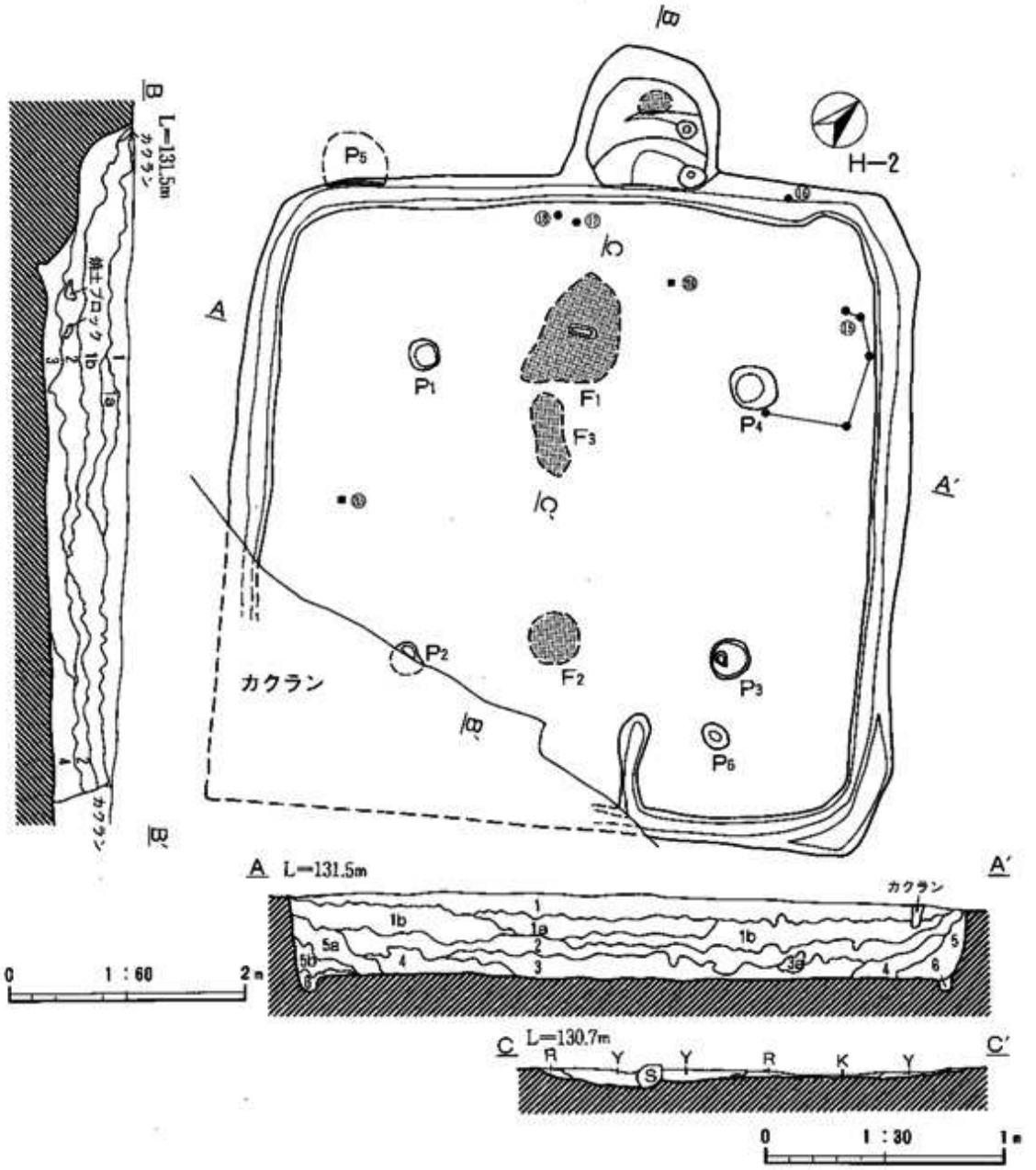
H－1　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	54	50	69	
P-2	円形	50	50	57	
P-3	円形	44	38	60	
P-4	円形	46	44	68	
P-5	不整形	65	64	50	貯蔵穴
P-6	円形	79	74	120	貯蔵穴
P-7	円形	28	20	15	
P-8	円形	20	20	5	

H－2　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	28	26	46	
P-2	－	(27)	(12)	(20)	
P-3	円形	35	32	29	
P-4	円形	41	37	40	
P-5	円形	47	43	46	横穴貯蔵穴
P-6	円形	25	18	35	

Fig. 15　H－1号住居址



H－3　柱穴一覧

No.	形　状	長径	短径	深さ	備　考
P-1	円　形	46	22	78	
P-2	－	(62)	(40)	55	
P-3	－	(50)	(33)	64	
P-4	円　形	－	58	47	貯蔵穴
P-5	－	(28)	(20)	7	

H－4　柱穴一覧

No.	形　状	長径	短径	深さ	備　考
P-1	円　形	46	34	76	
P-2	円　形	42	38	76	
P-4	円　形	33	26	79	
P-5	不整形	95	73	35	貯蔵穴

Fig. 16　H－2号住居址

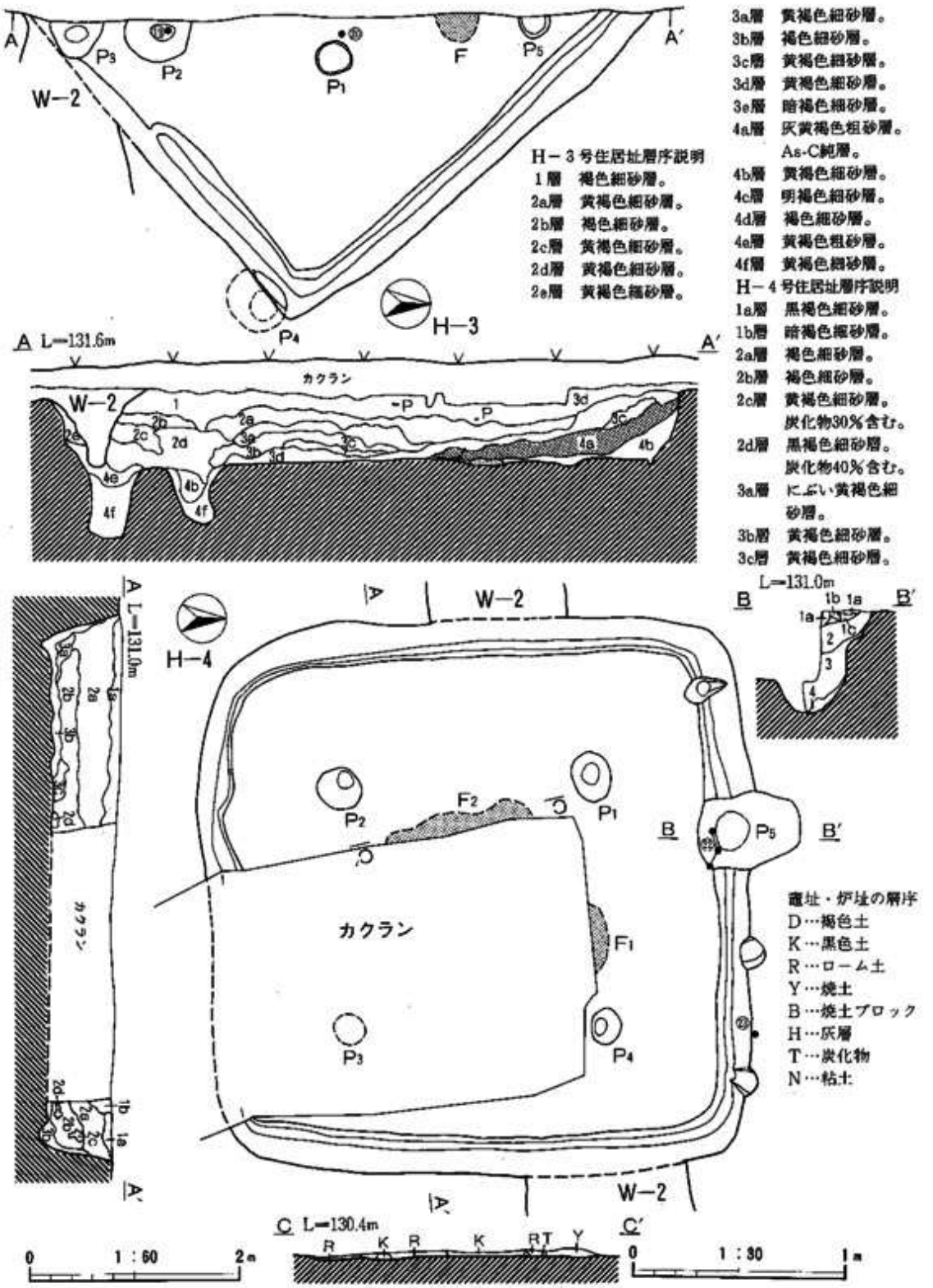
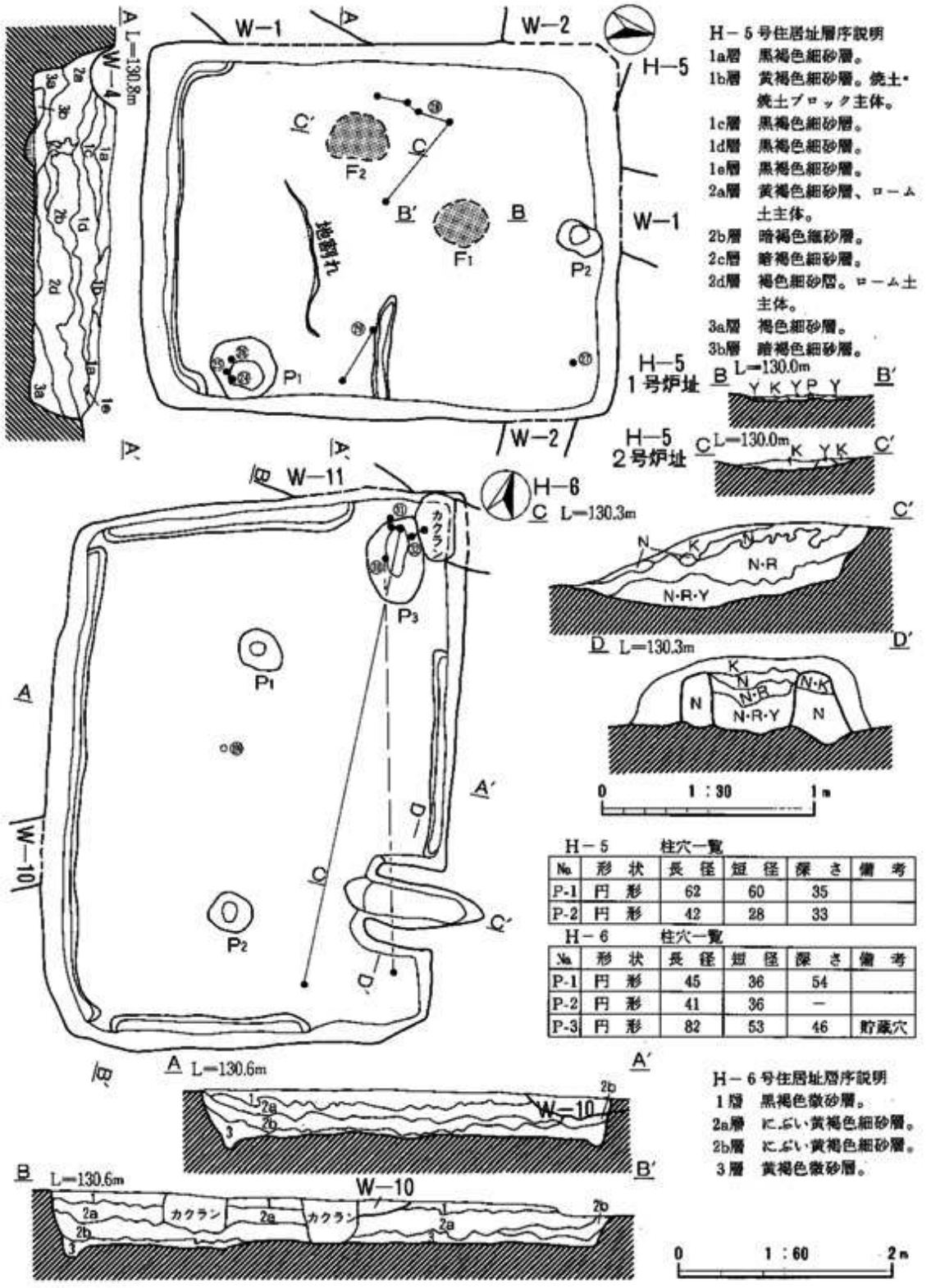


Fig. 17　H－3・4号住居址



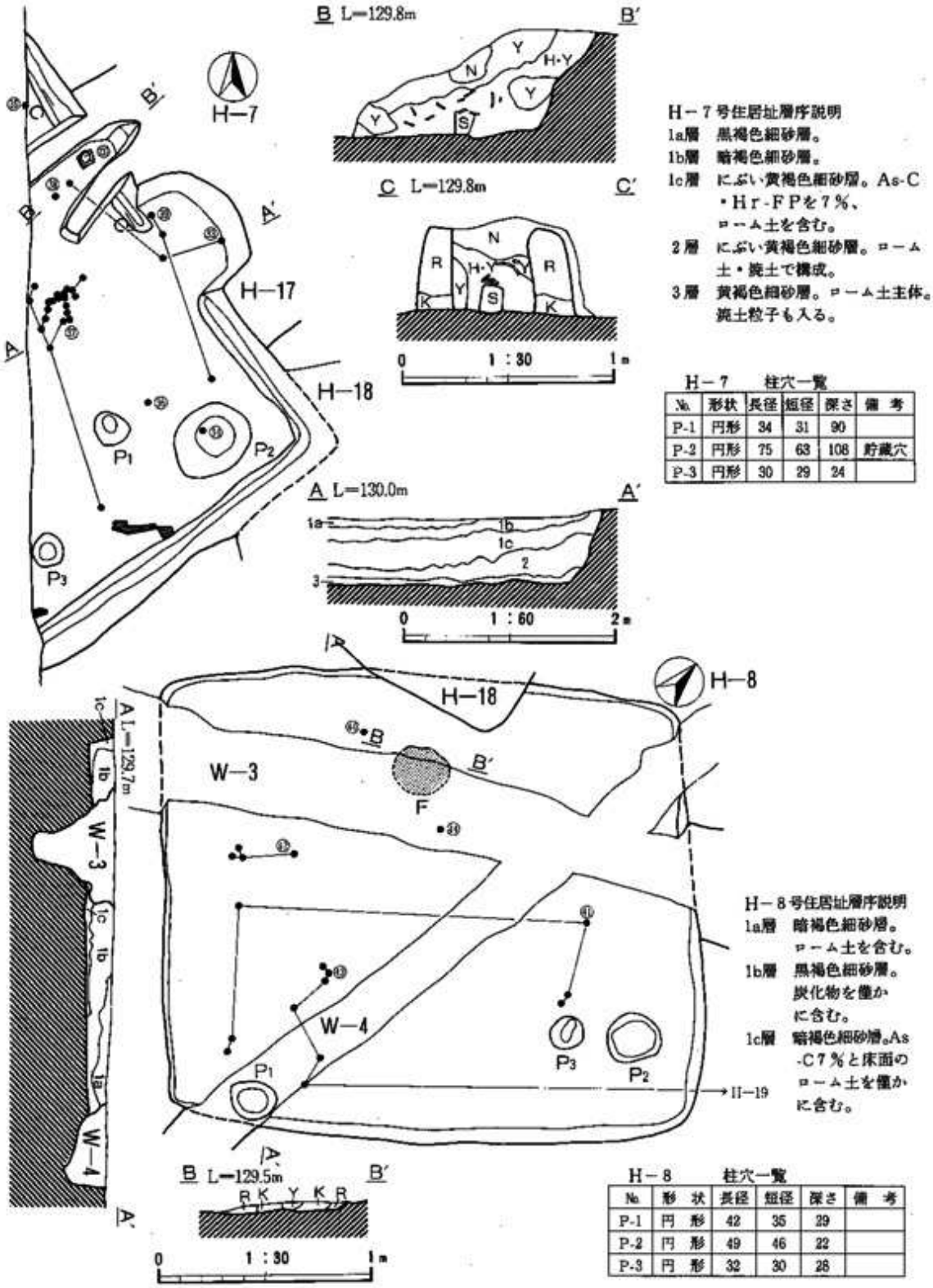
H−5 柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	62	60	35	
P-2	円形	42	28	33	

H−6 柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	45	36	54	
P-2	円形	41	36	−	
P-3	円形	82	53	46	貯蔵穴

Fig. 18 H−5・6号住居址



H－7号住居址層序説明

1a層　黒褐色細砂層。
1b層　暗褐色細砂層。
1c層　にぶい黄褐色細砂層。As-C・Hr-FPを7%、ローム土を含む。
2層　にぶい黄褐色細砂層。ローム土・焼土で構成。
3層　黄褐色細砂層。ローム土主体。焼土粒子も入る。

H－7　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	34	31	90	
P-2	円形	75	63	108	貯蔵穴
P-3	円形	30	29	24	

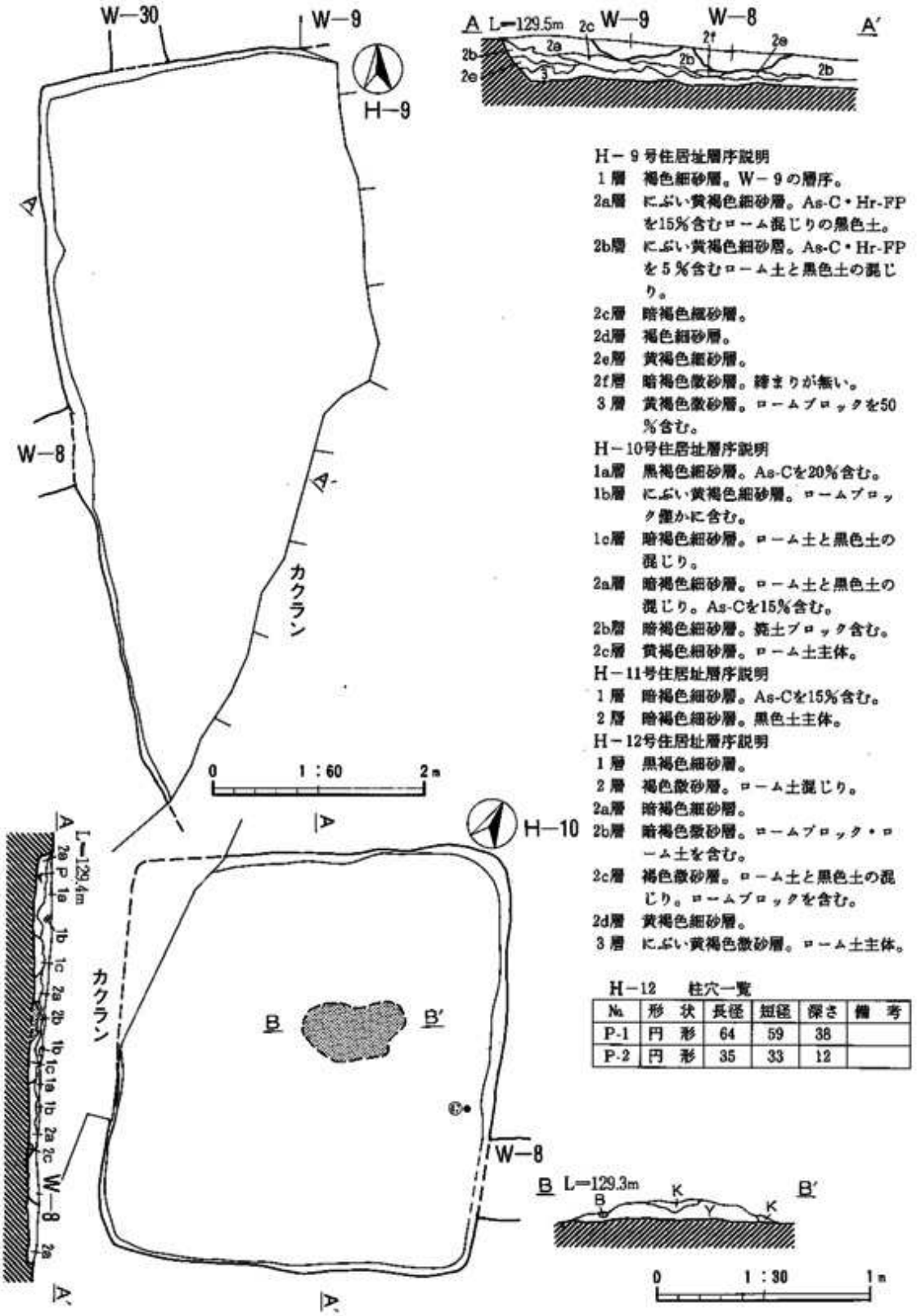
H－8号住居址層序説明

1a層　暗褐色細砂層。ローム土を含む。
1b層　黒褐色細砂層。炭化物を僅かに含む。
1c層　暗褐色細砂層。As-C7%と床面のローム土を僅かに含む。

H－8　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	42	35	29	
P-2	円形	49	46	22	
P-3	円形	32	30	26	

Fig. 19　H－7・8号住居址



H－9号住居址層序説明

1層　褐色細砂層。W－9の層序。
2a層　にぶい黄褐色細砂層。As-C・Hr-FPを15%含むローム混じりの黒色土。
2b層　にぶい黄褐色細砂層。As-C・Hr-FPを5%含むローム土と黒色土の混じり。
2c層　暗褐色極砂層。
2d層　褐色細砂層。
2e層　黄褐色細砂層。
2f層　暗褐色微砂層。締まりが無い。
3層　黄褐色微砂層。ロームブロックを50%含む。

H－10号住居址層序説明

1a層　黒褐色細砂層。As-Cを20%含む。
1b層　にぶい黄褐色細砂層。ロームブロック僅かに含む。
1c層　暗褐色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。
2a層　暗褐色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。As-Cを15%含む。
2b層　暗褐色細砂層。焼土ブロック含む。
2c層　黄褐色細砂層。ローム土主体。

H－11号住居址層序説明

1層　暗褐色細砂層。As-Cを15%含む。
2層　暗褐色細砂層。黒色土主体。

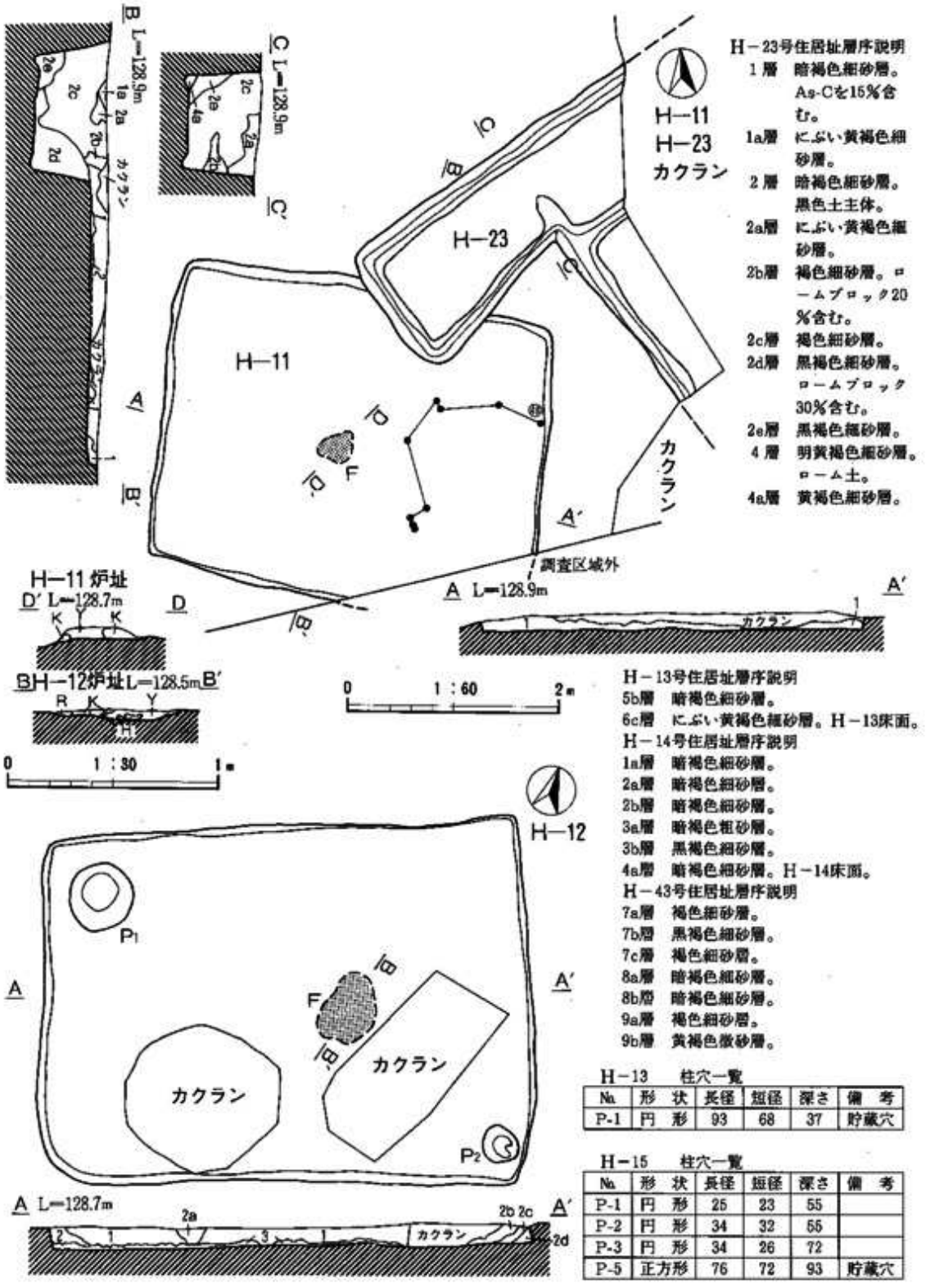
H－12号住居址層序説明

1層　黒褐色細砂層。
2層　褐色微砂層。ローム土混じり。
2a層　暗褐色細砂層。
2b層　暗褐色微砂層。ロームブロック・ローム土を含む。
2c層　褐色微砂層。ローム土と黒色土の混じり。ロームブロックを含む。
2d層　黄褐色細砂層。
3層　にぶい黄褐色微砂層。ローム土主体。

H－12　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	64	59	38	
P-2	円形	35	33	12	

Fig. 20　H－9・10号住居址



H−13　柱穴一覧

No.	形　状	長径	短径	深さ	備　考
P-1	円　形	93	68	37	貯蔵穴

H−15　柱穴一覧

No.	形　状	長径	短径	深さ	備　考
P-1	円　形	25	23	55	
P-2	円　形	34	32	55	
P-3	円　形	34	26	72	
P-5	正方形	76	72	93	貯蔵穴

Fig. 21　H−11・12・23号住居址

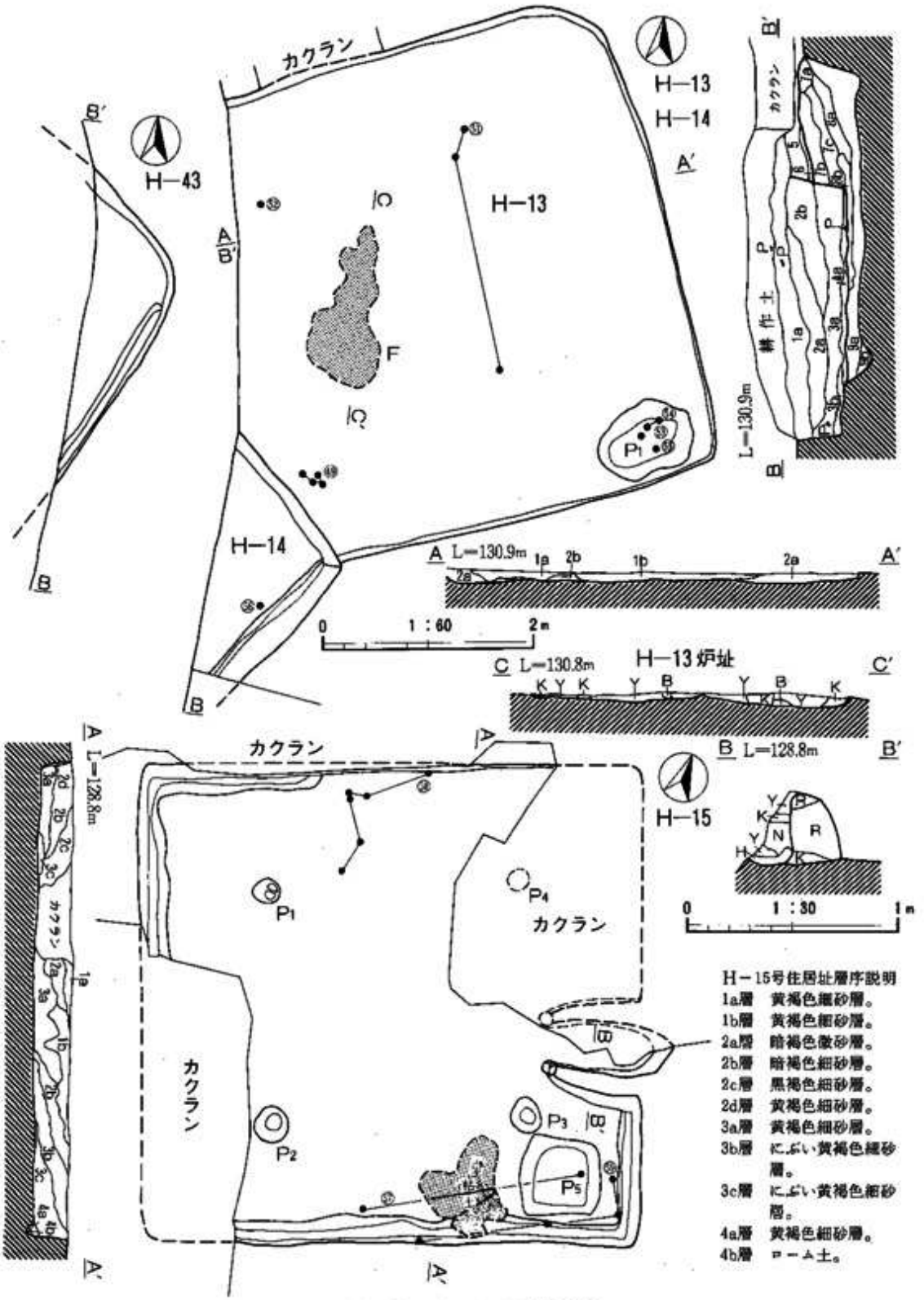
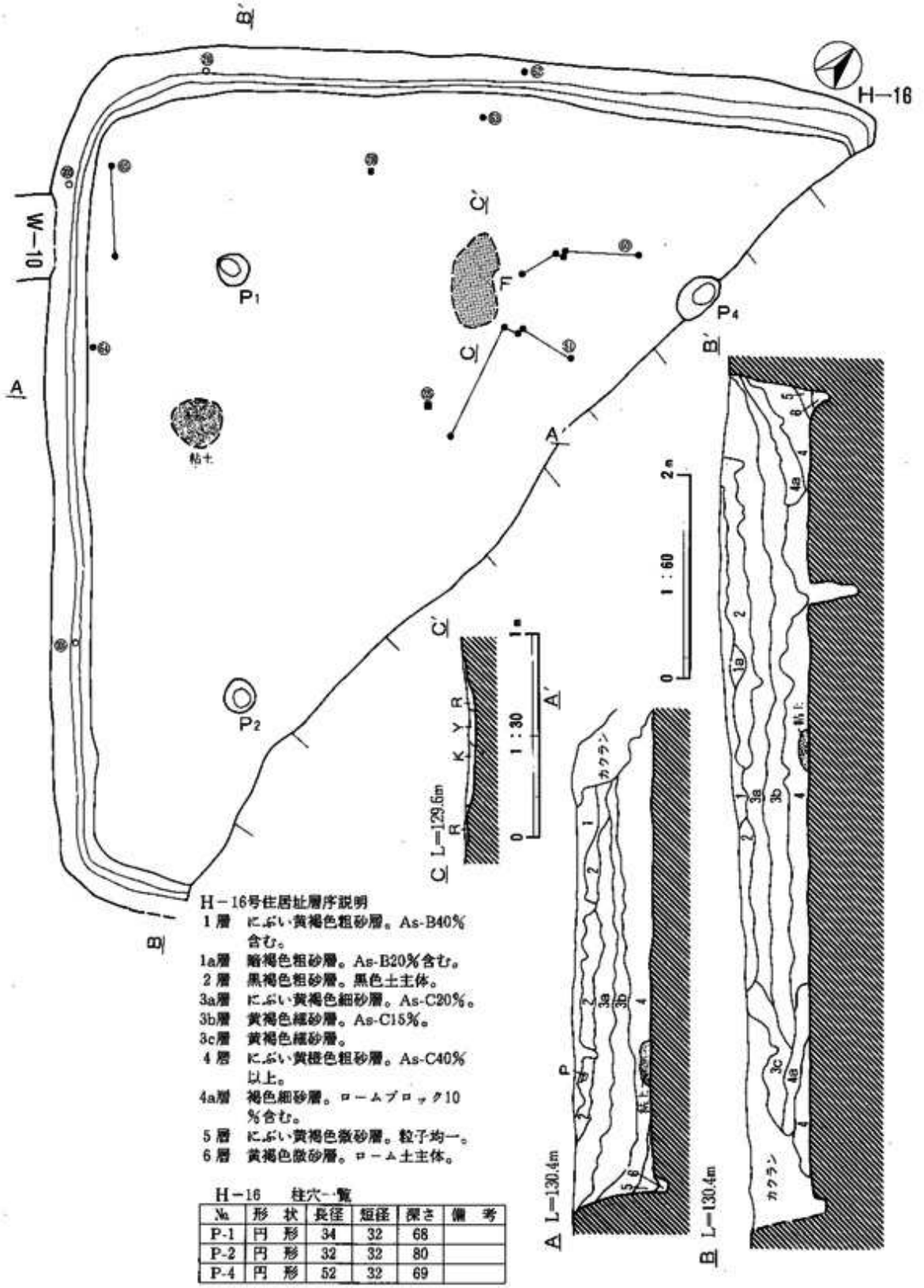


Fig. 22 H−13〜15・43号住居址



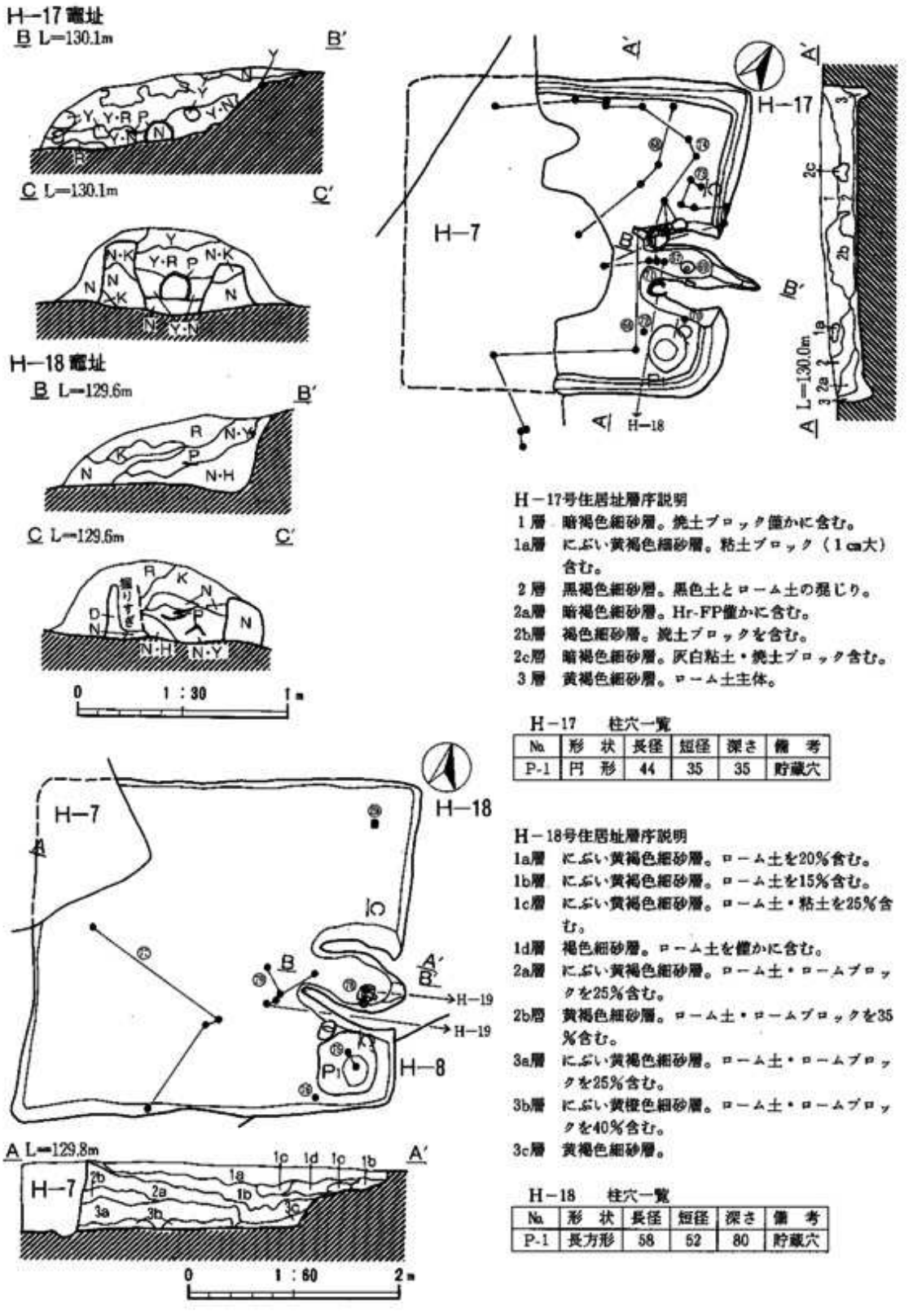
H−16号住居址層序説明

1層　にぶい黄褐色粗砂層。As-B40%含む。
1a層　暗褐色粗砂層。As-B20%含む。
2層　黒褐色粗砂層。黒色土主体。
3a層　にぶい黄褐色細砂層。As-C20%。
3b層　黄褐色細砂層。As-C15%。
3c層　黄褐色細砂層。
4層　にぶい黄橙色粗砂層。As-C40%以上。
4a層　褐色細砂層。ロームブロック10%含む。
5層　にぶい黄褐色微砂層。粒子均一。
6層　黄褐色微砂層。ローム土主体。

H−16　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	34	32	68	
P-2	円形	32	32	80	
P-4	円形	52	32	69	

Fig. 23　H−16号住居址



H−17号住居址層序説明

1層　暗褐色細砂層。焼土ブロック僅かに含む。
1a層　にぶい黄褐色細砂層。粘土ブロック（1㎝大）含む。
2層　黒褐色細砂層。黒色土とローム土の混じり。
2a層　暗褐色細砂層。Hr-FP僅かに含む。
2b層　褐色細砂層。焼土ブロックを含む。
2c層　暗褐色細砂層。灰白粘土・焼土ブロック含む。
3層　黄褐色細砂層。ローム土主体。

H−17　柱穴一覧

No.	形　状	長径	短径	深さ	備　考
P-1	円　形	44	35	35	貯蔵穴

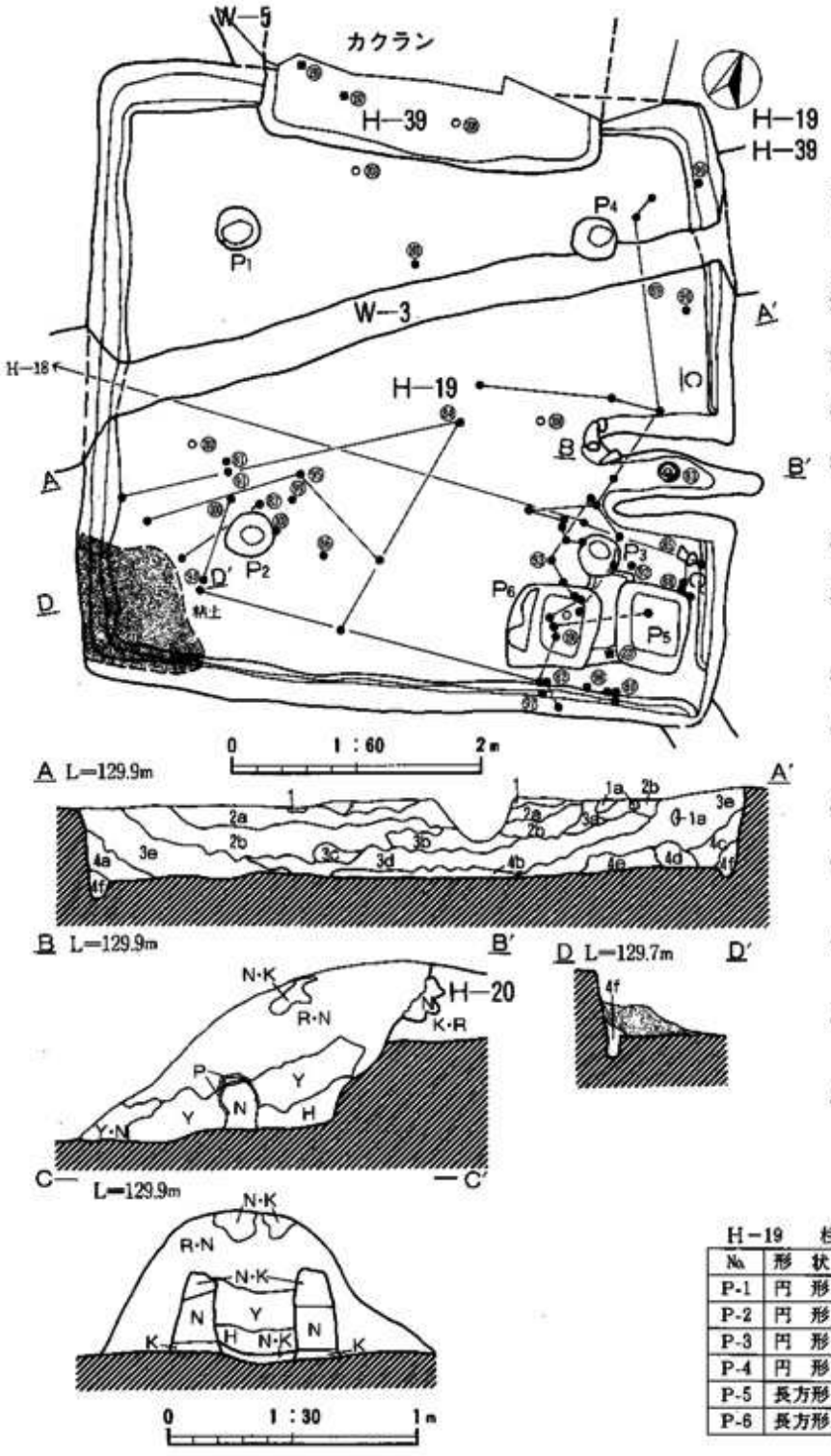
H−18号住居址層序説明

1a層　にぶい黄褐色細砂層。ローム土を20%含む。
1b層　にぶい黄褐色細砂層。ローム土を15%含む。
1c層　にぶい黄褐色細砂層。ローム土・粘土を25%含む。
1d層　褐色細砂層。ローム土を僅かに含む。
2a層　にぶい黄褐色細砂層。ローム土・ロームブロックを25%含む。
2b層　黄褐色細砂層。ローム土・ロームブロックを35%含む。
3a層　にぶい黄褐色細砂層。ローム土・ロームブロックを25%含む。
3b層　にぶい黄橙色細砂層。ローム土・ロームブロックを40%含む。
3c層　黄褐色細砂層。

H−18　柱穴一覧

No.	形　状	長径	短径	深さ	備　考
P-1	長方形	58	52	80	貯蔵穴

Fig. 24　H−17・18号住居址



H－19号住居址層序説明

1層　黒褐色粗砂層。Hr-FPを僅かに含む。
1a層　黒褐色細砂層。
2a層　暗褐色細砂層。ローム土を含む。
2b層　暗褐色細砂層。黒色土とローム土の混じり。
3a層　黄褐色細砂層。ローム土主体。
3b層　黄褐色細砂層。ローム土主体。2cm大ロームブロックを含む。
3c層　褐色細砂層。2cm大ロームブロック20%含む。
3d層　黄褐色細砂層。数cm大ロームブロックを含む。ローム土主体。
3e層　黒褐色細砂層。黒色土とローム土の混じり。
4a層　暗褐色細砂層。黒色土とローム土の混じり。ロームブロックを僅かに含む。
4b層　暗褐色細砂層。黒色土とローム土の混じり。
4c層　褐色細砂層。焼土粒子僅かに含む。黒色土とローム土の混じり。
4d層　暗褐色細砂層。焼土粒子20%含む。黒色土とローム土の混じり。
4e層　暗褐色細砂層。焼土ブロック、粘土ブロック含む。黒色土主体。
4f層　黄褐色細砂層。ローム土主体。

H－19　柱穴一覧

No.	形　状	長径	短径	深さ	備　考
P-1	円　形	35	35	67	
P-2	円　形	40	35	76	
P-3	円　形	35	33	63	
P-4	円　形	36	33	56	
P-5	長方形	66	56	67	貯蔵穴
P-6	長方形	74	64	88	貯蔵穴

Fig. 25　H－19・39号住居址

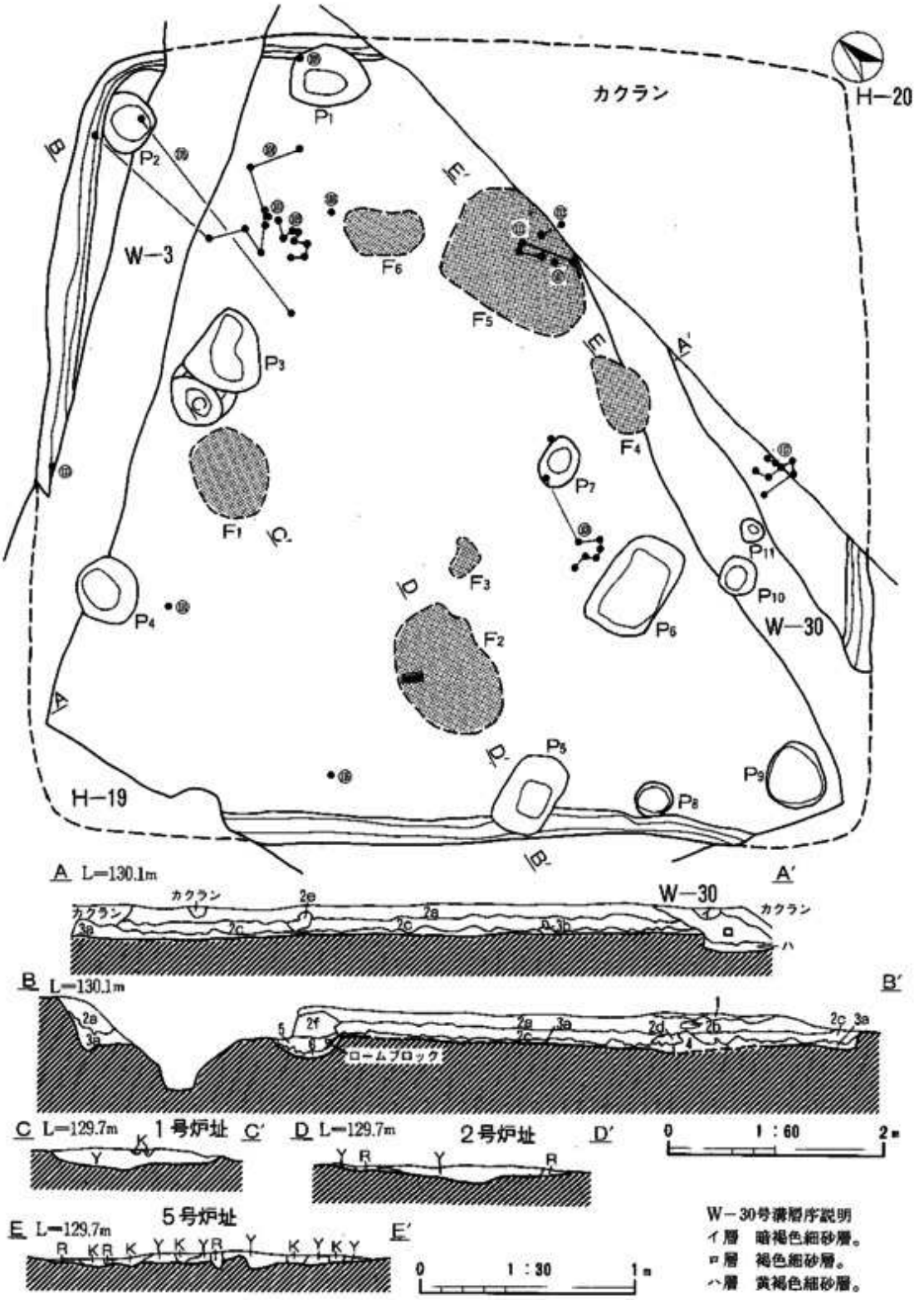
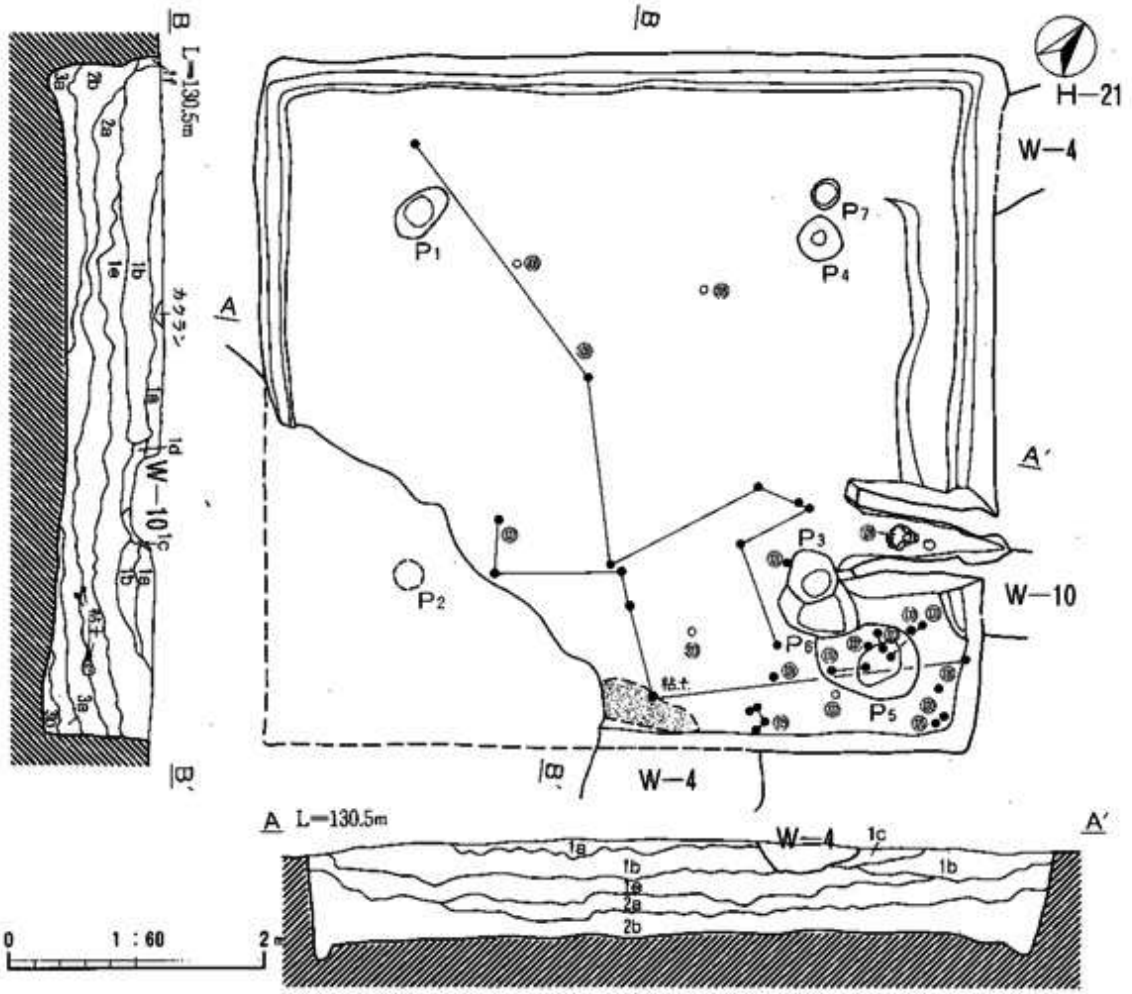


Fig. 26 H−20号住居址



H－20　柱穴一覧

No.	形　状	長径	短径	深さ	備　考
P-1	円　形	74	56	44	
P-2	円　形	56	55	41	
P-3	不整形	118	67	59	
P-4	円　形	60	60	60	
P-5	長方形	78	48	71	
P-6	長方形	97	60	64	
P-7	円　形	50	34	33	
P-8	円　形	35	33	36	
P-9	円　形	63	53	22	
P-10	円　形	37	35	27	
P-11	円　形	23	21	14	

H－20号住居址層序説明

1層　褐色細砂層。As-C15%、Hr-FP7%を含むローム混じりの黒色土。
2a層　暗褐色細砂層。As-C25%を含むローム混じりの黒色土。
2b層　黄褐色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。
2c層　黄褐色細砂層。As-C15%を含むローム混じりの黒色土。
2d層　暗褐色細砂層。As-C・炭化物15%含む黒色土。
2e層　黄褐色細砂層。As-Cを2～3%含むローム混じりの黒色土。
2f層　にぶい黄橙色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。
3a層　明黄褐色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。
3b層　黄橙色微砂層。ロームブロック。
4層　黄褐色細砂層。
5層　褐色細砂層。P-3の層序。
6層　黄褐色細砂層。P-3の層序。

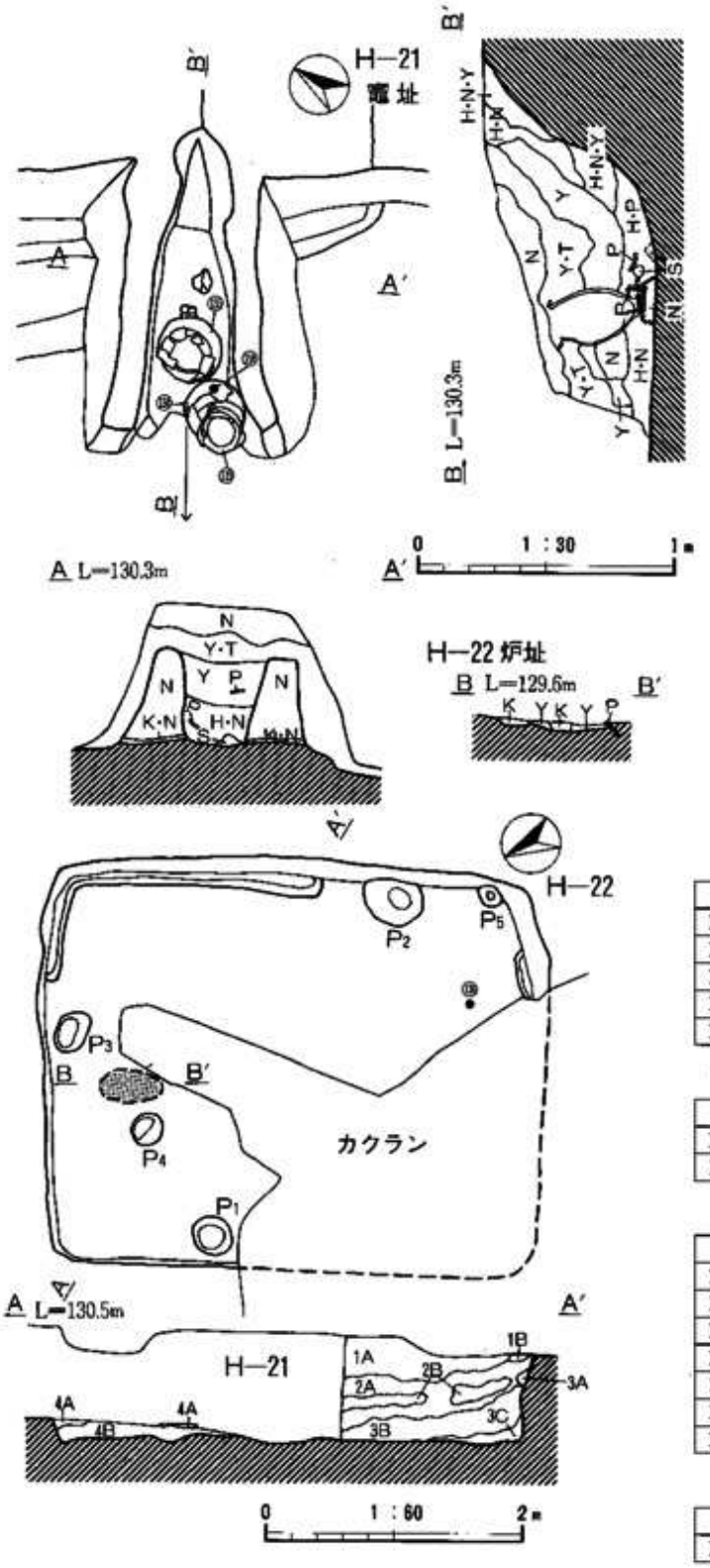
H－21号住居址層序説明

1a層　黒褐色細砂層。
1b層　暗褐色細砂層。
1c層　黒褐色細砂層。
1d層　暗褐色細砂層。
1e層　暗褐色細砂層。
1f層　黒褐色細砂層。黒色土主体。
2a層　黒褐色細砂層。ロームブロック20～30%含む。
2b層　暗褐色細砂層。粘土ブロック含む。
3a層　黄褐色細砂層。僅かに炭化物含む。
3b層　黄褐色細砂層。黒色土とローム土の混じり。

H－21　柱穴一覧

No.	形　状	長径	短径	深さ	備　考
P-1	円　形	48	30	83	
P-3	円　形	43	40	92	
P-4	円　形	35	34	70	
P-5	不整形	81	55	91	
P-6	不整形	63	52	54	
P-7	円　形	24	21	68	

Fig. 27　H－21号住居址



H− 22号住居址層序説明

1A層　暗褐色細砂層。
1B層　褐色細砂層。
2A層　黒褐色細砂層。
2B層　にぶい黄褐色細砂層。
3A層　にぶい黄褐色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。
3B層　褐色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。ロームブロックを30%含む。
3C層　にぶい黄褐色細砂層。ロームブロックを40%含む。
4A層　ローム土70〜80%。H−21の貼り床。
4B層　黄褐色微砂層。ローム粒子が入る。

H− 27号住居址層序説明

1a層　褐色細砂層。
1b層　暗褐色細砂層。As-C10%含む。
2a層　褐色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。
2b層　暗褐色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。
3 層　黄褐色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。
4 層　褐色細砂層。ローム土主体。

H−22　柱穴一覧

No.	形 状	長径	短径	深さ	備 考
P-1	円 形	30	28	62	
P-2	円 形	47	35	24	
P-3	円 形	33	23	13	
P-4	円 形	26	24	35	
P-5	円 形	20	15	7	

H−24　柱穴一覧

No.	形 状	長径	短径	深さ	備 考
P-1	円 形	37	37	63	
P-5	円 形	39	33	40	横穴貯蔵穴

H−26　柱穴一覧

No.	形 状	長径	短径	深さ	備 考
P-1	円 形	77	73	47	
P-2	円 形	70	61	45	
P-3	円 形	70	68	97	貯蔵穴
P-4	長方形	78	50	35	
P-5	円 形	25	18	9	
P-6	円 形	40	33	42	
P-7	不整形	88	28	14	

H−27　柱穴一覧

No.	形 状	長径	短径	深さ	備 考
P-1	—	(36)	(14)	14	

Fig. 28　H−21竈・22号住居址

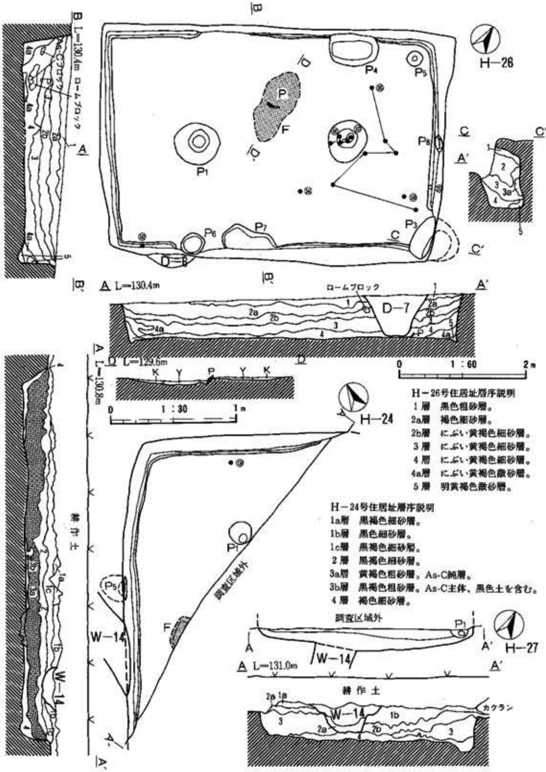
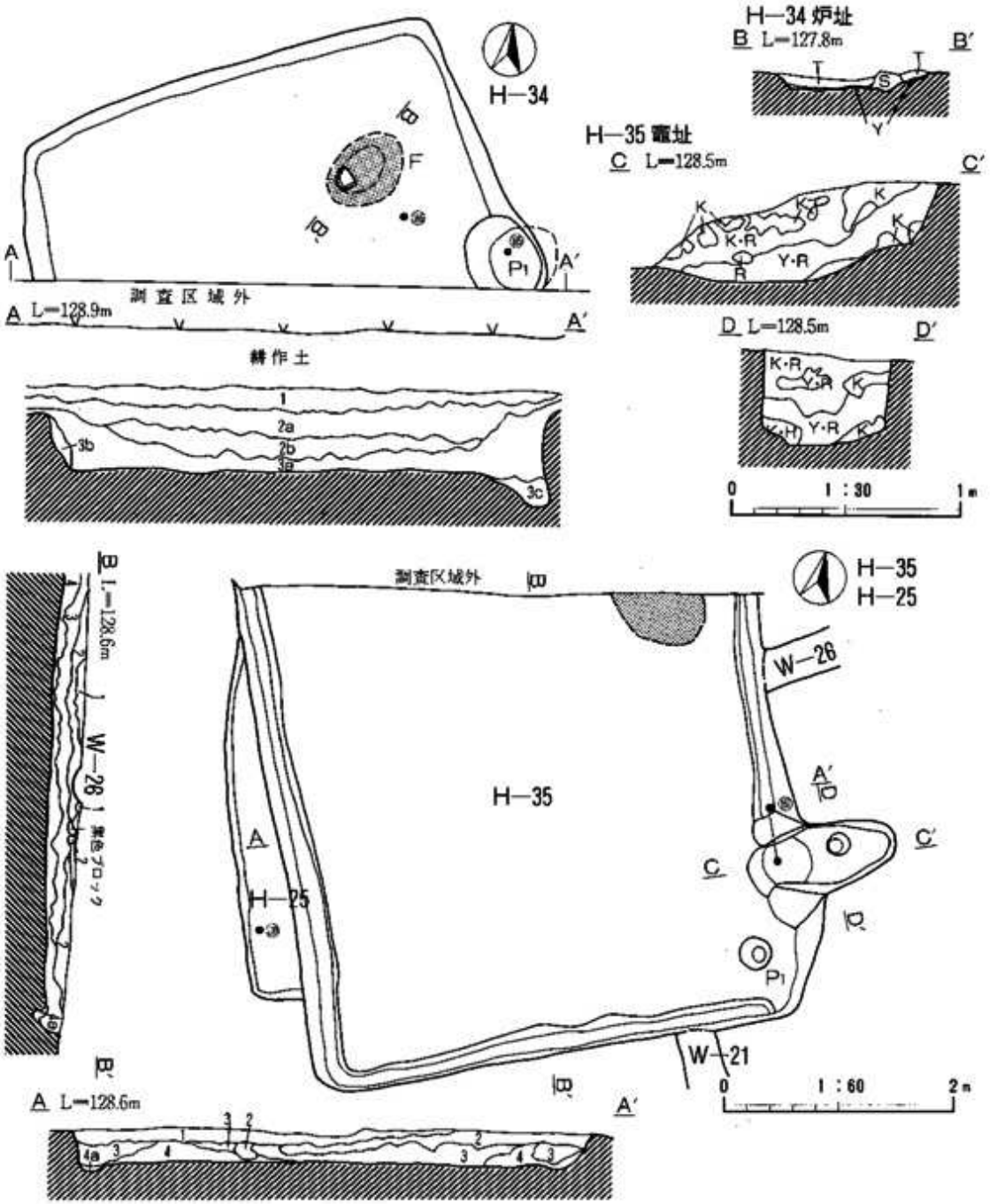


Fig. 29　H−24・26・27号住居址



H－34号住居址層序説明

1層	黒褐色細砂層。As-C30%。
2a層	黒褐色細砂層。
2b層	黒色細砂層。
3a層	暗褐色細砂層。炭化物含む。
3b層	褐色細砂層。ローム土主体。
3c層	暗褐色細砂層。

H－35号住居址層序説明

1層	黒褐色粗砂層。
2層	暗褐色細砂層。
3層	黒褐色散砂層。
4層	にぶい黄褐色散砂層。
4a層	明黄褐色散砂層。ローム土。

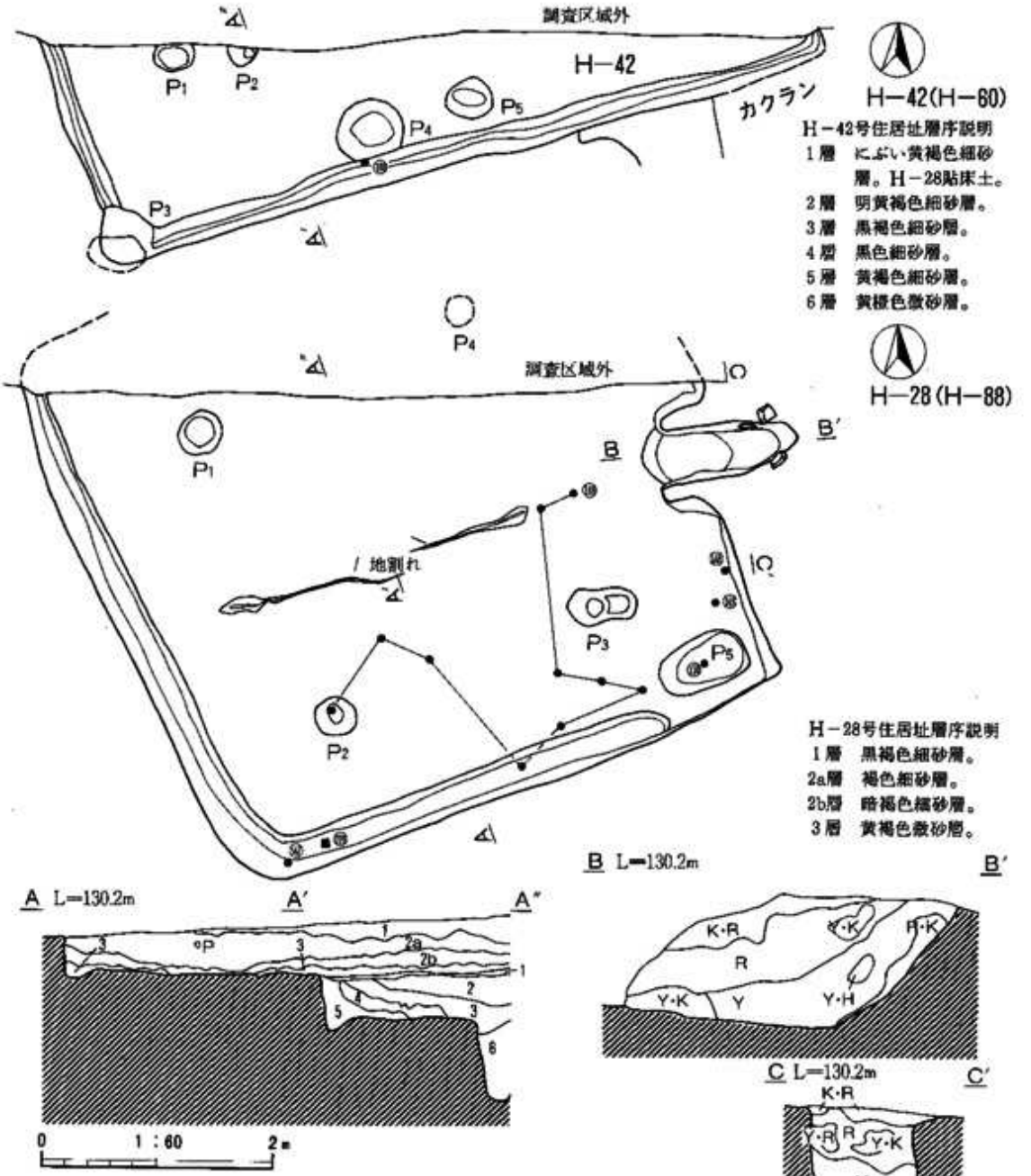
H－34　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	59	55	69	貯蔵穴

H－35　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	28	28	20	

Fig. 30　H－25・34・35号住居址



H−28 柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	40	35	50	
P-2	円形	37	34	61	
P-3	円形	60	40	41	
P-5	長方形	76	43	20	貯蔵穴

H−42号 柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	−	(35)	(23)	19	
P-2	−	(25)	(16)	62	
P-3	円形	50	21	39	
P-4	円形	60	50	62	
P-5	円形	40	35	−	

Fig. 31 H−28・42号住居址

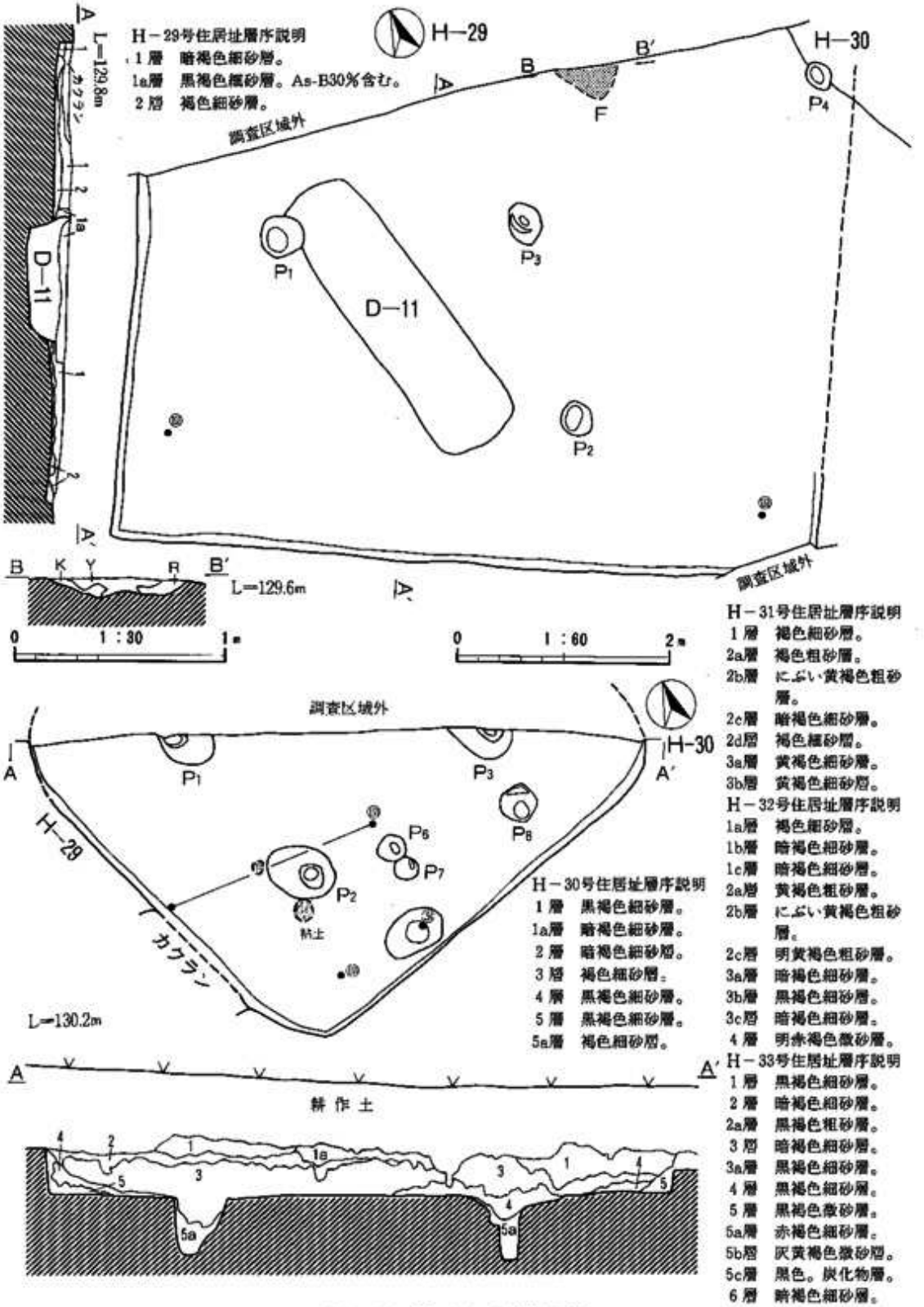


Fig. 32　H－29・30号住居址

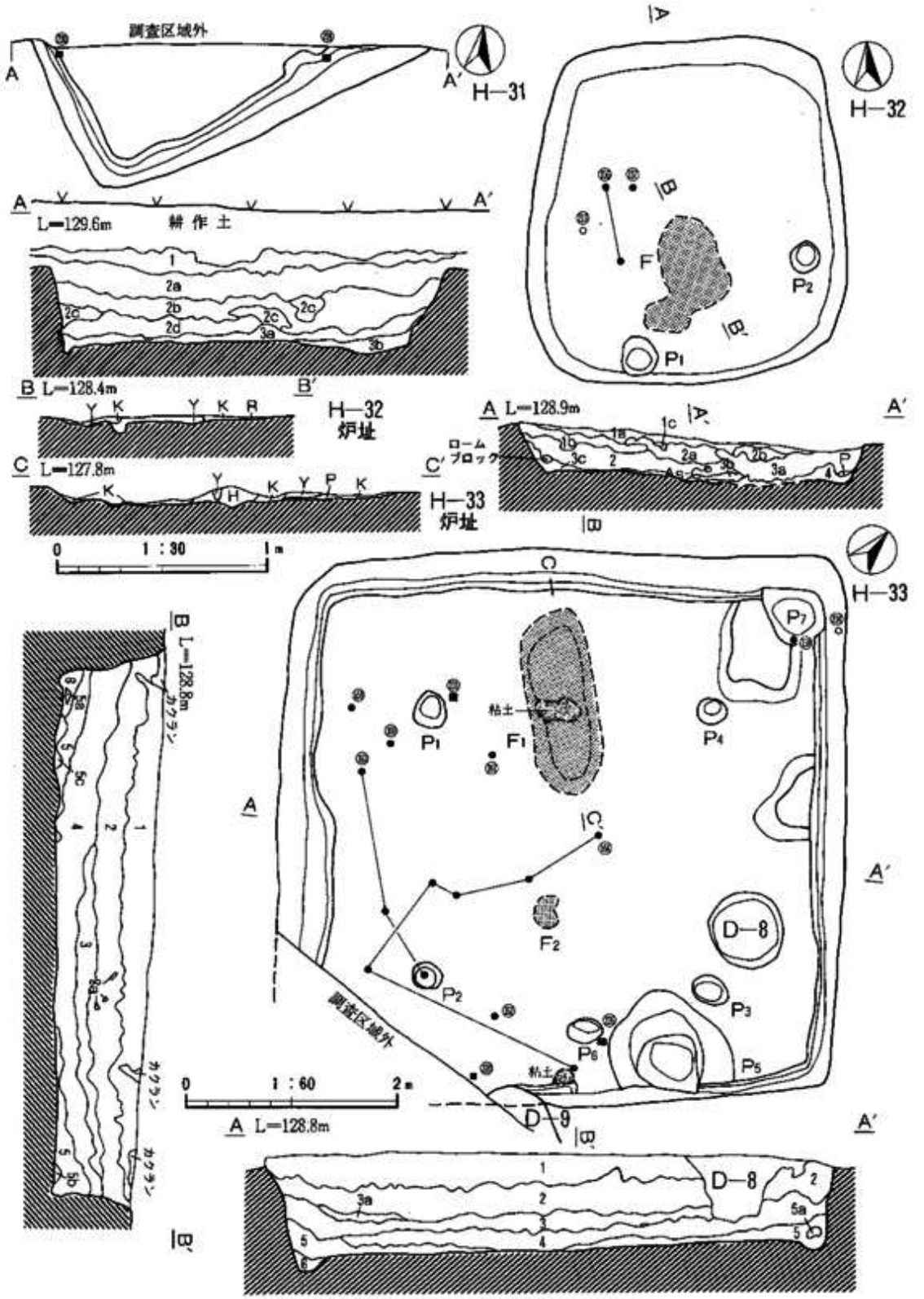
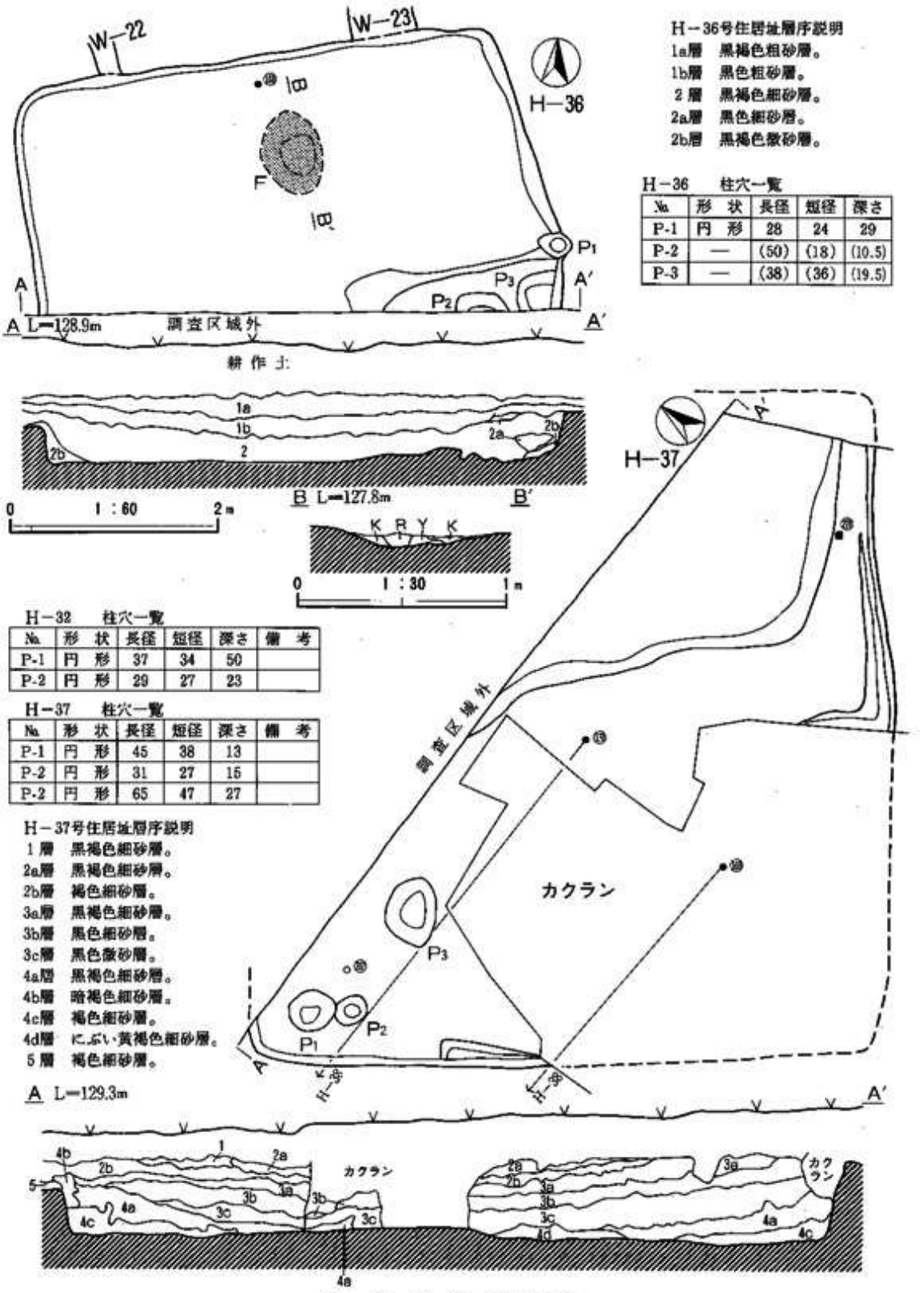


Fig. 33 H－31～33号住居址



H－36号住居址層序説明

1a層　黒褐色粗砂層。
1b層　黒色粗砂層。
2層　黒褐色細砂層。
2a層　黒色細砂層。
2b層　黒褐色微砂層。

H－36　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ
P-1	円形	28	24	29
P-2	—	(50)	(18)	(10.5)
P-3	—	(38)	(36)	(19.5)

H－32　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	37	34	50	
P-2	円形	29	27	23	

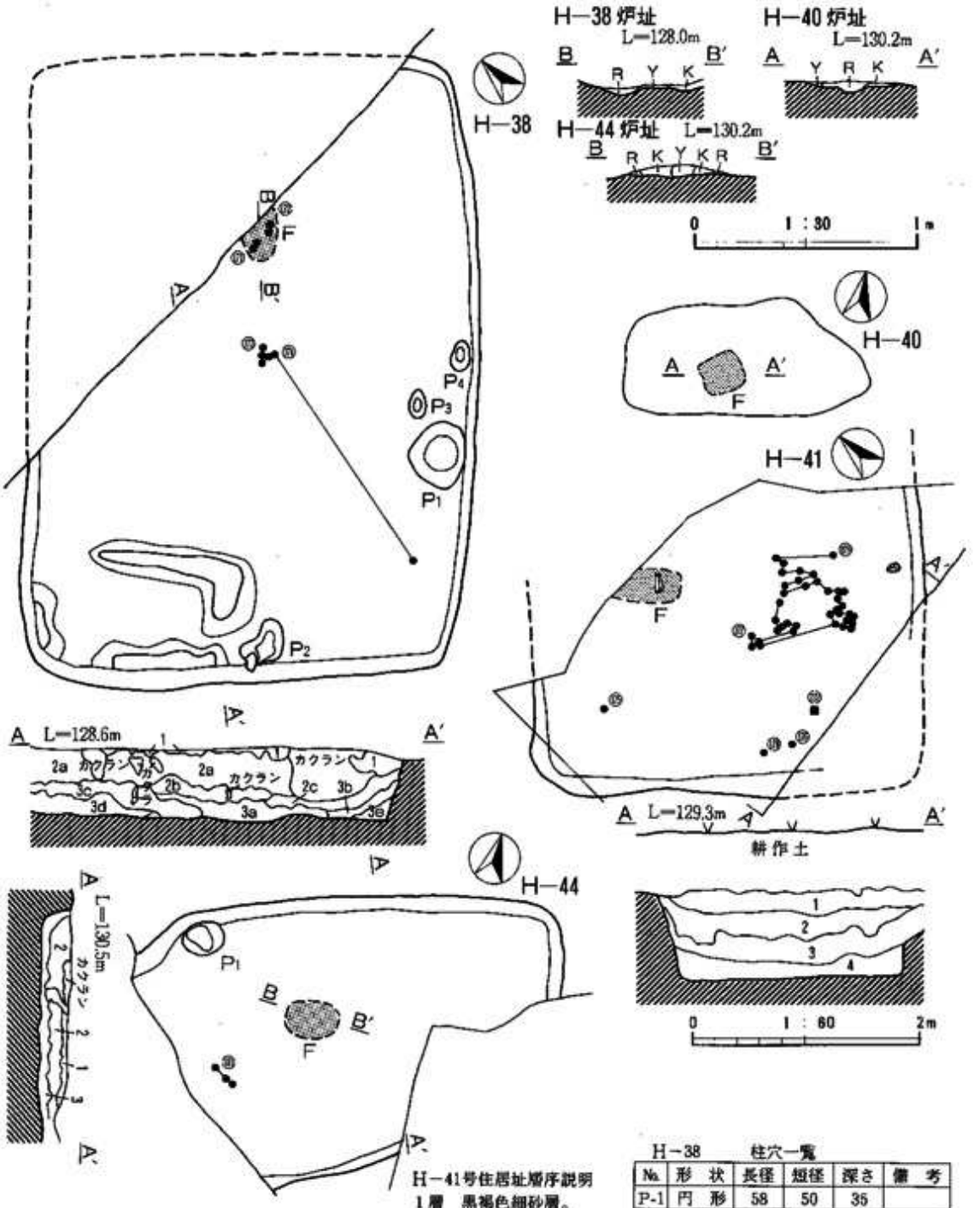
H－37　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	45	38	13	
P-2	円形	31	27	15	
P-2	円形	65	47	27	

H－37号住居址層序説明

1層　黒褐色細砂層。
2a層　黒褐色細砂層。
2b層　褐色細砂層。
3a層　黒褐色細砂層。
3b層　黒色細砂層。
3c層　黒色微砂層。
4a層　黒褐色細砂層。
4b層　暗褐色細砂層。
4c層　褐色細砂層。
4d層　にぶい黄褐色細砂層。
5層　褐色細砂層。

Fig. 34　H－36・37号住居址



H−38号住居址層序説明

1層　黒褐色微砂層。
2a層　褐色細砂層。
2b層　黒褐色細砂層。
2c層　にぶい黄褐色微砂層。
3a層　暗褐色細砂層。炭化木を含む。
3b層　黒褐色微砂層。
3c層　黄褐色細砂層。
3d層　明褐色細砂層。
3e層　黒褐色細砂層。

H−41号住居址層序説明

1層　黒褐色細砂層。
2層　黒褐色細砂層。
3層　褐色細砂層。
4層　褐色細砂層。

H−44号住居址層序説明

1層　褐色細砂層。
2層　暗褐色細砂層。
3層　黄褐色微砂層。

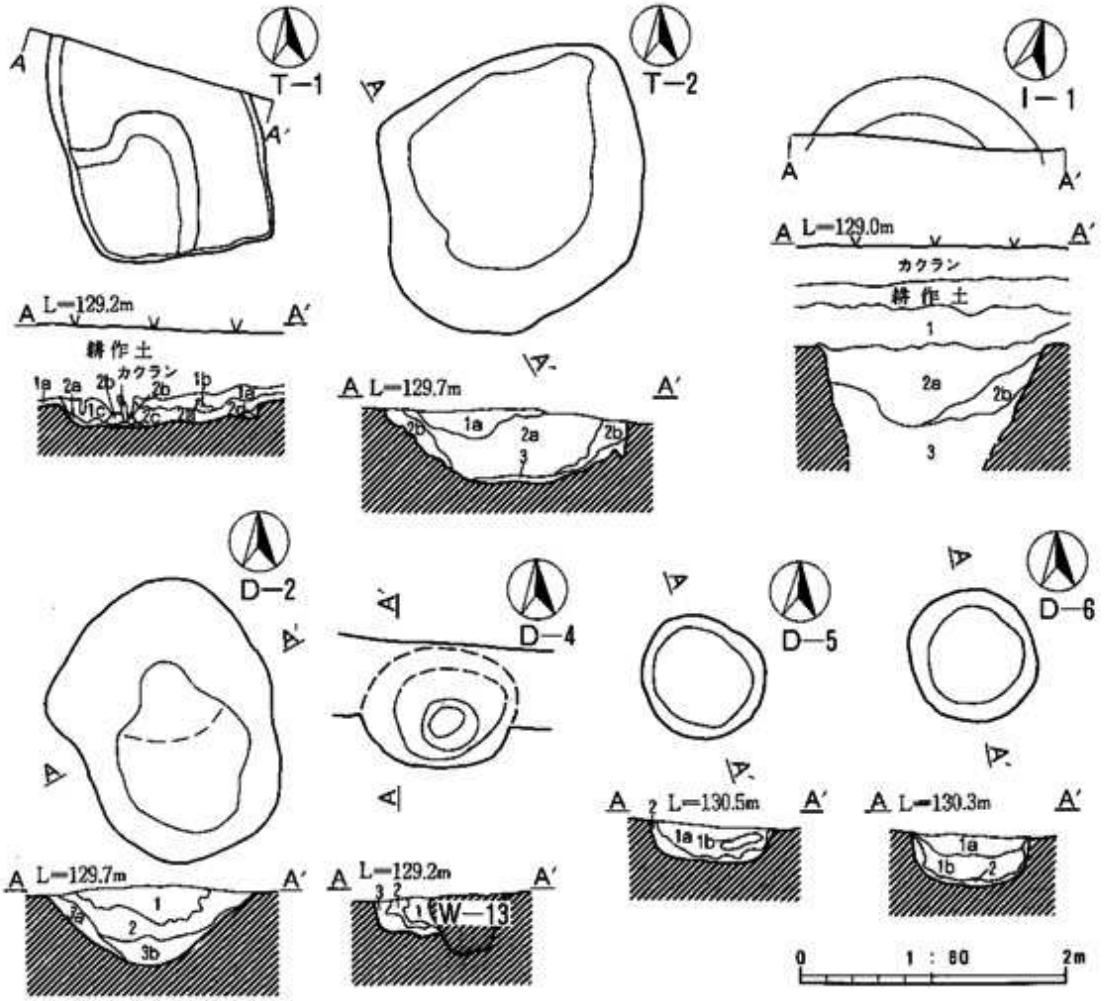
H−38　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	58	50	35	
P-2	不整形	51	28	30	
P-3	円形	25	14	14	
P-4	円形	26	16	14	

H−44　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	37	30	14	

Fig. 35　H−38・40・41・44号住居址



H−29　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	41	38	34	
P-2	円形	33	18	28	
P-3	円形	40	21	45	
P-4	円形	30	22	46	

H−30　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	−	(55)	(28)	54	
P-2	円形	68	48	83	
P-3	−	(60)	(27)	77	
P-5	円形	57	38	41	
P-6	円形	26	25	39	
P-7	円形	22	21	34	
P-8	円形	36	36	34	

T−1号竪穴状遺構層序説明

1a層　黒褐色細砂層。As-Bを30%含む。
1b層　暗褐色細砂層。
1c層　暗褐色細砂層。As-Bを60%含む。
2a層　暗褐色細砂層。
2b層　暗褐色細砂層。
2c層　暗褐色細砂層。
2d層　暗褐色細砂層。

T−2号竪穴状遺構層序説明

1a層　黒褐色細砂層。
1b層　暗褐色細砂層。
2a層　暗褐色細砂層。
2b層　暗褐色細砂層。
2c層　黄褐色細砂層。
3層　黄褐色細砂層。

H−33　柱穴一覧

No.	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	円形	35	30	(75)	
P-2	円形	30	25	(78)	
P-3	円形	35	26	(90)	
P-4	円形	27	25	(81)	
P-5	円形	115	92	46	貯蔵穴
P-6	円形	33	23	22	
P-7	円形	70	54	71	貯蔵穴

I−1号井戸層序説明

1層　暗褐色細砂層。
2a層　暗褐色細砂層。
2b層　黒褐色細砂層。
3層　黒褐色細砂層。

D−2号土坑層序説明

1層　暗褐色細砂層。
2層　黒褐色細砂層。
3a層　黄褐色細砂層。
3b層　褐色細砂層。

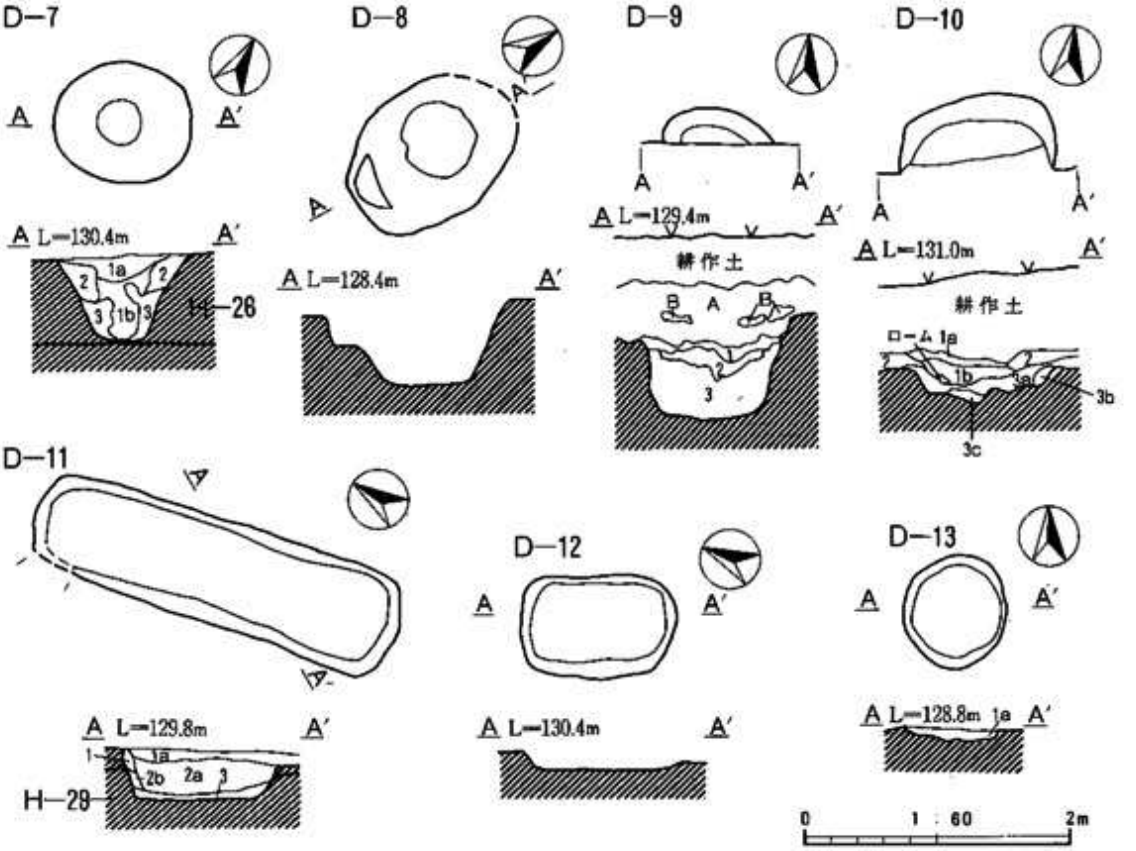
D−4号土坑層序説明

1層　暗褐色細砂層。
2層　黄褐色細砂層。
3層　明黄褐色微砂層。

D−5・6号土坑層序説明

1a層　オリーブ褐色砂層。
1b層　暗灰黄色砂層。
2層　黄褐色砂層。

Fig. 36　竪穴状遺構・井戸・土坑



D−7号土坑層序説明
1a層　黒褐色粗砂層。As-Bを60～70%含む。
1b層　黒褐色粗砂層。As-Bを50～60%含む。
2層　黒褐色粗砂層。
3層　褐色細砂層。

D−9号土坑層序説明
1層　褐灰色細砂層。
2層　灰黄褐色細砂層。
3層　黒褐色細砂層。
A層　黒褐色細砂層。
B層　褐色細砂層。

D−10号土坑層序説明
1a層　暗褐色細砂層。
1b層　黒褐色細砂層。
2層　暗褐色細砂層。
3a層　褐色細砂層。
3b層　黄褐色細砂層。ローム土。
3c層　明褐色細砂層。焼土層

D−11号土坑層序説明
1層　暗褐色細砂層。
1a層　黒褐色細砂層。
2a層　黒褐色細砂層。
2b層　黄褐色細砂層。
3層　にぶい黄褐色細砂層。

D−13・14・15・16号土坑層序説明
1a層　暗褐色細砂層。As-Bを50～60%含む。
1b層　黒褐色細砂層。As-Bを60～70%含む。
1c層　暗褐色細砂層。As-Bを40～50%含む。
1d層　暗褐色細砂層。As-Bを25～30%含む。

D−17号土坑層序説明
1層　黒褐色細砂層。As-Bを50～60%含む。
2層　暗褐色微砂層。

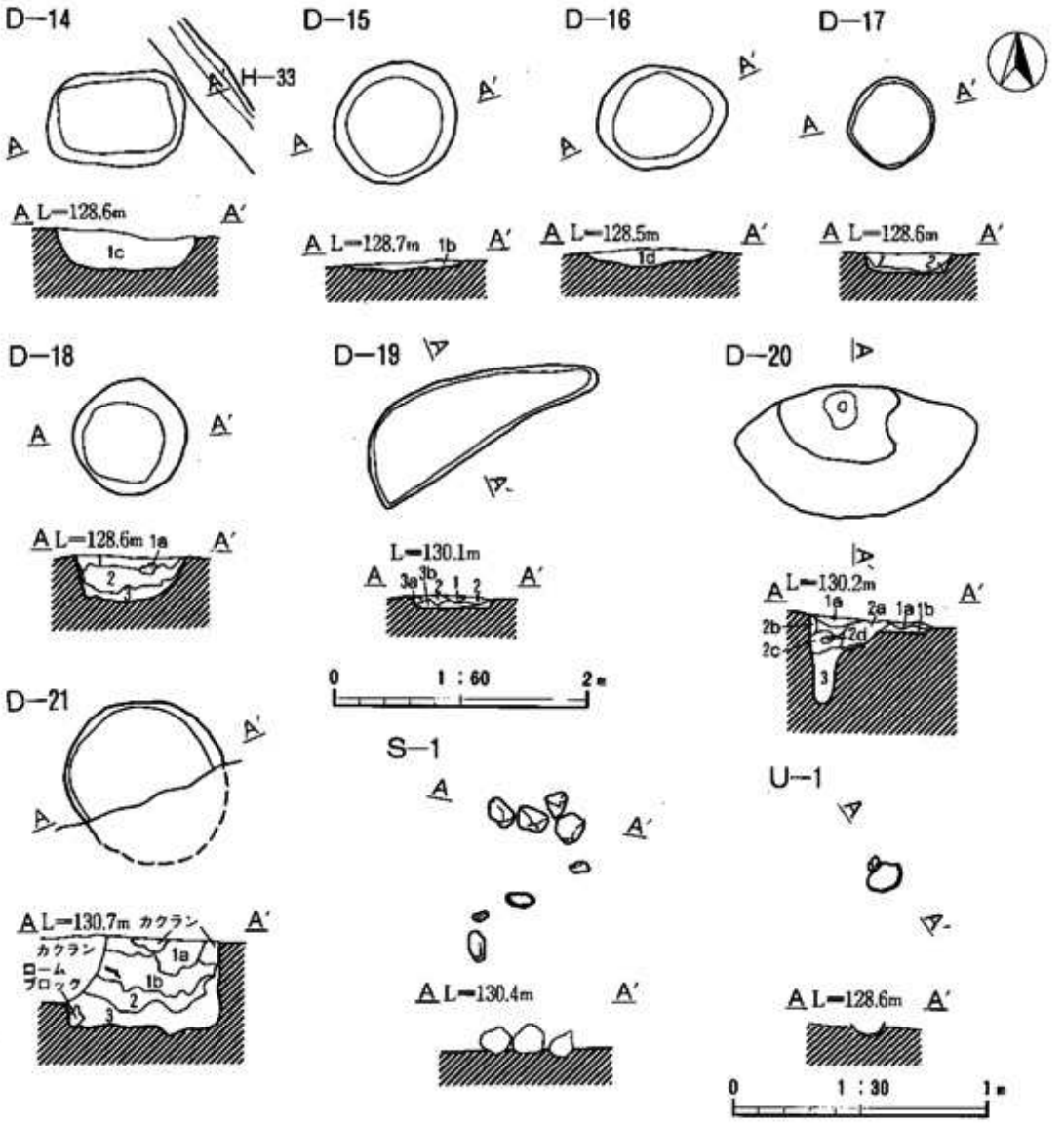
D−18号土坑層序説明
1層　黒褐色細砂層。As-Bを50～60%含む。
1a層　黒褐色細砂層。As-Bの純層に近い。
2層　黒褐色細砂層。As-Bを30%含む。
3層　暗褐色細砂層。

D−19号土坑層序説明
1層　褐色細砂層。
2層　暗褐色細砂層。
3a層　黄褐色細砂層。黒色土混じりのローム土。
3b層　明黄褐色細砂層。ローム土主体。

D−20号土坑層序説明
1a層　黒褐色細砂層。黒色土主体。
1b層　黄褐色細砂層。ローム土主体。
1c層　暗褐色細砂層。ローム粒子。
2a層　褐色細砂層。
2b層　黄褐色細砂層。ローム主体。
2c層　褐色細砂層。
2d層　暗褐色細砂層。
3層　黄褐色細砂層。ロームブロック、ローム土。

D−21号土坑層序説明
1a層　褐色細砂層。
1b層　暗褐色細砂層。
2層　黄褐色細砂層。ロームブロック、焼土ブロックを含む黒色土。
3層　明黄褐色細砂層。ロームブロック、焼土ブロックを含む黒色土とローム土の混じり。

Fig. 37　土坑



W−1号溝層序説明
1層　暗褐色細砂層。
2層　明黄褐色粗砂層。As-C純層。
3層　褐色細砂層。
4層　にぶい黄褐色細砂層。

W−5号溝層序説明
1a層　黒褐色細砂層。
2a層　暗褐色細砂層。
2b層　褐色細砂層。
2c層　暗褐色細砂層。
3a層　褐色細砂層。
3b層　黄褐色微砂層。ローム土主体。

W−8号溝層序説明
1層　褐色粗砂層。

W−2号溝層序説明
1層　暗褐色粗砂層。As-B純層。二次堆積。
2層　黒褐色細砂層。
3層　黒褐色細砂層。

W−6号溝層序説明
1層　暗褐色細砂層。
2層　黒褐色細砂層。
2a層　にぶい黄褐色細砂層。
2b層　暗褐色細砂層。
3層　褐色細砂層。ローム土主体。

W−9号溝層序説明
1層　褐色細砂層。

W−10号溝層序説明
1層　暗褐色粗砂層。酸化で赤みを帯びる。
2層　褐色細砂層。

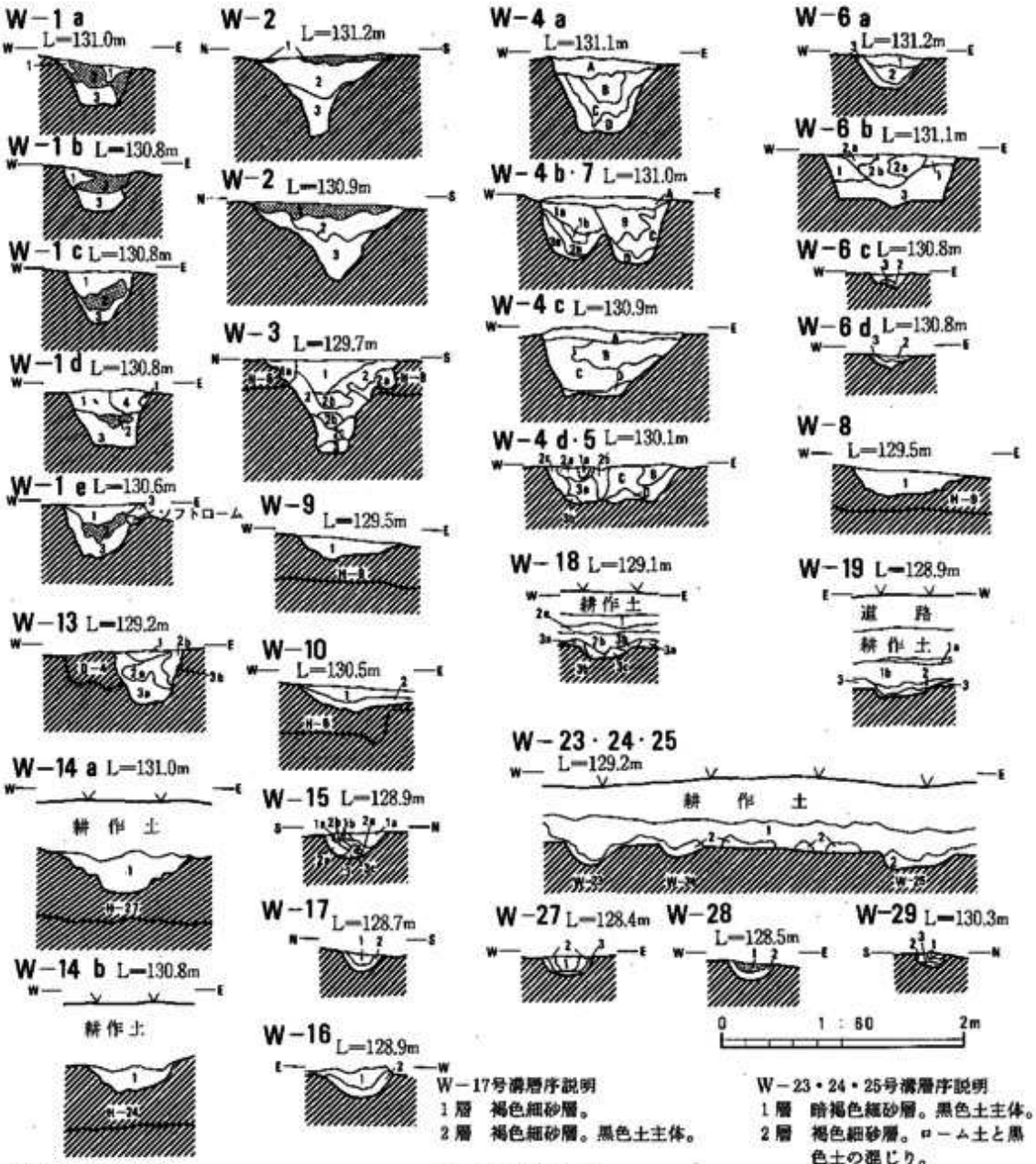
W−3号溝層序説明
1層　にぶい黄褐色細砂層。
1a層　にぶい黄褐色細砂層。
2層　にぶい黄橙色微砂層。
2a層　灰黄褐色微砂層。
2b層　にぶい黄褐色砂層。
2c層　にぶい黄褐色砂層。
3層　にぶい黄橙色砂層。

W−7号溝層序説明
A層　暗褐色細砂層。
1a層　暗褐色細砂層。
1b層　黒褐色細砂層。
2a層　暗褐色細砂層。
3a層　褐色細砂層。

W−4号溝層序説明
A層　暗褐色細砂層。
B層　黒褐色細砂層。
C層　暗褐色細砂層。
D層　黄褐色微砂層。ローム土主体。

W−13号溝層序説明
1層　明黄褐色細砂層。砂状のローム。
2a層　黒褐色粗砂層。小円礫を含む砂利。
2b層　暗褐色粗砂層。小円礫と砂利。
3a層　褐色砂細層。下部にHr-FPの円礫、ロームブロックを含む砂利。
3b層　黄橙色微砂層。ローム土。

Fig. 38　土坑・集石・埋設土器



W−14号溝層序説明
1層　黒褐色粗砂層。

W−15号溝層序説明
1a層　黄褐色細砂層。
1b層　暗褐色細砂層。黒色土主体。
2a層　にぶい黄褐色細砂層。
2b層　にぶい黄褐色細砂層。
2c層　にぶい黄褐色微砂層。粘土ブロック。
3層　明黄褐色細砂層。ローム土。

W−16号溝層序説明
1層　褐色細砂層。
2層　褐色細砂層。黒色土混じりのローム土。

W−17号溝層序説明
1層　褐色細砂層。
2層　褐色細砂層。黒色土主体。

W−18号溝層序説明
1層　黄褐色細砂層。
2a層　褐色細砂層。
2b層　暗褐色細砂層。
3a層　暗褐色微砂層。黒色土主体。
3b層　暗褐色微砂層。
3c層　黄褐色細砂層。ローム土主体。

W−19号溝層序説明
1a層　黒褐色細砂層。
1b層　暗褐色細砂層。
2層　黒褐色細砂層。
3層　褐色細砂層。ローム土主体。

W−23・24・25号溝層序説明
1層　暗褐色細砂層。黒色土主体。
2層　褐色細砂層。ローム土と黒色土の混じり。

W−27号溝層序説明
1層　暗褐色粗砂層。
2層　暗褐色細砂層。黒色土主体。
3層　褐色細砂層。ローム土主体。

W−28号溝層序説明
1層　黄褐色粗砂層。As-C純層。
2層　暗褐色細砂層。黒色土主体。

W−29号溝層序説明
1層　暗褐色細砂層。
2層　褐色細砂層。
3層　明黄褐色細砂層。

Fig. 39　溝状遺構

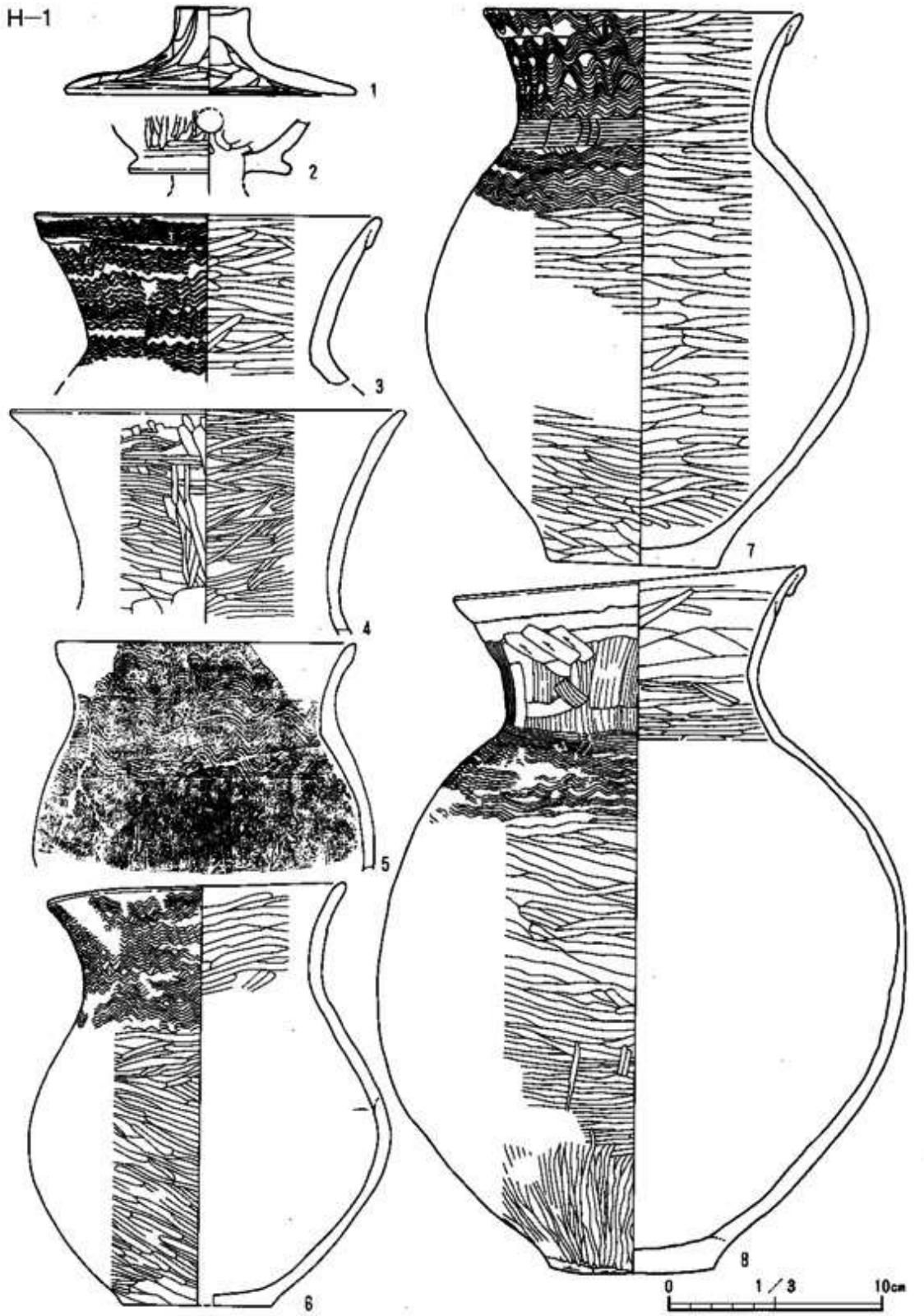


Fig. 40 H－1号住居址出土の土器

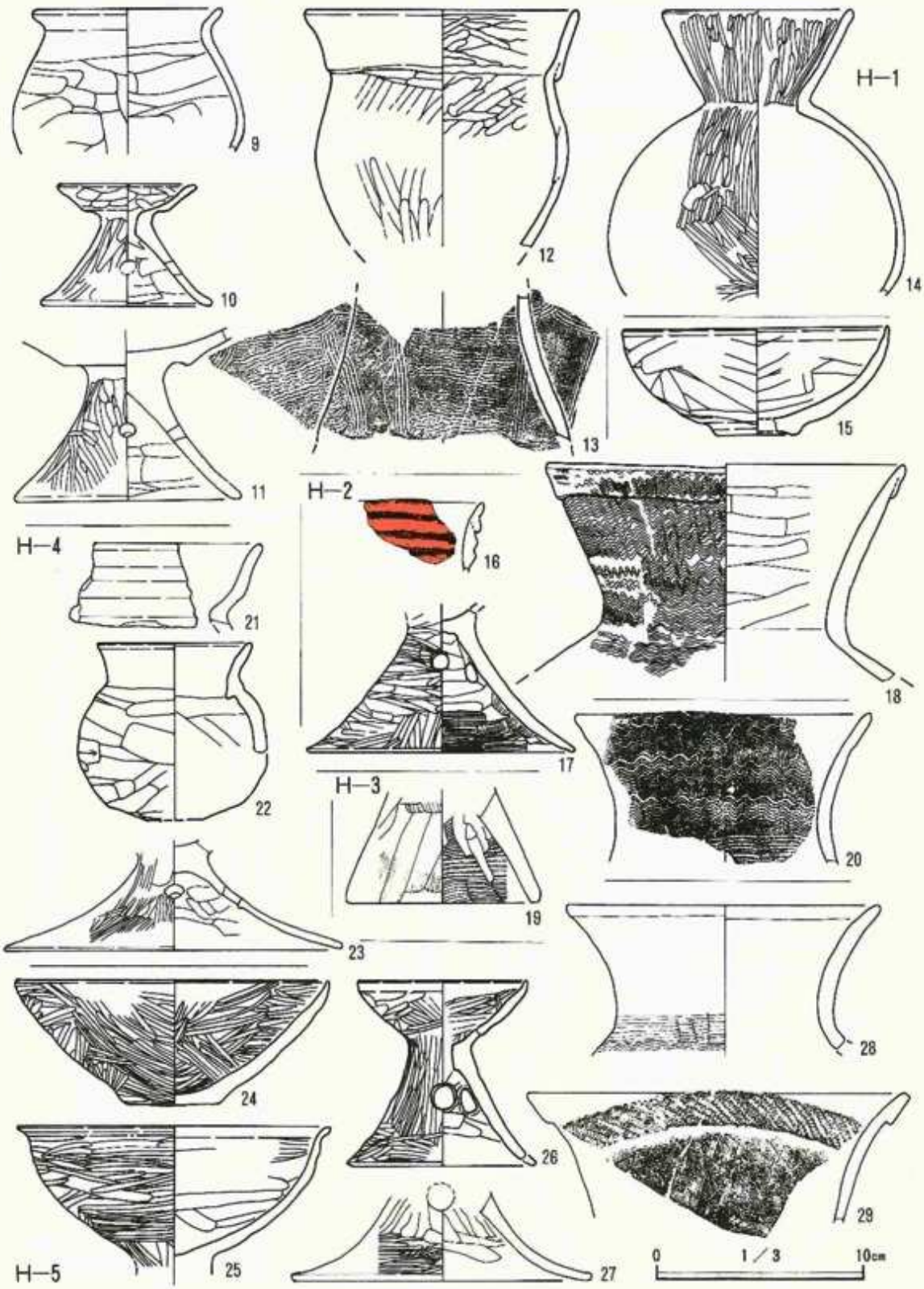


Fig. 41　H－1～5号住居址出土の土器

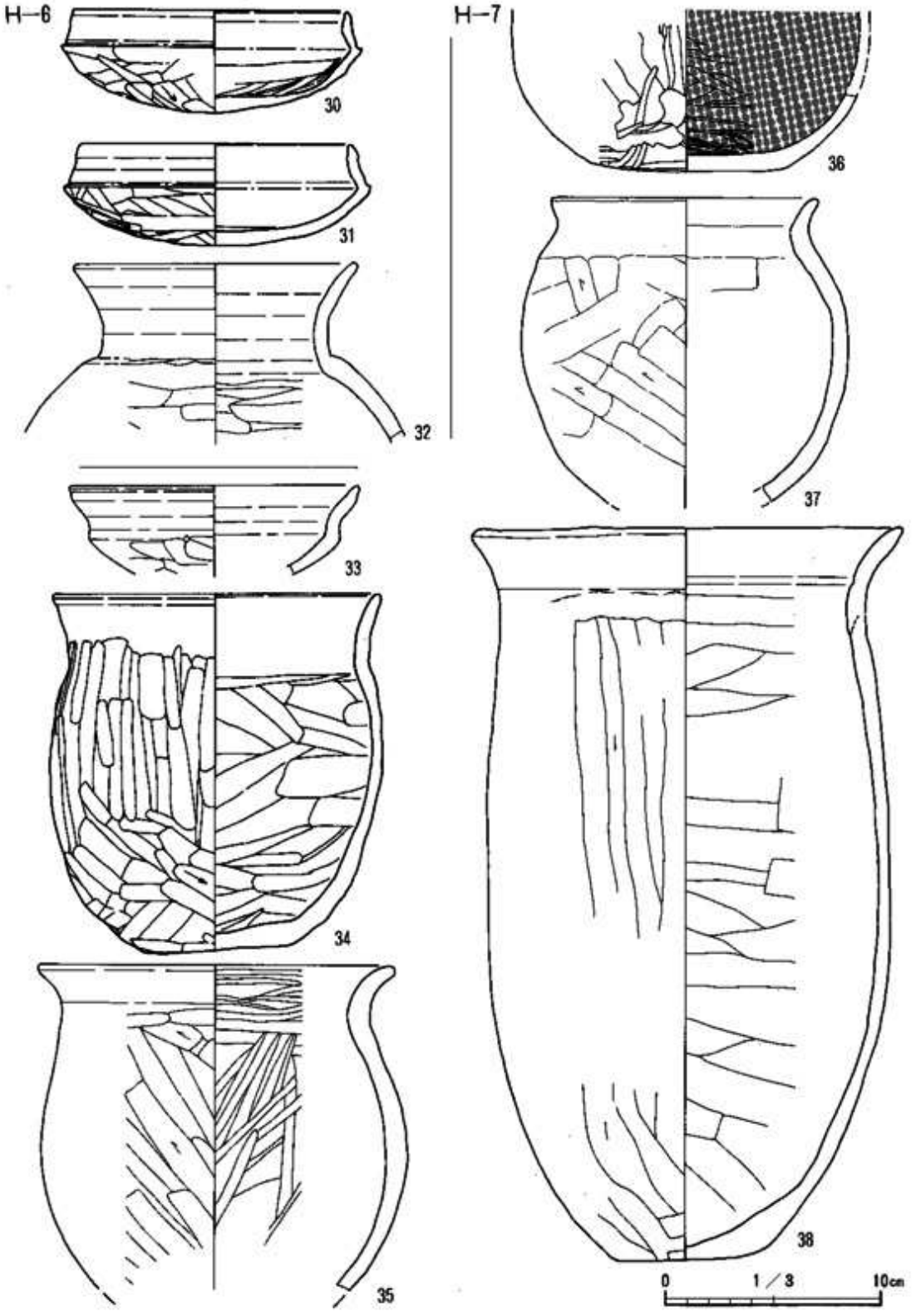


Fig. 42 H－6・7号住居址出土の土器

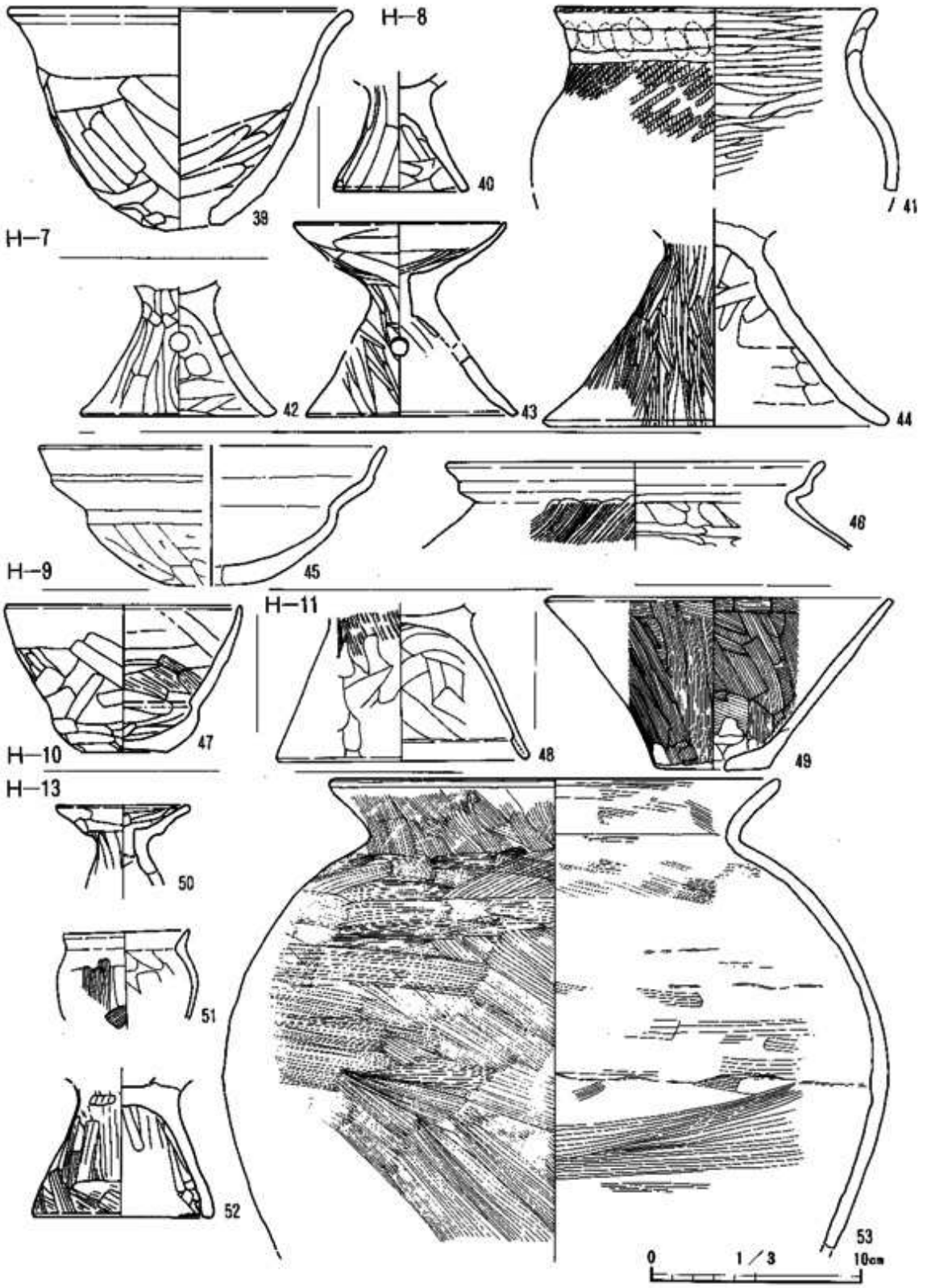


Fig. 43 H－7～11・13号住居址出土の土器

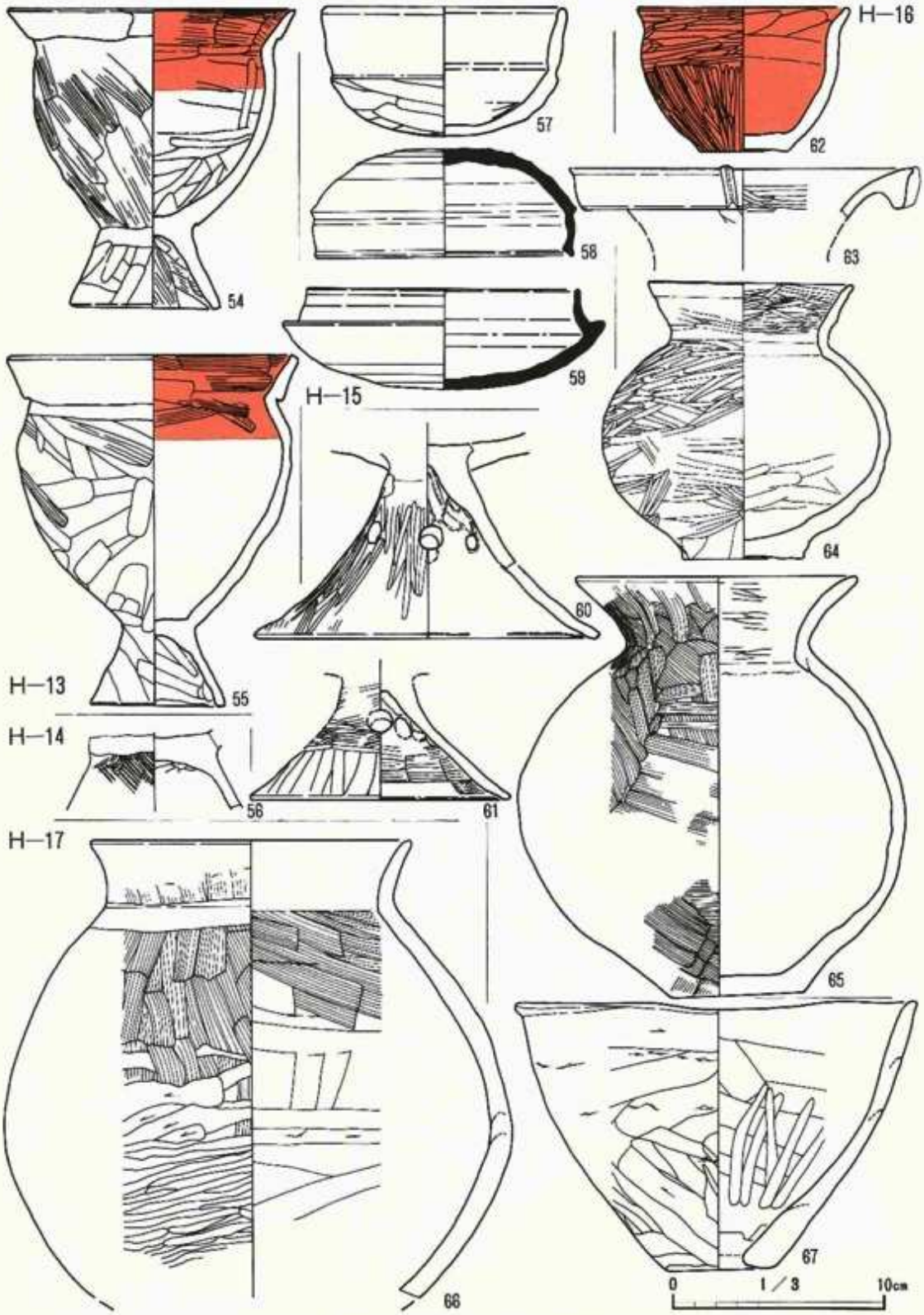


Fig. 44　H－13～17号住居址出土の土器

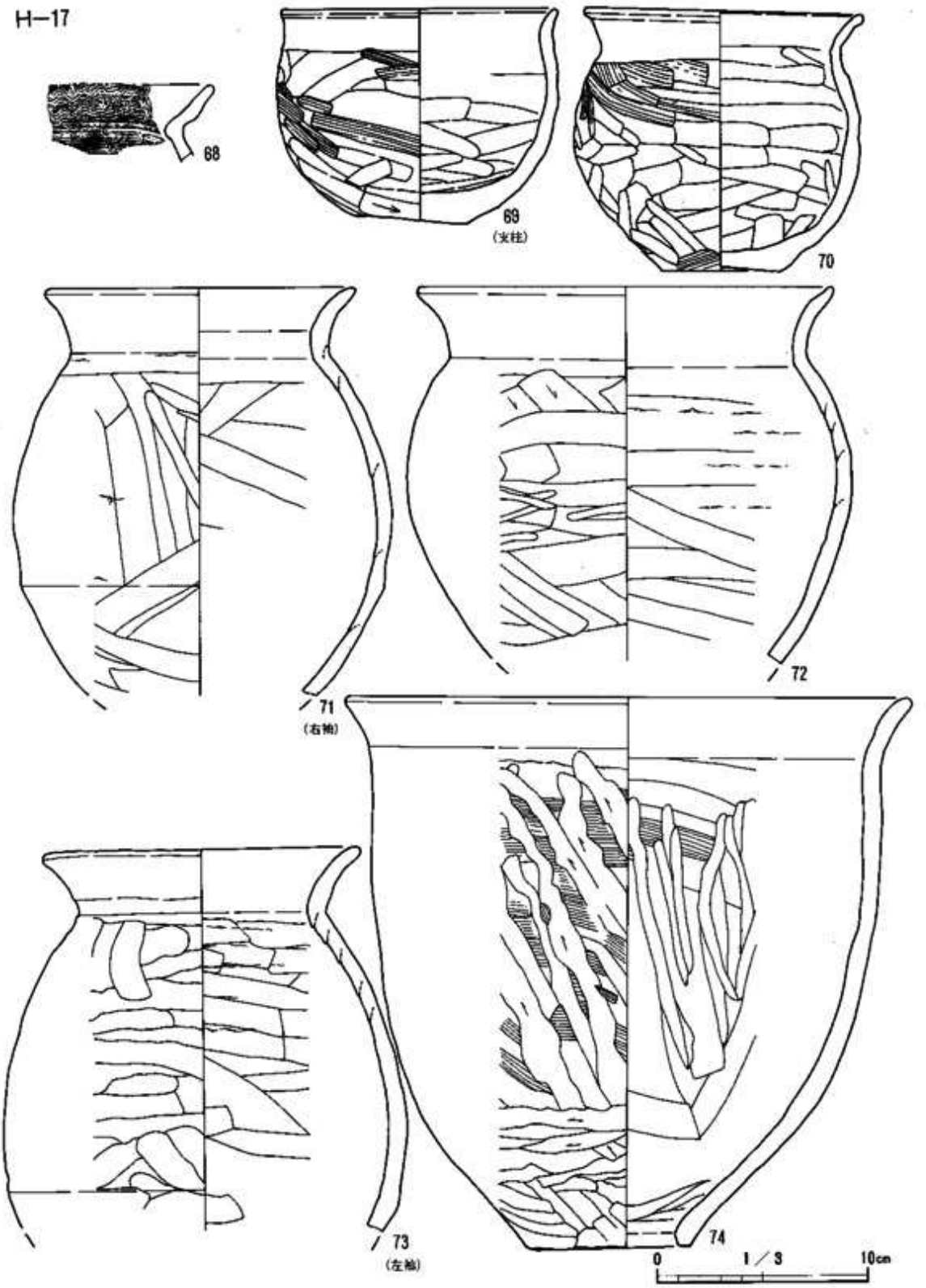


Fig. 45 H−17号住居址出土の土器

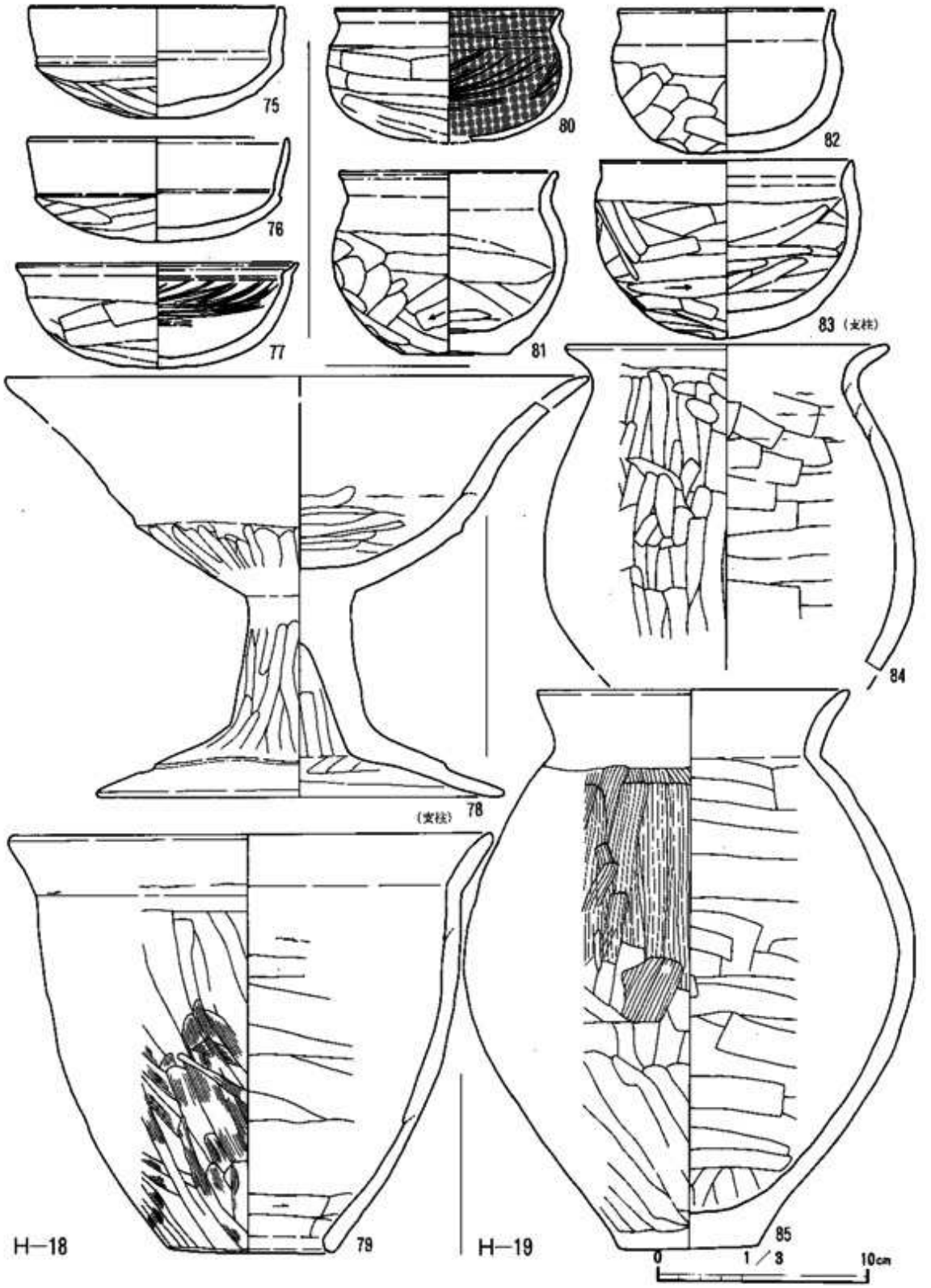


Fig. 46　H－18・19号住居址出土の土器

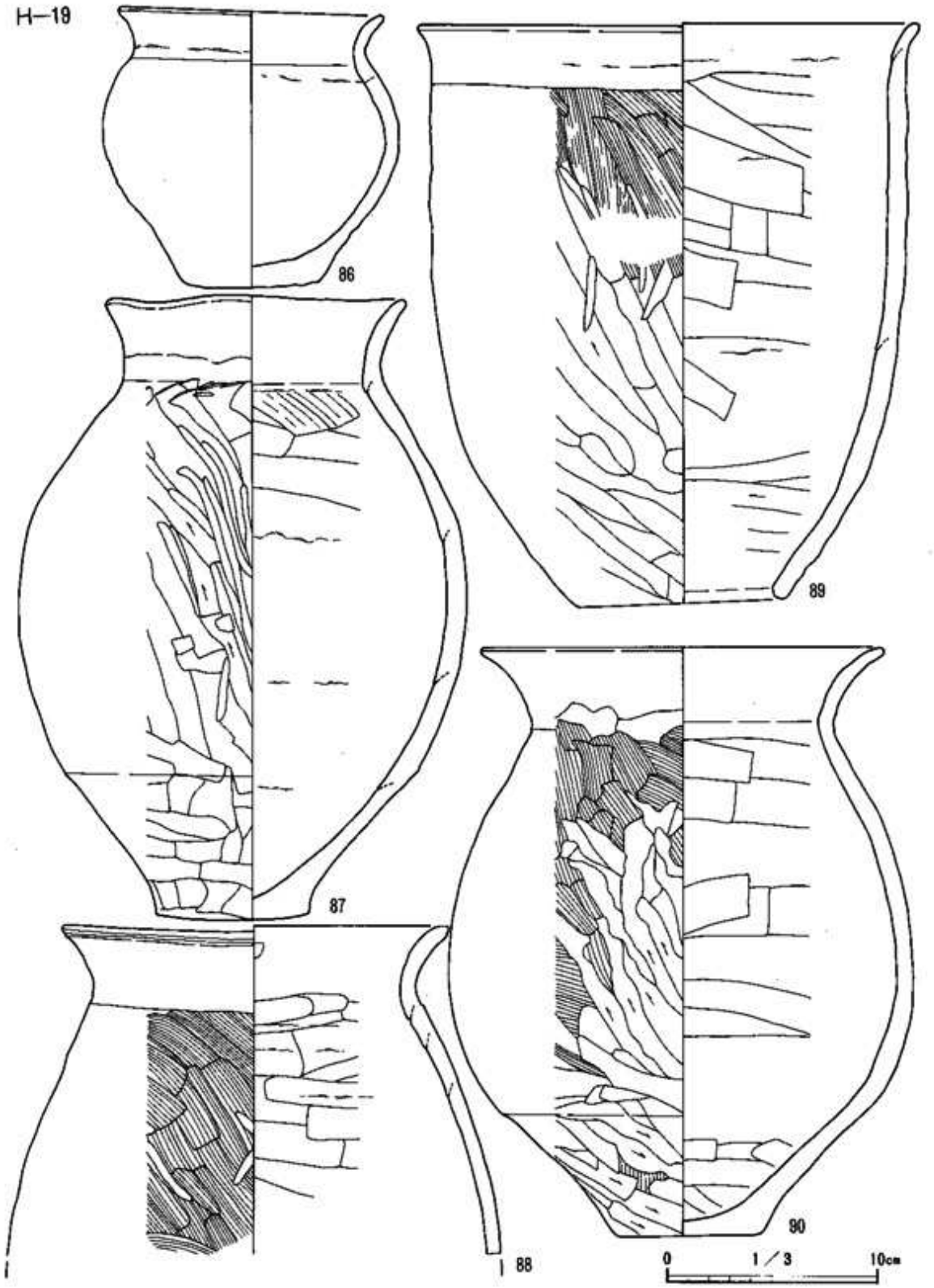


Fig. 47 H－19号住居址出土の土器

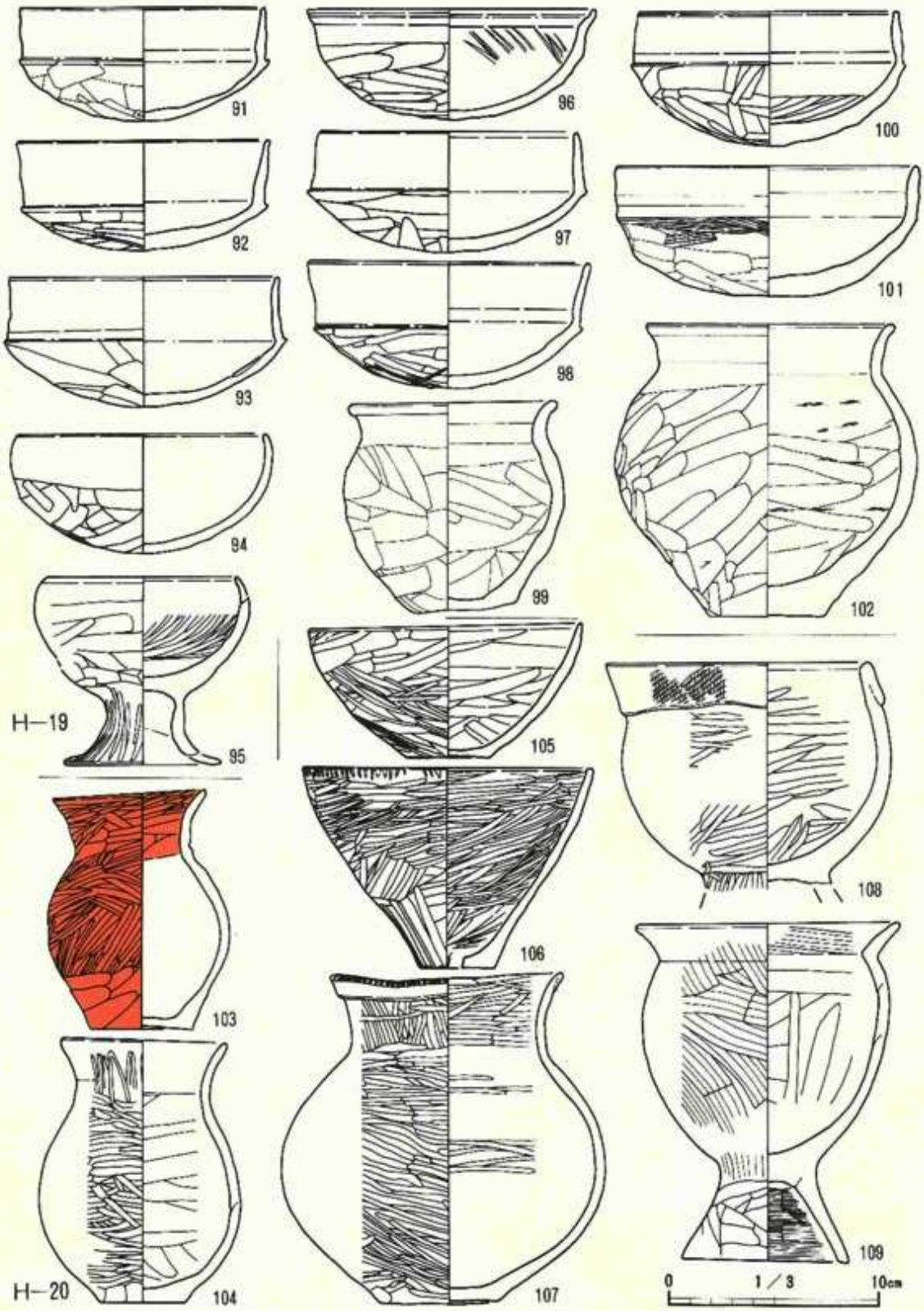


Fig. 48　H−19・20号住居址出土の土器

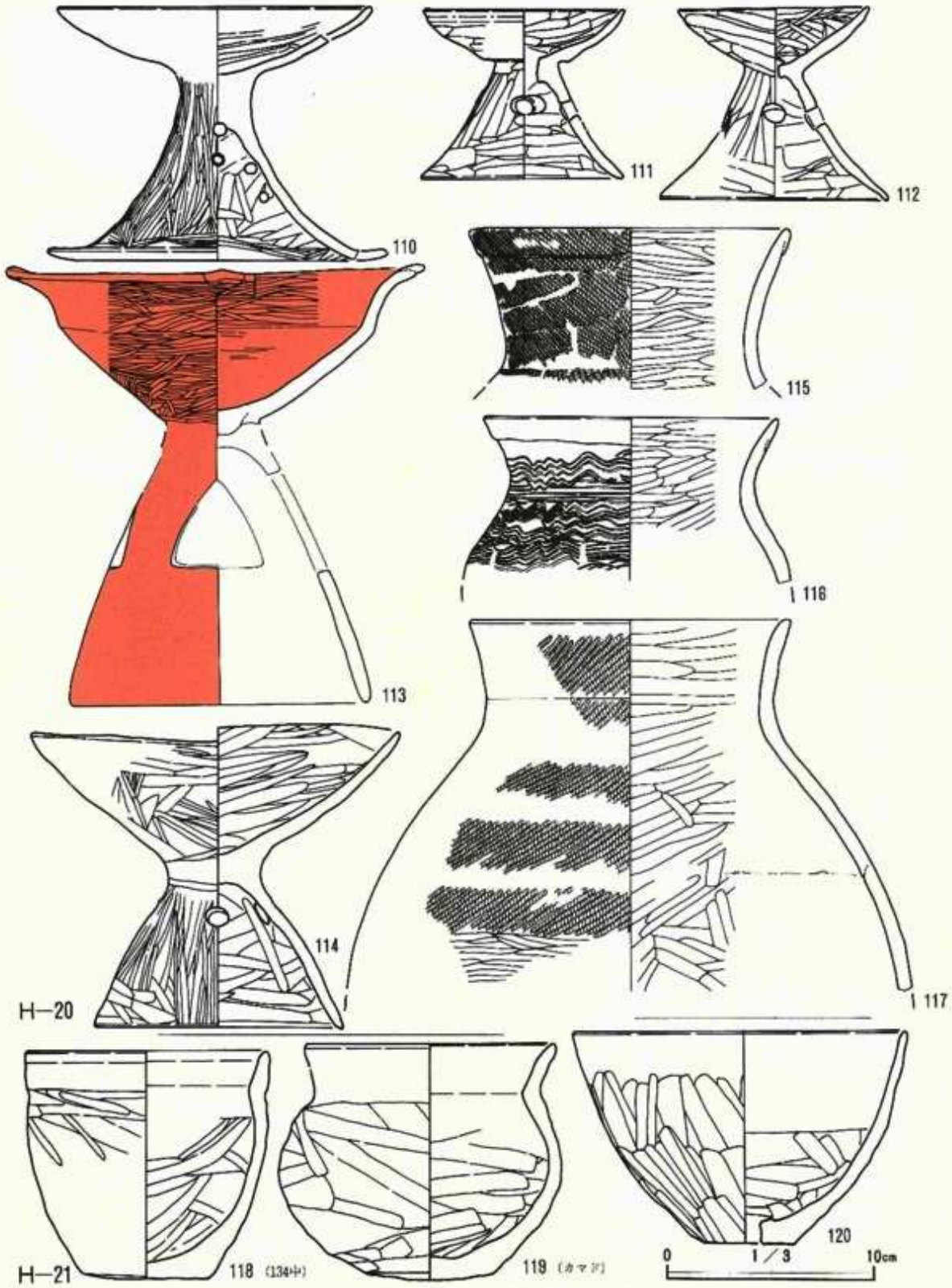


Fig. 49　H－20・21号住居址出土の土器

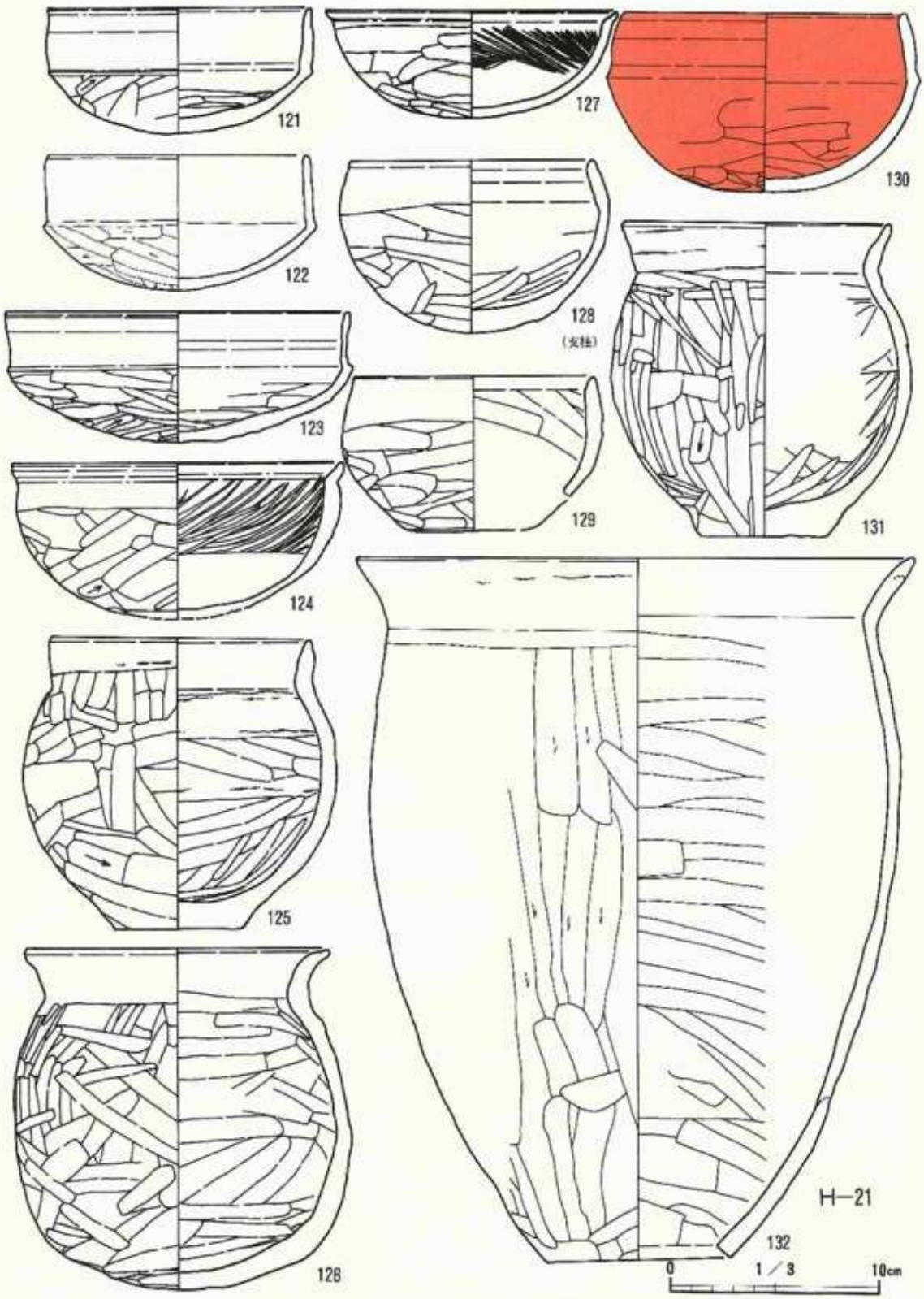


Fig. 50　H−21号住居址出土の土器

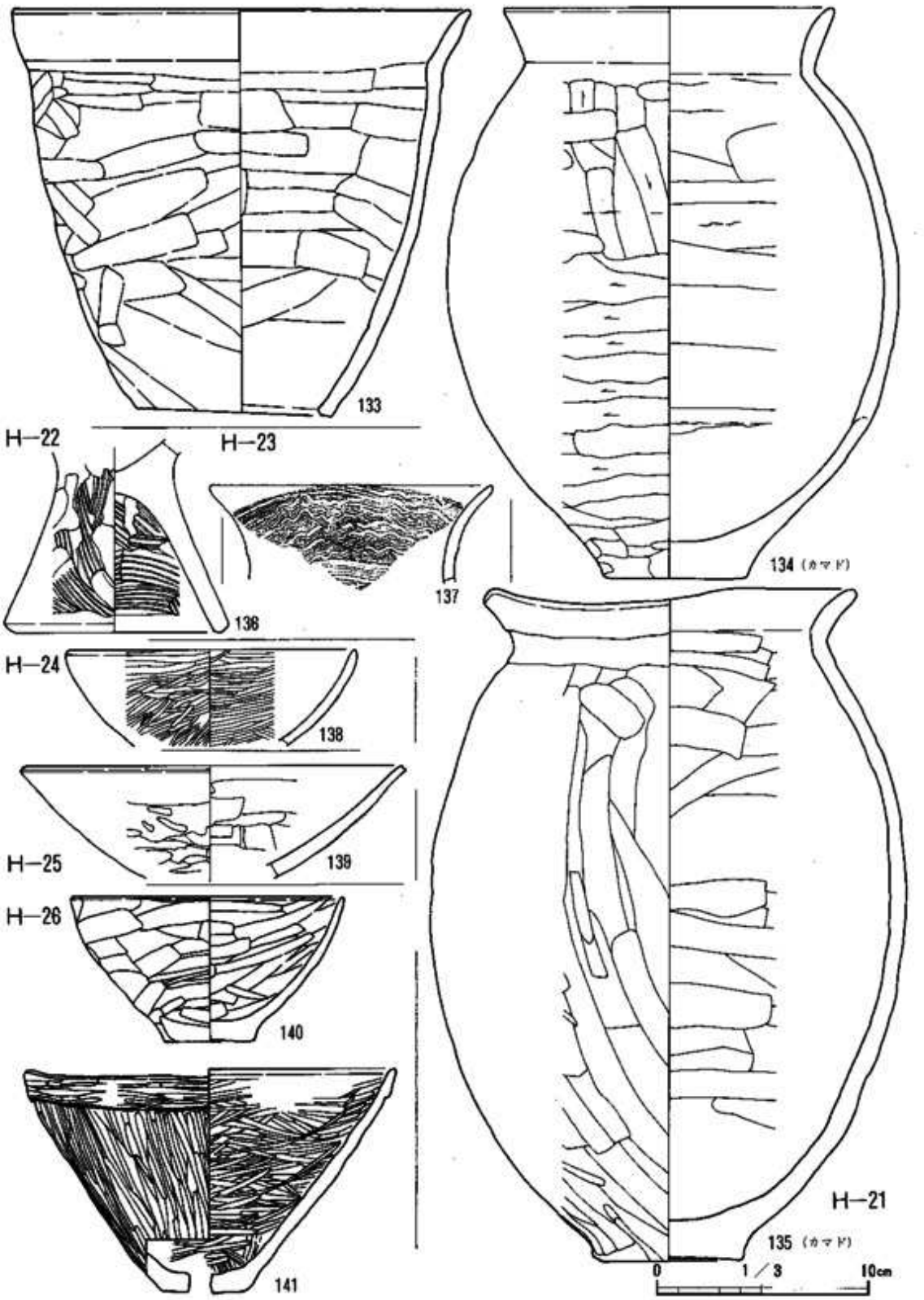


Fig. 51 H－21～26号住居址出土の土器

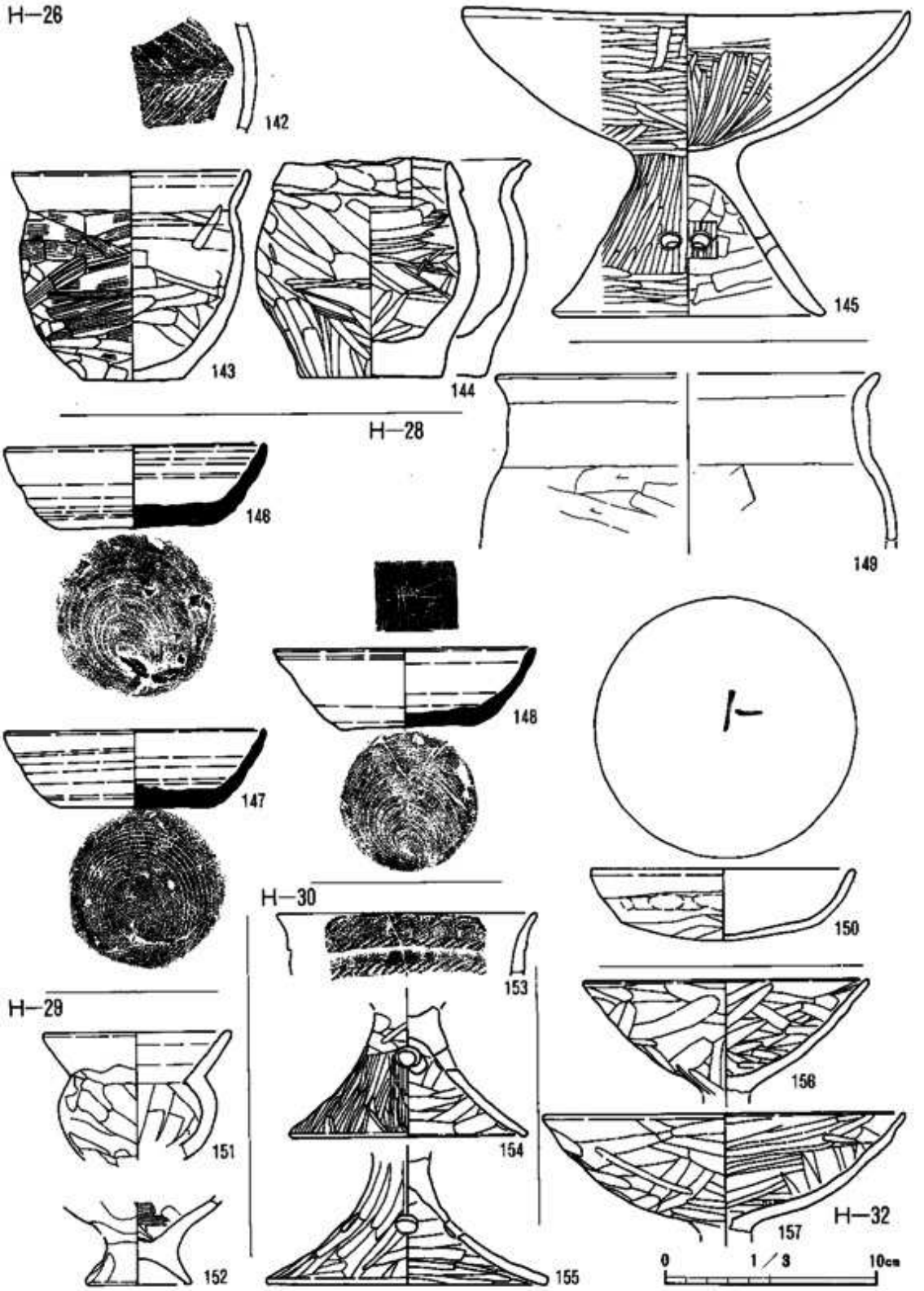


Fig. 52　H−26・28〜30・32号住居址出土の土器

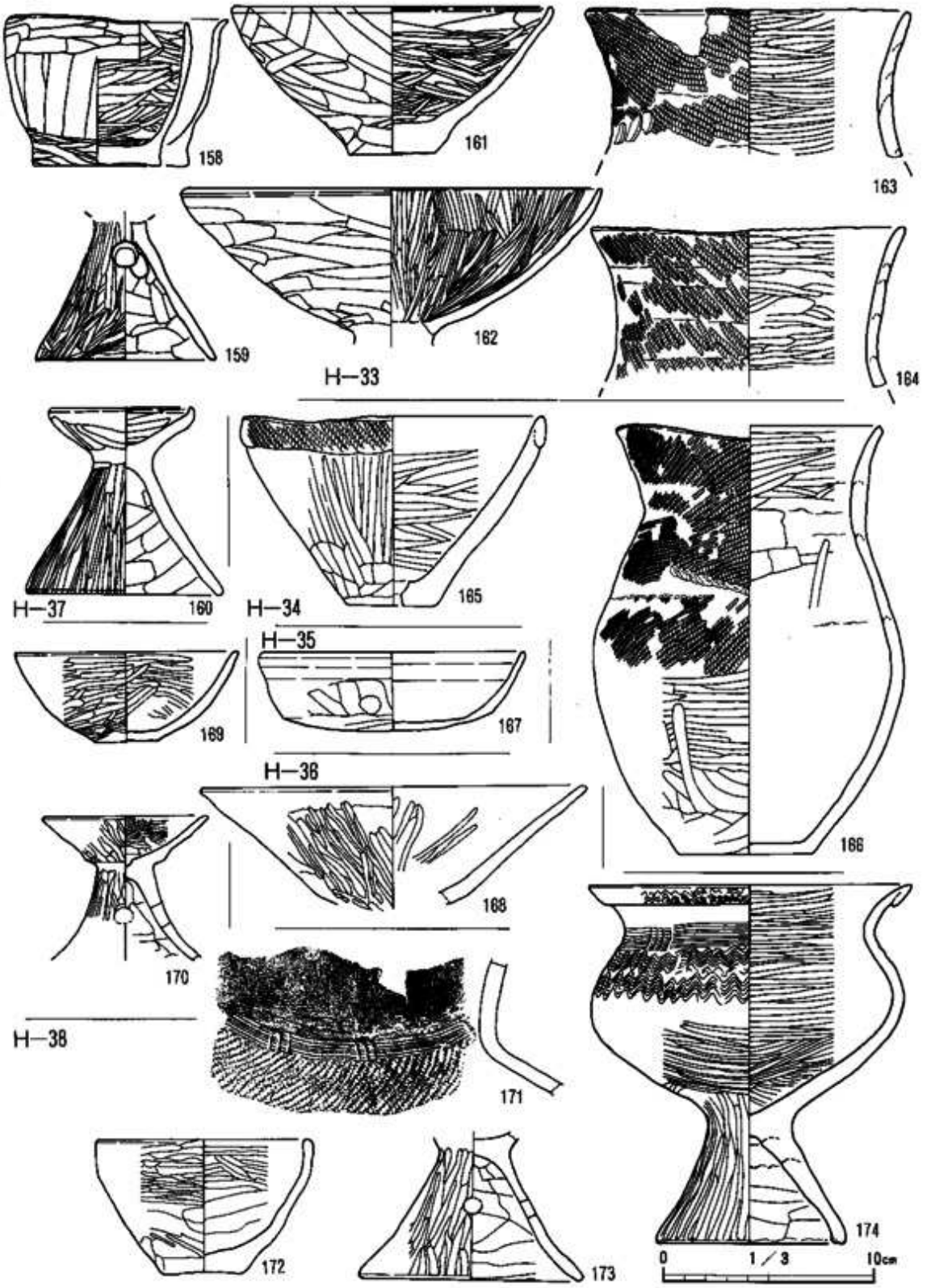


Fig. 53 H－33～38号住居址出土の土器

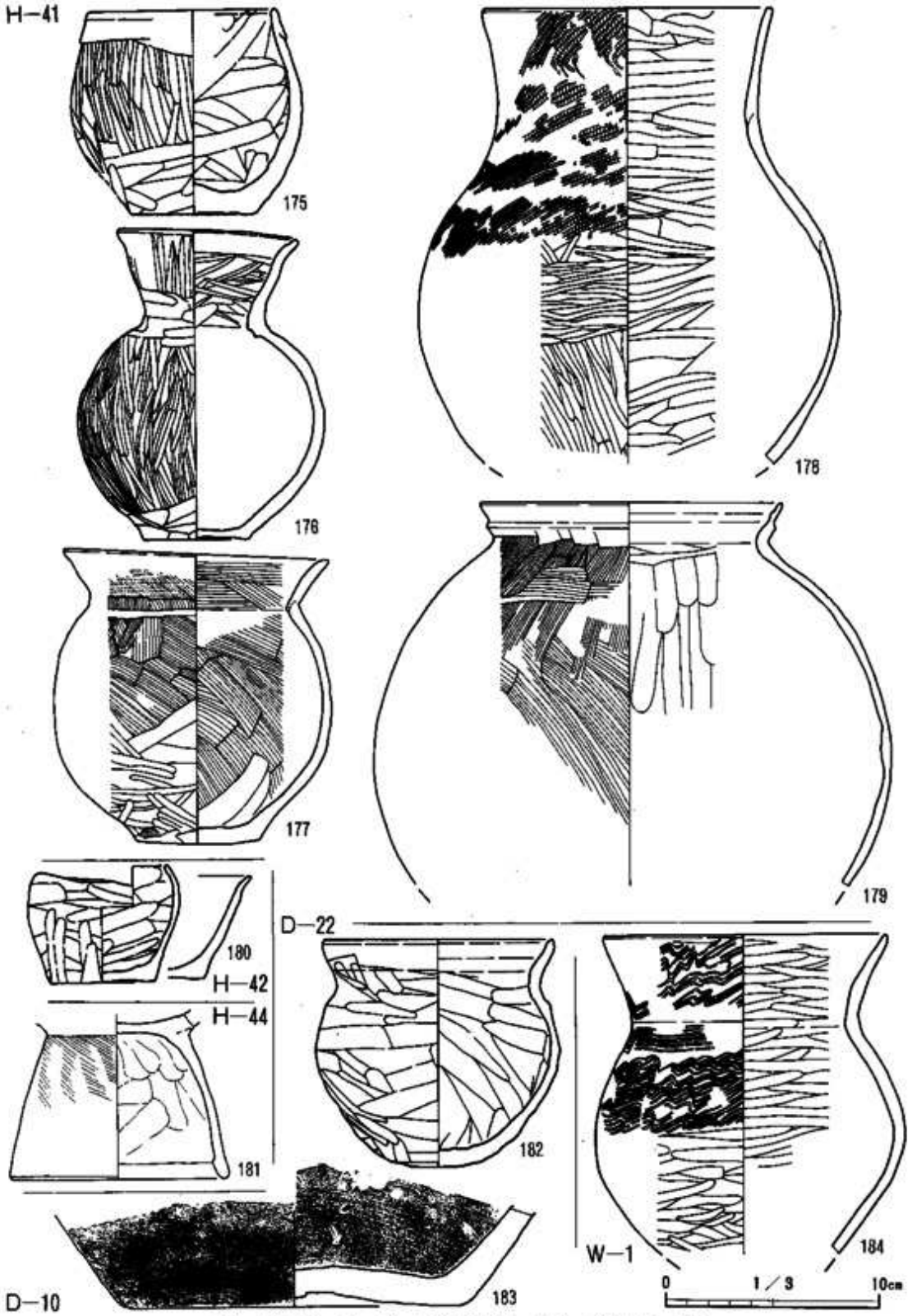


Fig. 54　H−41・42・44号住居址、土坑、溝出土の土器

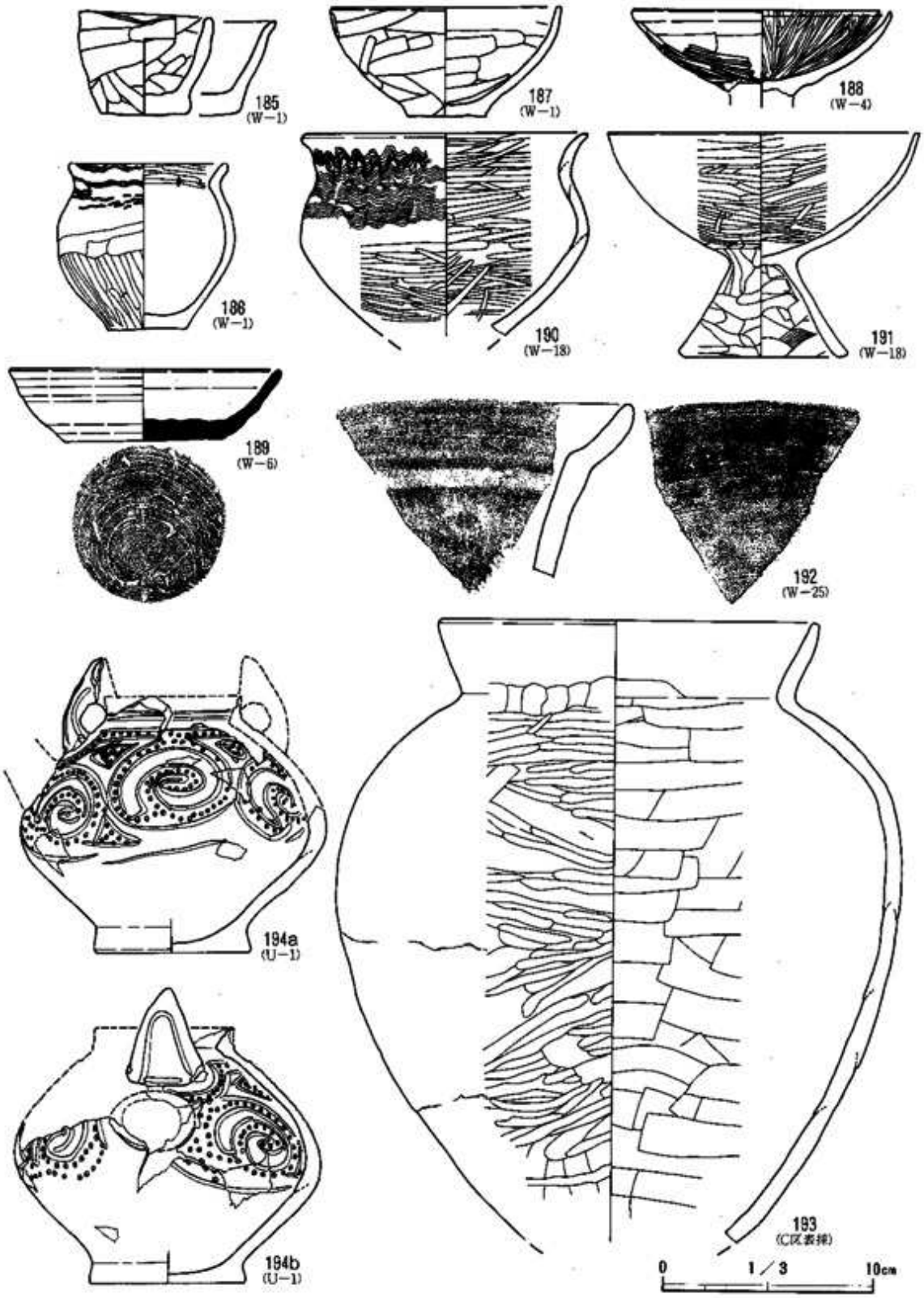


Fig. 55 溝・埋設土器・グリッド出土の土器

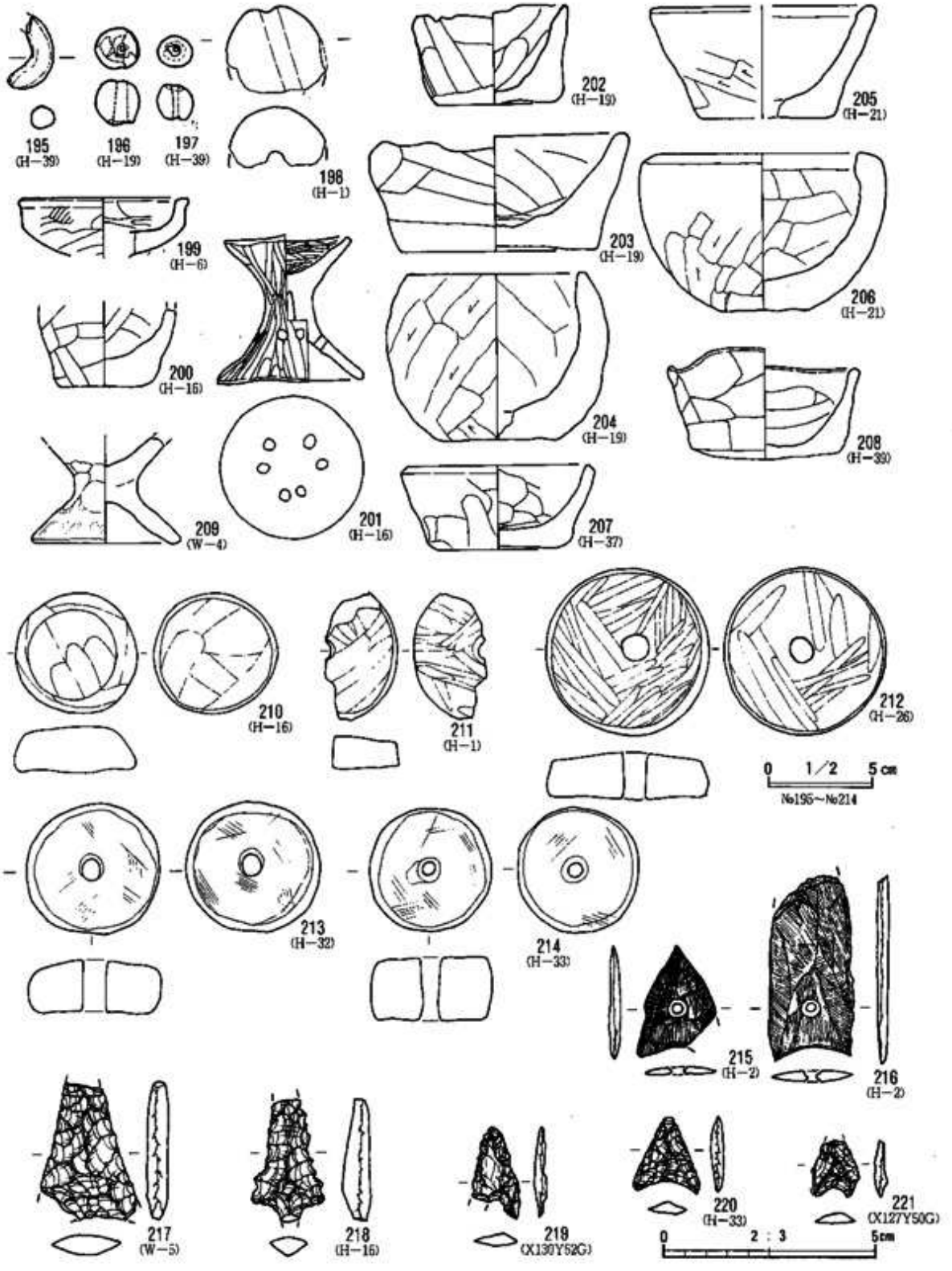


Fig. 56 土製品・手捏土器・石器

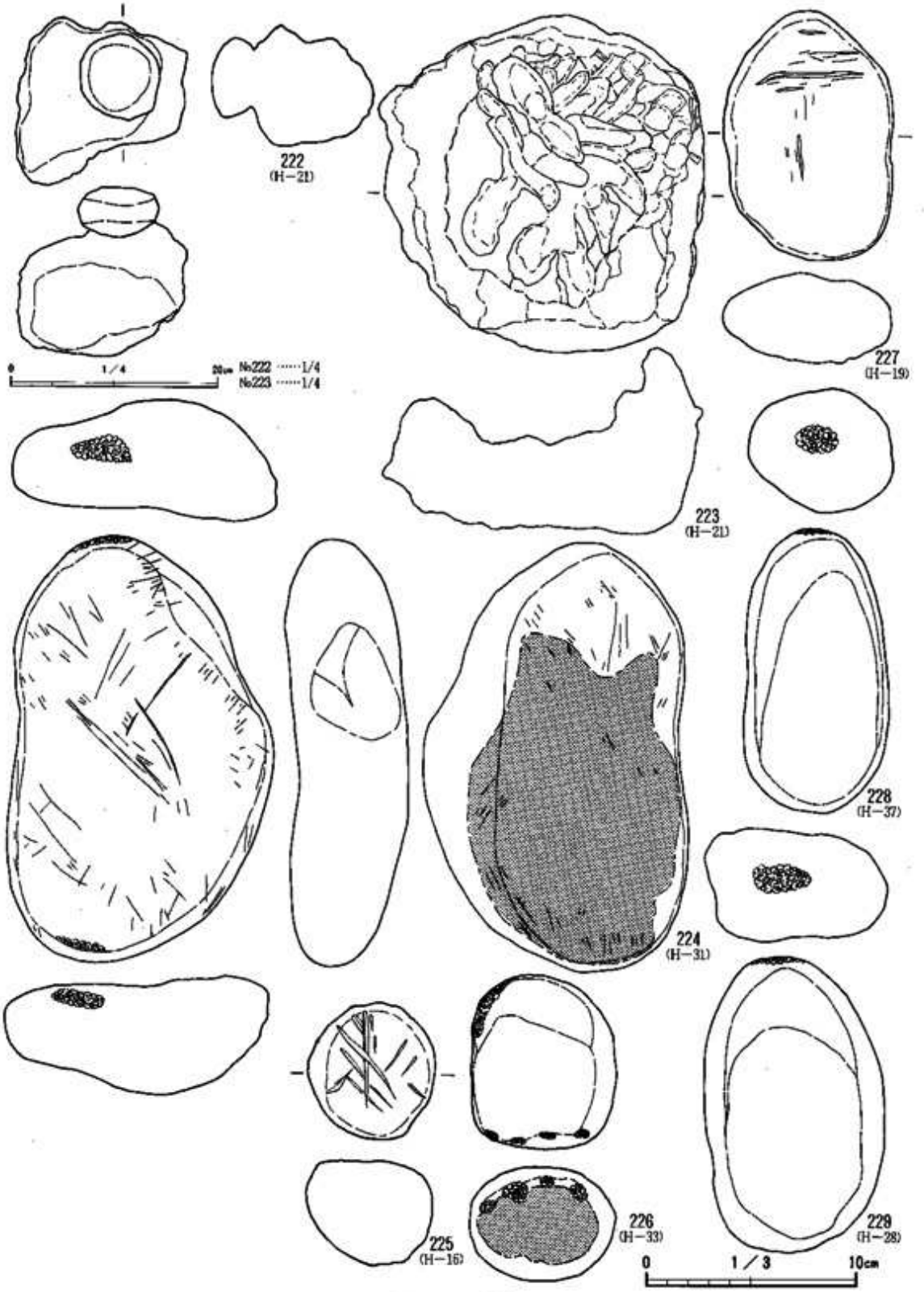

222
(H-21)
227
(H-19)
223
(H-21)
228
(H-37)
224
(H-31)
225
(H-16)
226
(H-33)
229
(H-28)
№222 ……1/4
№223 ……1/4
0 1/4 20cm
0 1/3 10cm

Fig. 57 石器

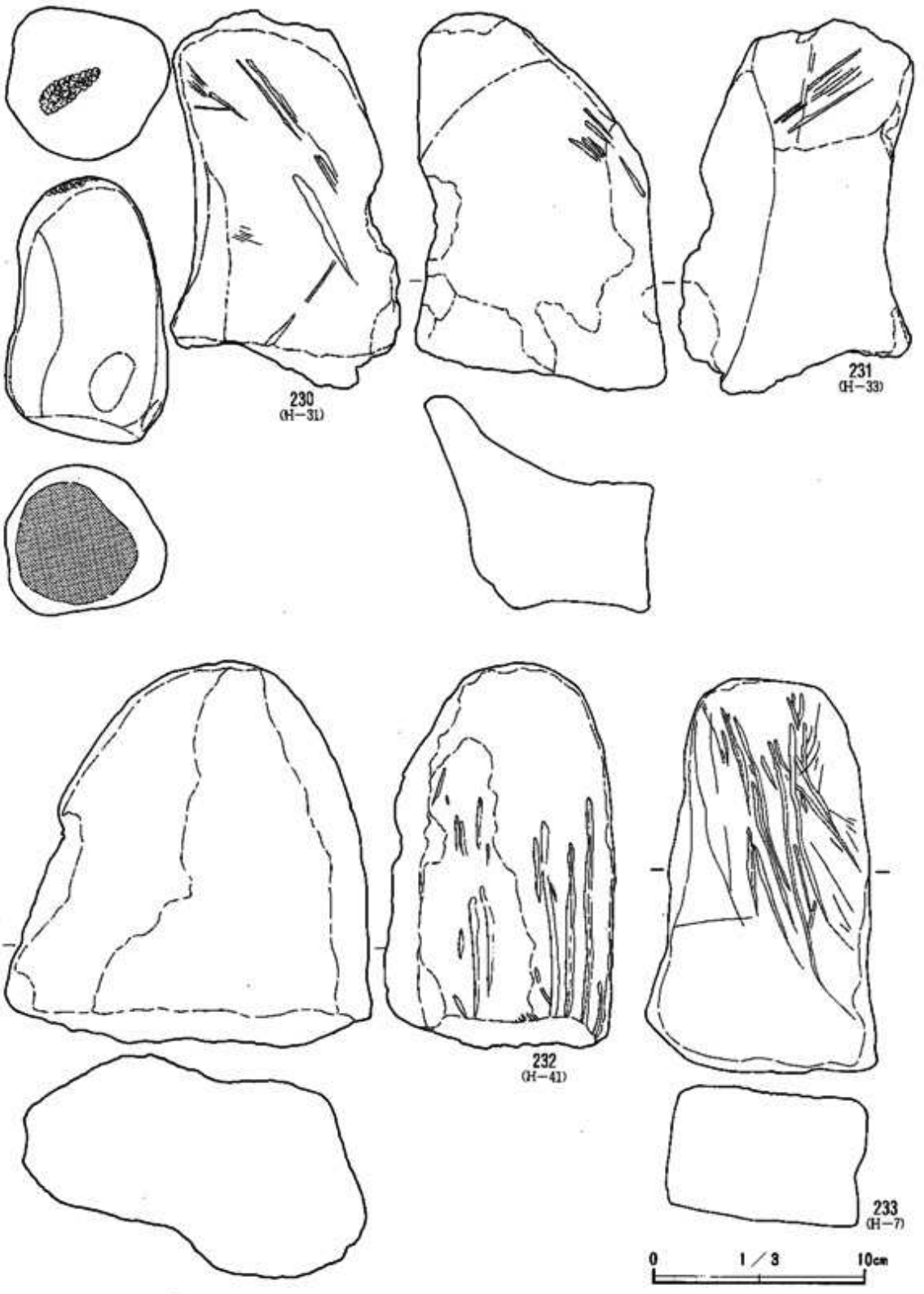


Fig. 58 石器

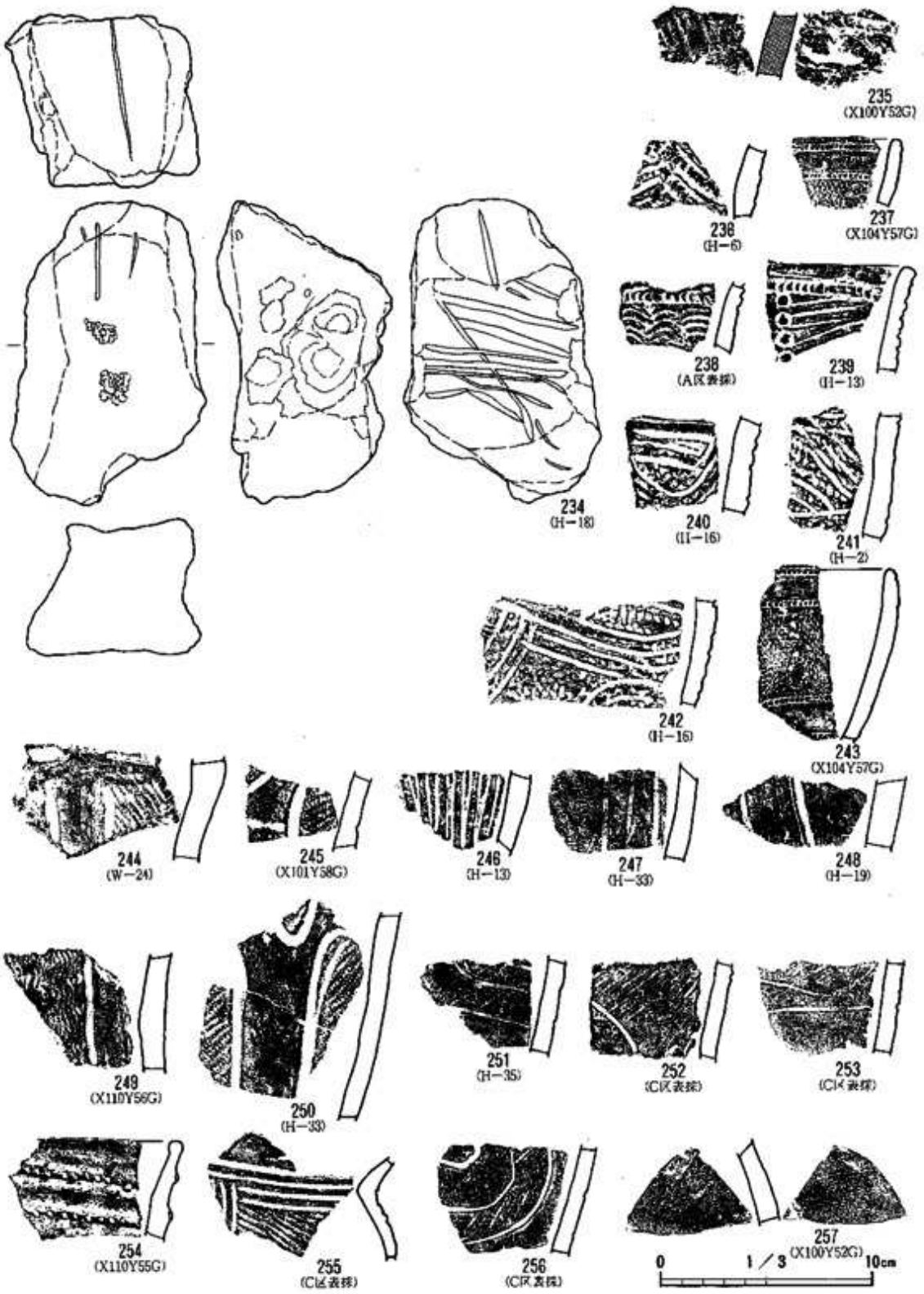


Fig. 59　石器・縄文土器・常滑焼

Tab.4　発掘調査報告書抄録

ふりがな	うちぼりいせきぐんろく
書名	内堀遺跡群Ⅵ
副書名	大室公園造成に係る埋蔵文化財発掘調査概報
巻次	第6巻
シリーズ名	該当なし
シリーズ番号	該当なし
編著者名	群馬県前橋市教育委員会管理部文化財保護課埋蔵文化財係　主査　関口　孝 〃　〃　主任　前原　豊 〃　〃　主任　戸所慎策
編著機関	群馬県前橋市教育委員会管理部文化財保護課
編著機関所在地	〒371 群馬県前橋市上泉町664番地－4
発行年月日	1994（平成6）年3月31日

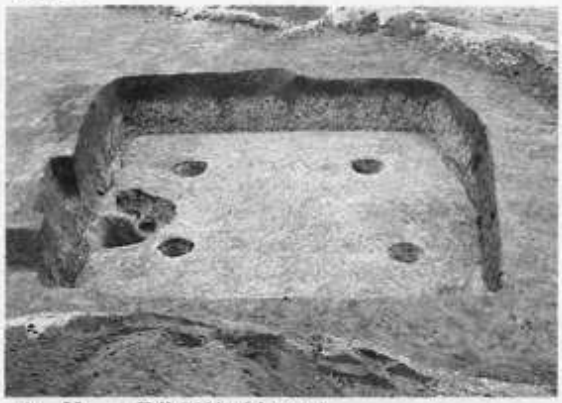
ふりがな 所収遺跡群名	ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
内堀遺跡群（うちぼりいせきぐん）	下縄引Ⅱ遺跡（しもなわびき）	前橋市西大室町（まえばししにしおおむろまち） 2525-1ほか	10201	5E11	36°23′15″	139°12′00″	19930426～ 19930810	3130	公園造成

所収遺跡群名 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内堀遺跡群 下縄引Ⅱ遺跡	包含層	縄文時代	集石 埋設土器		
	集落	弥生時代終末～古墳時代前期	住居址 溝	土師器（石田川式土器・赤井戸式土器・樽式系土器・十王台式土器・手捏土器・土製勾玉・磨製石鏃・砥石）	弥生時代終末から古墳時代前期の県内を代表する集落。昭和55年の上縄引遺跡と有機的な関連を有し、遺跡群として構造的に把握できる。
	集落	古墳時代後期	住居址	土師器・須恵器・土製品	
	集落	平安時代	住居址		
	集落	中世	溝濠		

1．平成５年度内堀遺跡群発掘調査区域全景（南から空撮）

2．平成５年度内堀遺跡群発掘調査区域全景（東から空撮）

PL.2



1．H－1号住居址（東から）

2．H－1号住居址遺物出土状態（西から）

3．H－1号住居址貯蔵穴（南西から）

4．H－2号住居址（南から）

5．H－3号住居址（北から）

6．H－4号住居址（北から）

7．H－5号住居址（南から）

8．H－6号住居址（南から）

1．H－6号住居址の竈（西から）

2．H－7号住居址（南から）

3．H－7号住居址の竈（西から）

4．H－8号住居址（西から）

5．H－11号住居址（西から）

6．H－12号住居址（北西から）

7．H－13号住居址（南から）

8．H－13号住居址遺物出土状態（南西から）

PL.4

1．H－15号住居址（西から）

2．H－16号住居址（南から）

3．H－17号住居址（南西から）

4．H－17号住居址遺物出土状態（南から）

5．H－17号住居址の竈（西から）

6．H－18号住居址（西から）

7．H－18号住居址の竈（西から）

8．H－19号住居址（西から）

1．H－19号住居址の竈（西から）

2．H－20号住居址（北から）

3．H－21号住居址の竈（西から）

4．H－21号住居址の竈（西から）

5．H－21号住居址の竈（西から）

1．H－21号住居址（西から）

2．H－21号住居址遺物出土状態（西から）

3．H－21号住居址遺物出土状態（西から）

4．H－22号住居址（西から）

5．H－23号住居址（西から）

6．H－24号住居址（北西から）

7．H－26号住居址（西から）

8．H－26号住居址貯蔵穴（北西から）

1．H－28号住居址（西から）

2．H－28号住居址の竈（南から）

3．H－29号住居址（東から）

4．H－30号住居址（南から）

5．H－31号住居址（南から）

6．H－32号住居址（西から）

7．H－33号住居址（南西から）

8．H－34号住居址（西から）

1．H—35号住居址（南から）

2．H—36号住居址（西から）

3．H—37号住居址（東から）

4．H—38号住居址（南西から）

5．H—41号住居址（東から）

6．H—41号住居址遺物出土状態（北から）

7．H—42号住居址（西から）

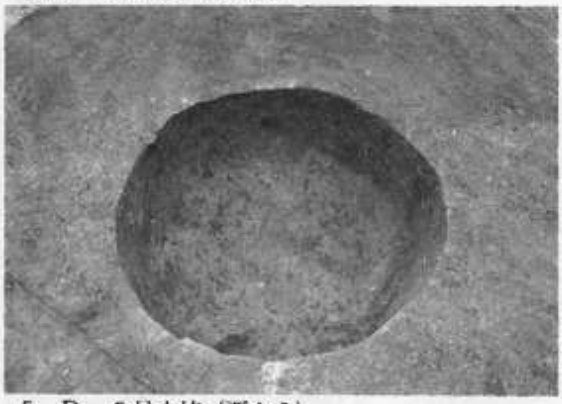
8．H—44号住居址（南から）

1．W－2号溝（西から）

2．W－3号溝（東から）

3．W－12号溝（南から）

4．W－14号溝（南から）



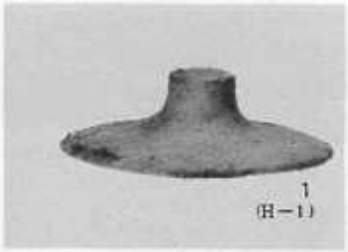
5．D－5号土坑（西から）

6．D－14号土坑（南から）

7．S－1号集石（南から）

8．記念撮影

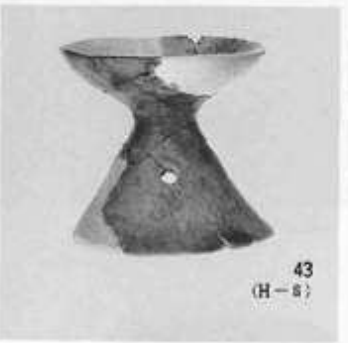
PL.10

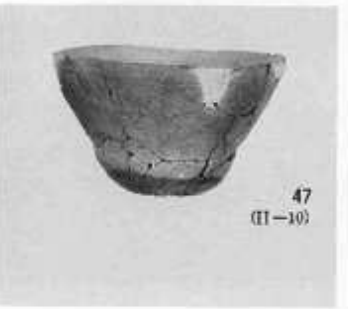

1
(H－1)

15
(H－2)

22
(H－4)

26
(H－5)


43
(H－8)


47
(II－10)

8
(H－1)

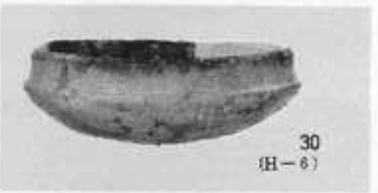
7
(H－1)

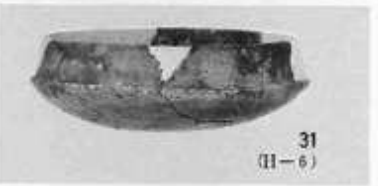
39
(II－7)

34
(H－7)

6
(H－1)

24
(H－5)


30
(H－6)


31
(II－6)

38
(II－7)

58
(H-15)

59
(H-15)

49
(H-13)

62
(H-16)

70
(H-17)

71
(H-17)

54
(H-13)

55
(H-13)

200
(H-16)

201
(H-16)

65
(H-16)

69
(H-17)

64
(H-16)

67
(H-17)

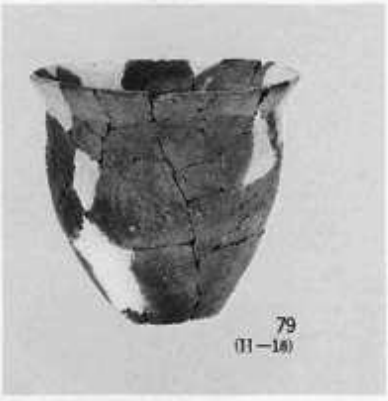
PL. 12

76
(II-18)

91
(II-19)

94
(II-19)

96
(II-19)


79
(II-18)

202
(II-19)

208
(II-39)

85
(II-19)

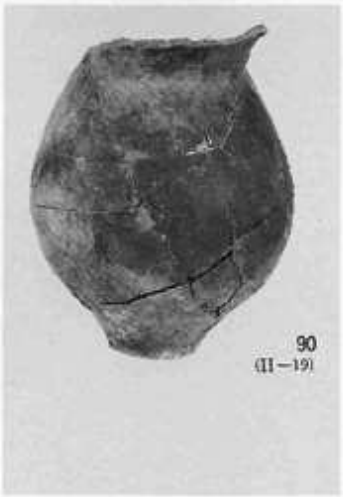
78
(II-18)

81
(II-19)

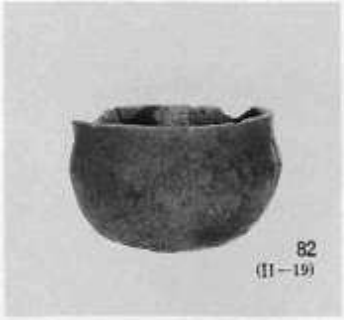
99
(II-19)

83
(II-19)

102
(II-19)


90
(II-19)

87
(II-19)


82
(II－19)

111
(H－20)

112
(II－20)

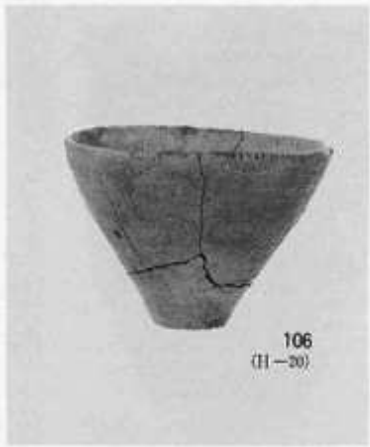
103
(H－20)

92
(H－19)

105
(H－20)

104
(H－20)

114
(II－20)


106
(H－20)

109
(H－20)

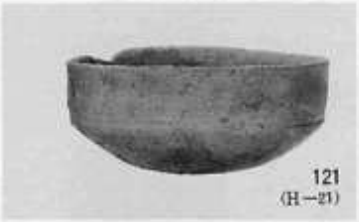
107
(II－20)

119
(H－21)

125
(H－21)

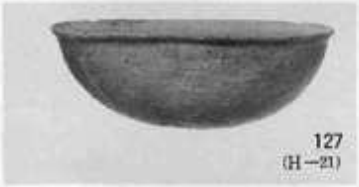
131
(H－21)

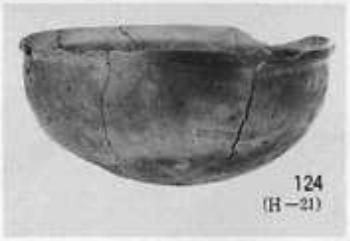
PL. 14


121
(H−21)

129
(H−21)

133
(H−21)


127
(H−21)

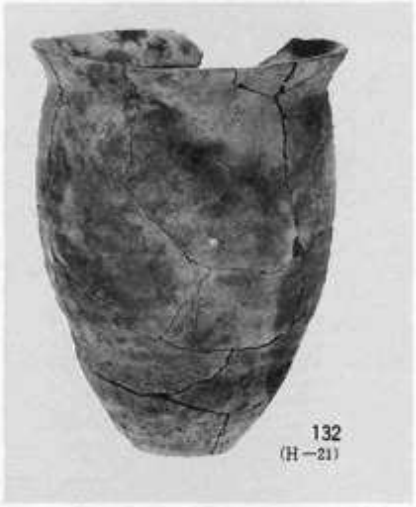

124
(H−21)

140
(H−26)

120
(H−21)

143
(H−26)

134
(H−21)


132
(H−21)

147
(H−28)

144
(H−26)

148
(H−28)

141
(H−26)

145
(H−26)

158
(H-33)

161
(H-33)

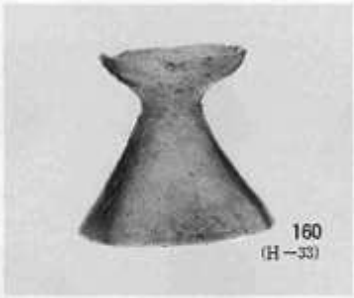
177
(H-41)

180
(H-42)

185
(W-1)

194a
(U-1)

194b
(U-1)


160
(H-33)

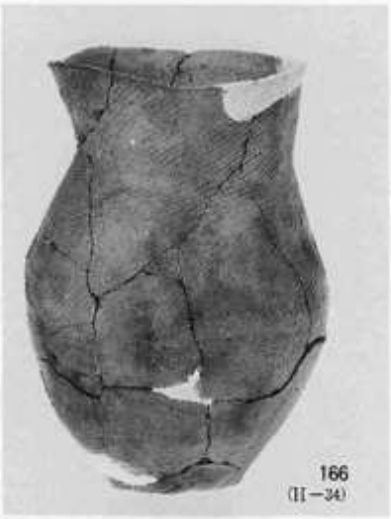
174
(H-38)

176
(H-41)

187
(W-1)

189
(W-6)

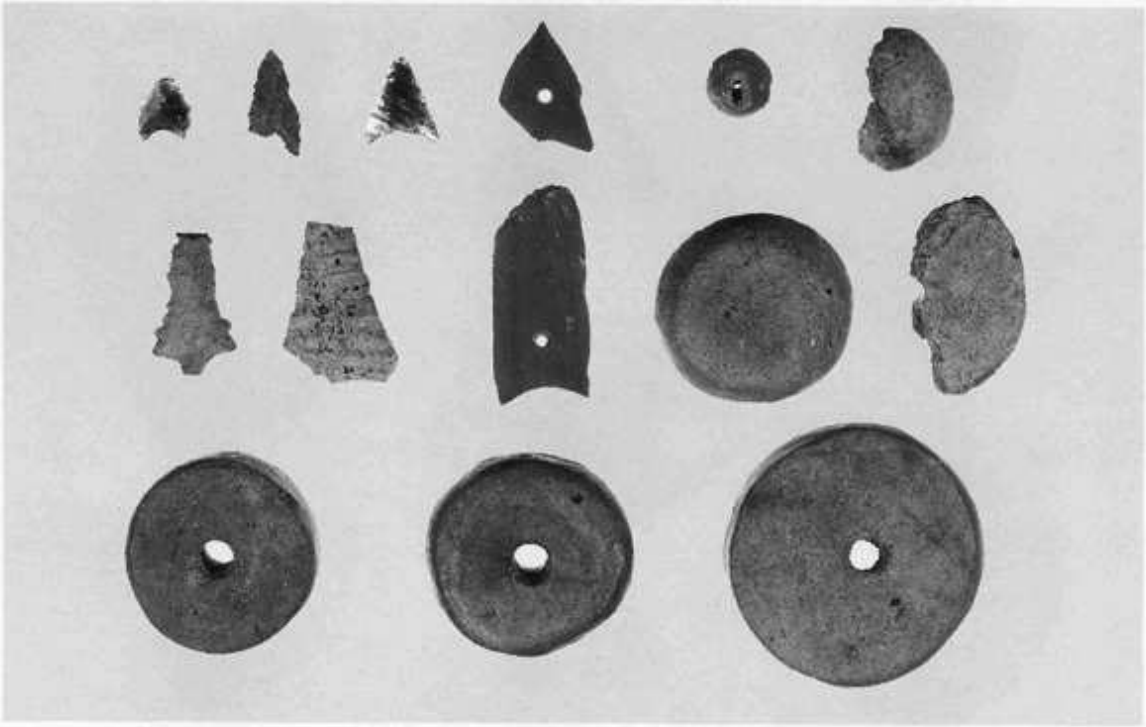
222
(H-21)


166
(H-34)

165
(H-34)

184
(W-1)

223
(H-21)



1．石器・土製品

2．石器・石製品

調　査　要　項

遺跡名称	内堀遺跡群下縄引Ⅱ遺跡
遺跡記号	5E11
遺跡所在地	群馬県前橋市西大室町2525番地－1ほか
調査期間	発掘調査　平成5年4月26日～平成5年8月10日 遺物整理・報告書作成　平成5年11月1日～平成6年3月18日
調査面積	3,130㎡
開発面積	369,000㎡
調査原因	公園造成
調査主体者	前橋市教育委員会　教育長　岡本信正
文化財保護課	課長　町田重雄　文化財専門員　阿久津宗二 埋蔵文化財係　係長　高橋正男　主査　関口　孝　副部守央　主任　井野誠一　前原　豊 真塩欣一　伊藤　良　狩野吉弘　戸所慎策　新井真典　主事　大山知久 文化財保護係　係長　宮下　寛　主査　駒倉秀一　主任　山口宗男　井野修二　井上敏夫　斎藤仁志
調査担当者	関口　孝　前原　豊　戸所慎策
調参加者	石井春江　板垣真紀　伊藤孝子　岡田誉富　岡野幾代　川島勝治　神沢方子 木村源次郎　木村トヨ　木村はる子　久保もり子　佐藤佳子　佐野勝次郎　関　トシ子 関口みよ子　高橋弘志　高橋やすの　竹内るり子　田中善四郎　角田正次郎　冨岡和子 内藤敦子　内藤貴美子　主代伸治　萩原和子　牧野せつよ　蜂岸あや子　山田茂雄 吉田真理子　八木原きぬ子　小保方豊五郎
調査協力	群馬県教育委員会文化財保護課　群馬県埋蔵文化財調査事業団　粕川村教育委員会 公園緑地部公園緑地課　上野克巳　川島雅人　加部二生　小島純一　杉山秀宏　早田　勉 大工原　豊　巾　嗣之　細野高伯　松本　保　山下歳信　イズミトレス　古環境研究所 たつみ写真スタジオ　シン技術コンサル　青高館　丹生サーヴェイ　井上測量

内堀遺跡群Ⅵ

平成6年3月20日　印　刷
平成6年3月31日　発　行

編集発行　前橋市教育委員会文化財保護課
〒371　前橋市上泉町664－4
TEL　0272－31－9531
印　刷　松本印刷工業株式会社